

生活クラブ生協・東京
組合員に関するアンケート(2010 年)
報告書

西城戸誠（法政大学人間環境学部）

角一典（北海道教育大学）

目次

はじめにー調査の概要と調査方法	1
第1章 組合員（回答者）のプロフィール	3
第2章 生活クラブ生協の加入形態と加入動機	8
第3章 組合員の購入行動と購入態度	15
第4章 生活クラブ生協の組織的活動への参加と評価	35
第5章 組合員（回答者）の意識行動	56
付録1 調査票	66
付録2 生活クラブ生協に関連した文献一覧	81

執筆者

西城戸誠（法政大学人間環境学部・准教授）	はじめに、第1章、第2章、第4章、第5章、付録1
角一典（北海道教育大学教育学部旭川校・准教授）	第3章、付録1、2

はじめにー調査の概要と調査方法

1 調査の目的と概要

格差社会を引き起こしつつある市場万能主義的な経済システムをはじめ、現在の政治・経済・社会システムの変換が求められている中、生活クラブ生協をはじめとした協同組合の活動は、オルタナティブな社会の構築を目指す「運動性」と、大資本に対して対抗できる「事業性」の両立を目指していると考えられる。本報告書の執筆者（西城戸、角）は、こうした市民セクターとしての生活クラブ生協の現在と今後の展開可能性について、学術的な研究を行いながら、実践的な課題に答えるべく、模索している。これまで私たちは、2006年10月に戸配組合員が増加しつつある生活クラブ生協・北海道の実態の現状と課題を把握すべく、組合員調査を実施した（西城戸誠・角一典『2006年度 生活クラブ生協北海道に関する調査報告書』（2007年、法政大学人間環境学部））。具体的な調査項目としては、生活クラブ生協に加入された動機、生活クラブ生協に対する関わり方、組合員の方々の購入活動、生活クラブ生協に関わる諸活動、社会に対する一般的な考え方を組合員に伺った。

この調査を実施した背景には、生活クラブ生協を対象とした調査研究は、1980年代半ばから東京の生活クラブ生協を対象としたものが行われてきているものの、地方都市における生活クラブ生協を対象とした調査や、班員だけではなく戸配組合員も含めた組合員調査はほとんどないという点が挙げられる。現状と調査による知見の「ズレ」がある中で、「転換期」を迎えている生活クラブ生協の現在の姿と今後のあり方を考えるために、本調査プロジェクトは企画された。

さて、今回、生活クラブ生協・東京の組合員調査を実施させていただいた理由は、班配送に加えて戸別配送を実施し、「まち」の活動を展開するなど、全国の生活クラブの中でも一歩先の活動を展開されている生活クラブ東京の実態を捉えることで、北海道をはじめ他の生活クラブ生協の「将来」を見据える作業を行おうと考えたためである。また、私たちの研究グループでは、生活クラブ生協における次世代の組合員リーダーの再生産が、どのようになされているのか、という点も関心を持っている。それは、生活クラブ生協だけではなく、他の生協で採用されていた「班別予約共同購入」システムによる「班」が組合員リーダーを醸成していくという議論から転換し、戸別配送組合員が主流になった現在、どのような組合員が組合員リーダー（委員・理事）になっていくのかという点を確認していくことでもある。本報告書では、この点について十分に検討されているわけではないが、本調査によって、生活クラブ生協の今後について考えるきっかけと、生活クラブ生協東京の第5次長期計画策定の議論に少しでも貢献できれば幸いである。

2 調査方法

本調査の実施主体は、西城戸誠（法政大学）と角一典（北海道教育大学）であるが、調査票の作成（調査内容、調査項目の設定）にあたっては、生活クラブ生協東京の専務理事、理事等の協議と了承のもと、2010年9月に実施された。調査票の配布については、組合員の個人情報の問題をクリアするために、生活クラブ生協東京が実施した。したがって、本報告書の執筆者が回答者個人を特定することはできない。

さて、調査当時（2010年9月）段階の組合員人数は、60297人であり、まち別にランダムサンプリングをして5000名の組合員を抽出し、調査対象者を確定した。回収したサンプルは、2075名であ

り、回収率は41.5%であった。表0-1は、調査当時の組合員について、世代と班・戸配別の人数を表したもの（出典は生活クラブ生協東京）であり、表0-2は調査データの結果である。これらの表から、本調査の回答者は、30代と40代がやや少なく、60代と70代の回答者がやや多いことがわかる。さらに、40代の班組合員が少なく、60-70代の班組合員が多いことも特徴である。これらの点は本調査のバイアスであり、以下の分析の解釈にも一定の配慮が必要である。

表0-1 組合員の加入形態と世代(在籍者データ)				表0-2 組合員の加入形態と世代(調査回答者)			
	班	戸配	全体		班	戸配	全体
20代	1.0	1.3	1.2	20代	0.2	0.9	0.7
30代	7.6	14.0	12.6	30代	3.6	12.7	10.3
40代	21.9	23.3	23.0	40代	13.4	21.1	19.1
50代	32.2	27.7	28.7	50代	28.9	28.5	28.6
60代	25.0	22.5	23.0	60代	35.7	27.1	29.4
70代	8.5	7.0	7.4	70代	15.5	8.2	10.1
80代	1.7	1.8	1.7	80代	2.6	1.3	1.7
不明	2.1	2.5	2.4	合計	100.0(529)	100.0(1504)	100.0(2033)
合計	100.0(13396)	100.0(46901)	100.0(60297)	値は%(実数)			
値は%(実数)							

3 本報告書の構成

本報告書の構成は、以下の通りである。第1章では、回答者の基本的な属性を概観する。第2章では、生活クラブ生協への加入形態と加入動機を中心に分析をする。第3章では、生組合員の購入行動と購入態度の特徴について分析を行う。第4章では、さまざまな生活クラブ生協の活動に対する参加度・評価を中心に、世代別、役職経験の有無といった観点から分析を行う。第5章では、組合員のさまざまな意識に関して、主に世代別の動向を概観する。

なお、調査実施から報告書の作成までに時間がかかり、調査のご協力していただいた組合員の方、生活クラブ生協東京の方にはご迷惑をおかけしたことを、お詫び致します。本報告書の内容は、調査内容の概要的なものが多く、生活クラブ生協東京の今後のあり方を考える基礎的な分析にすぎないかもしれませんが、お役に立てれば幸いです。

第1章 組合員（回答者）のプロフィール

1-1 回答者の性別と世代、所在地

本調査の有効回答数は 2075 であり、そのうち男性：24（1.2%）、女性：2027（97.7%）、不明：24（1.2%）であった。『2009 年全国生協組合員意識調査』（以下、全国生協調査）の東京版¹のデータでは、東京都の 3 生協は 90%～95%が女性であり、本調査データとほぼ変わらない（なお、全国平均は 90.4%）。また、回答者の世代（表 1-1）を見ると、今回の調査結果から判断すると、東都生協と同様に 60 代以上の組合員が全体の 4 割弱を占めている一方、30 代の比較的に若い組合員も在籍していることが見いだせる。つまり、東京都に存在する 4 つの生協のうち、コープとうきょうとパルシステムは比較的若い世代、東都生協と生活クラブ生協は上の世代が主力の組合員であるが、生活クラブ生協は東都生協よりは若い世代の組合員も加入していることが見いだせる。

なお、生活クラブ生協・東京における回答者の平均年齢は、55.69 歳（N=2036）であり、男性は 54.29 歳（N=24）、女性は 55.70 歳（N=2011）であった。

	生活クラブ生協・東京	コープとうきょう	パルシステム東京	東都生協	3東京生協・合計	全国調査・合計
20代	0.7	2.8	4.0	0.0	2.6	2.4
30代	10.1	19.5	25.4	2.2	18.1	13.9
40代	18.7	23.4	26.2	21.3	23.7	22.2
50代	28.0	23.2	17.5	32.6	23.4	24.4
60代	28.8	16.4	15.1	28.1	17.9	21.2
70代	9.9	7.3	4.0	9.0	6.9	8.6
80代	1.6	2.3	2.4	1.1	2.1	2.3
無回答	2.0	5.1	5.6	5.6	5.3	5.0
合計	100.0(2075)	100.0(354)	100.0(126)	100.0(89)	100.0(569)	100.0(4304)
値：％(実数)						

回答者の組合員歴は、表 1-2 の通りである。当然のように世代が上がるにつれて、組合員歴が長い組合員が増加していることがわかるが、50 代以上でも 10 年未満の組合員歴の割合が一定程度存在している理由は、戸配組合員であるためである。

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
3年未満	45.0	17.1	7.0	4.5	6.3	12.3
10年未満	49.3	37.2	15.4	14.9	11.7	22.8
20年未満	5.7	39.8	29.1	17.6	9.0	22.9
30年未満	0.0	5.6	43.0	37.6	24.8	27.2
30年以上	0.0	0.3	5.5	25.4	48.2	14.7
合計	100.0(209)	100.0(374)	100.0(532)	100.0(558)	100.0(222)	100.0(1895)
値：％(実数)						

¹ コープとうきょう・パルシステム東京・東都生協の 3 つの東京の生協別の単純集計・クロス表をまとめた報告書（2009 年 12 月）。

さらに、答者が所属するブロック、まちについては、表 1-2、1-3 の通りである。全体のサンプル数に比べて、所属ブロック、まちについての回答がない相対的に少ないことは、回答者が生活クラブ生協・東京の地域性をあまり意識していないことの現れかもしれない。

表1-3 回答者の所属・ブロック		表1-4 回答者が所属する「まち」			
23区南	19.5	あきしま	1.1	からきた	4.1
北東京	30.6	あきるの	1.0	きぬた	1.2
多摩きた	23.2	青梅	0.6	江東	0.8
多摩みなみ	25.8	きよせ	0.7	石神井	3.0
判読不能	1.0	国立	1.6	新宿	0.6
合計	100.0(1894)	小金井	2.3	すぎなみ北	2.3
値：％(実数)		国分寺	1.2	すぎなみ南	2.9
		小平	3.5	多摩	0.6
		立川	0.9	調布・狛江	2.6
		にしたま	0.5	中野	0.8
		西東京	2.9	なかの北	0.8
		東くるめ	1.2	練馬北	2.4
		東村山	1.2	練馬南	1.7
		東大和	0.8	八王子北	3.3
		武蔵野	1.9	八王子南	2.0
		武蔵村山	0.3	日野	2.3
		世田谷玉川虹のまち	3.7	府中	1.6
		あだち	1.8	町田	8.9
		あらかわ	0.6	三鷹	1.5
		板橋	5.1	港、品川宿	1.9
		稲城	1.0	目黒&渋谷南	1.4
		江戸川	1.1	豊島	1.9
		大泉	2.4	北	1.6
		大田	2.3	判読不能	9.2
		かつしか	1.1	合計	100.0(1774)
				値：％(実数)	

なお、以下の分析は、生活クラブ生協を始め、他の生協でも女性組合員が大半を占めることから、女性組合員（回答者数 2027）を中心に分析を実施する²。また、『2009 年全国生協組合員意識調査』の分析は性別による区別を行っていないことや、単純集計にあたっては無回答者を全体の比率に含めているため、無回答者の比率が高い場合、単純な比較ができない場合もあるが、その点を考慮した上で、東京における他の生協組織と生活クラブ生協・東京と比較することにした。

1-2 組合員の世帯構成

回答者の世帯の概要について見ていこう。まず、世帯構成であるが、全体としては 2009 年全国生協調査とほぼ変わらない（単身世帯：6.0%、夫婦のみの家族：25.0%、夫婦と未婚の子どもの世帯：46.2%、3 世代家族：11.4%）。傾向としては、三世代同居が相対的に多く（13.5%）、夫婦と子どもからなる世帯が 5 割弱（44.9%）である東都生協に近い。とはいえ、組合員全体としては、6・7 割の世帯に子どもがおり、それは回答者の世代によって、世帯構成が異なっていることがわかる（表 1-5）。

² 男性組合員の動向に関する分析も興味深いが、生活クラブ生協のこれまでの研究は女性を念頭とした研究が大半であり、その点を踏まえて、本報告書では女性組合員を主な分析対象としたい。

同居家族人数（表 1-6）については、2009 年全国生協調査とほぼ変わらないが、末子年齢（表 1-7）は、生活クラブ生協の特徴が見える。つまり、末子年齢が 0-6 歳である比率は、コープとうきょうが 34.9%、パルシステム東京が 50.6%、全国でも 34.5%に対して、生活クラブ生協・東京は 18.4%であり、東都生協（10.8%）に近い。

なお、回答者の婚姻の状況については、表 1-8 の通りであり、女性の組合員はほぼ既婚者（離死別も含む）と考えてよいであろう。

表1-5 回答者の家族構成×世代						
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
単身世帯	5.0	2.0	1.8	3.8	11.9	3.9
夫婦のみの世帯	12.4	8.7	14.9	44.0	50.3	25.7
夫婦と未婚の子のみの世帯	74.6	74.1	65.7	44.0	26.9	57.8
三世代同居世帯（親と夫婦と子）	8.0	13.7	16.4	6.2	6.2	10.8
その他	0.0	1.5	1.2	2.0	4.7	1.7
合計	100.0(201)	100.0(343)	100.0(505)	100.0(504)	100.0(193)	100.0(1746)
値は%						

表1-6 同居家族人数	
1人	4.4
2人	27.5
3人	29.2
4人	26.2
5人	8.9
6人	2.9
7人	0.8
8人	0.2
値は% N=1961	

表1-7 末子年齢構成	
0-3歳	11.8
4-6歳	6.6
7-12歳	12.9
13-15歳	6.9
16-18歳	8.8
19-22歳	13.0
23-34歳	30.0
35-49歳	9.3
50歳以上	0.6
値は% N=1253	

表1-8 婚姻	
既婚（有配偶）	89.8
既婚（離死別）	8.6
未婚	1.6
値は% N=1908	

表1-9 回答者の学歴	
中学	1.6
高校	23.5
専門学校	12.5
短大・高専	23.6
大学	36.7
大学院	2.1
値は% N=1901	

1-3 回答者とその配偶者の学歴、職業形態、職種

はじめに回答者の学歴（表 1-9）について見てみよう。一般的に若い世代ほど学歴が高いと言われているが、本調査の回答者も同様の傾向にある（表は省略）。2009 年全国生協調査の結果を見ると、東都生協の組合員は大学・大学院卒が 30.3%と一番高いが、生活クラブ生協・東京はさらにそれよりも高学歴の組合員が多いことが見て取れる。一方、職業形態についてみると（表 1-10,11）、専業主婦が 4 割を超え、フルタイム・自営業・ワーカーズコレクティブを含めても、仕事に就いている組合員は全体の 1/4 程度である（残りはパートタイム）。また、有職者の職種（表 1-12）を見ると、事務・サービス業が多いが、専門的職業Ⅱ（保母、小学校・中学校・高校教員、看護師、栄養士など）が相対的に高く、専門職が 3 割程度存在しているのは、高学歴な回答者が多く存在するためであろう。

表1-10 回答者の職業形態	
自営業主・自由業者・家族従業員	12.8
会社経営者・会社役員	1.8
常勤（フルタイム）の雇用者	8.1
公務員	2.5
団体職員	1.2
パートタイマー・臨時雇用者	28.3
ワーカーズ・コレクティブ	2.4
学生	0.1
有償の仕事はしていない	42.9
値は% N=1789	

表1-11 回答者の職業形態	
自営	12.8
フルタイム	13.6
パートタイム	28.3
ワーカーズ・コレクティブ	2.4
無職・学生	42.9
値は% N=1789	

表1-12 有職者の職種	
農林漁業従事者	0.4
事務的職業	28.5
販売的職業	9.5
サービスの職業	18.7
保安的職業	0.1
生産工程従業者	1.9
専門的職業Ⅰ	4.8
専門的職業Ⅱ	19.4
専門的職業Ⅲ	5.9
管理的職業	1.3
NPO・NGOのスタッフ	5.5
その他	4.2
値は% N=1007	

表1-13 配偶者の年齢	
20代	0.3
30代	8.0
40代	17.6
50代	26.0
60代	31.9
70代	13.6
80代以上	2.7
合計	100.0(1734)
値:%(実数)	

表1-14 配偶者の学歴	
中学	1.7
高校	14.2
専門学校	6.9
短大・高専	3.2
大学	64.5
大学院	9.6
値は% N=1748	

表1-15 配偶者の職業形態	
自営業主・自由業者・家族従業員	15.6
会社経営者・会社役員	12.2
常勤(フルタイム)の雇用者	37.3
公務員	5.3
団体職員	2.4
パートタイマー・臨時雇用者	7.2
ワーカーズ・コレクティブ	0.1
学生	0.1
有償の仕事はしていない	19.9
値は% N=1672	

表1-16 配偶者の職業形態	
自営	15.6
フルタイム	57.1
パートタイム	7.2
ワーカーズ・コレクティブ	0.1
無職・学生	20.0
値は% N=1672	

表1-17 配偶者の中での有職者の職種	
農林漁業従事者	0.3
事務的職業	23.1
販売的職業	6.7
サービスの職業	7.3
保安的職業	1.4
生産工程従業者	5.5
専門的職業Ⅰ	12.5
専門的職業Ⅱ	3.1
専門的職業Ⅲ	5.8
管理的職業	23.0
NPO・NGOのスタッフ	0.5
その他	10.8
値は% N=1336	

表1-18 世帯収入	
100万円未満	0.5
100万円～250万円未満	3.7
250万円～500万円未満	22.8
500万円～750万円未満	21.3
750万円～1000万円未満	22.0
1000万円～1250万円未満	14.5
1250万円～1500万円未満	7.1
1500万円以上	8.1
N=1839	
値は%	

一方、回答者の年齢、学歴、職業形態、職種は表 1-13～17 の通りである。配偶者の世代は、回答者の世代分布を反映している。職業については、フルタイム・自営が中心であるが、60 代以上の退職者も多いことがうかがえる。職種については、専門職、管理的職業が多いことが見いだせる。

1-4 世帯年収と個人年収の割合

最後に回答者の世帯年収について見てみよう。表 1-18 は、世帯年収の分布であるが、定年退職者の世帯(年金受給者)が一定程度見られる一方で、年収 1000 万円以上の世帯も 3 割存在する。2009 年

全国生協調査の結果を見ると、パルシステム東京が1000万円以上の世帯収入の率が高いが(23.3%)、生活クラブ生協・東京の世帯収入の高さが見て取れる。1-2で生活クラブ生協と東都生協の世帯構成が近いと述べたが、東都生協の世帯年収は、800-1000万円の世帯が21.3%、1000万円以上は1.2%であるものの、200-400万円が23.6%、400-600万円が22.5%と、日本全体の世帯収入の平均かそれ以下が多い。つまり世帯構成と世帯収入という点でみると、生活クラブ生協は前者は東都生協（つまり組合員が上の世代が多い）に近く、後者の点ではパルシステムに近いといえるだろう。

表1-19世帯年収における収入の割合

0割	24.7	
1割以下	30.7	
2割以下	14.8	
3割以下	9.8	
4割以下	5.9	
5割以下	4.5	
5-7割以下	2.6	
7-10割	7.1	
N=1640		
値は%		

さらに、表1-19は、世帯年収における回答者による収入の割合であるが、専業主婦が4割、パートタイムをいれると7割の組合員を反映して、世帯収入の組合員の割合は低い。2009年生協全国調査では0割という解答が2-30%、1-3割が25%程度であることを踏まえると、世帯収入における回答者の収入の割合は、生活クラブ生協の場合、低いといえるだろう。

第2章 生活クラブ生協の加入形態と加入動機

本章では、回答者（組合員）の生活クラブ生協の加入動機、加入形態について中心的に分析をする。

2-1 加入形態

生活クラブ生協の組合員の加入形態は、班配送と戸別配送に分かれる。表 2-1A は、世代と加入形態のクロス表の結果である。組合員全体では 7 割以上が戸別配送であり、班配送は 3 割に満たない。だが、現在の生活クラブ生協への加入形態が戸別配送だったとしても、過去は班だった組合員は少なくない。2-3 で述べるが、現在の加入形態が戸別配送である理由の中に、「班が解散したから」という回答が一定以上存在する。つまり、戸別配送が主流になった現在、班が維持できなくなったエリアの組合員が「やむなく戸別配送」という形態を選んだ場合も考えられる。

そこで表 2-1B は、戸別配送の組合員の戸配継続理由の中で「班が解散した」と回答した人を、「元班の戸配組合員」とカテゴリーし、班配送、戸別配送と区別して、世代別の加入形態を示したものである。表 2-1B を見ると、班が解散したことによって戸別配送の形態にうつらざるを得なかった人が 50 代以上の組合員の中で 2 割程度存在していることがわかる。

表2-1A 世代と加入形態						
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
班配送	8.7	18.1	26.5	31.9	40.3	26.2
戸別配送	91.3	81.9	73.5	68.1	59.7	73.8
合計	100.0(219)	100.0(386)	100.0(578)	100.0(589)	100.0(238)	100.0(2010)
値は% d.f.=4 $\chi^2=82.410$ p<.001						

表2-1B 世代と加入形態						
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
班配送	8.7	18.1	26.5	31.9	40.3	26.2
戸別配送	90.9	71.5	51.9	44.1	40.3	56.3
元班の戸配	0.5	10.4	21.6	23.9	19.3	17.6
合計	100.0(219)	100.0(386)	100.0(578)	100.0(589)	100.0(238)	100.0(2010)
値は% $\chi^2=218.817$ d.f.=8 p<.001						

一方、世代別に組合員歴と現在の加入形態の関係を見てみよう（表 2-2）。表 2-1A からは、若い世代ほど戸別配送の割合が高いことがわかるが、表 2-2 を見ると、世代にかかわらず、組合員歴が浅い人は戸別配送であることがわかる。班の解散により戸別配送になった組合員は、加入歴が 10 年未満である場合、皆無である。つまり、戸別配送システムが導入されてからは、年齢にかかわらず相対的に利便性が高い戸別配送を選択していることが伺える。

また、班配送を継続的に行っている割合は、40 代と 50 代は組合員歴 10 年以上、60 代と 70 代は 20 年以上の組合員歴の場合、高くなっていることが見いだせる。その一方で、班の解散により戸別配送になった組合員は、60 代以上で相対的に割合が高くなっている。

表2-2 世代別にみた組合員歴と加入形態							
【30代以下】	3年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	全体	検定
班配送	6.4	9.7	0.0	—	—	7.7	
戸別配送	93.6	89.3	100.0	—	—	91.9	n.s.
元班の戸配	0.0	1.0	0.0	—	—	0.5	
合計	100.0(94)	100.0(103)	100.0(12)	—	—	100.0(209)	
【40代】	3年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	全体	検定
班配送	6.3	8.6	30.9	28.6	100.0	18.4	
戸別配送	93.8	88.5	51.7	28.6	0.0	71.1	$\chi^2=96.738$
元班の戸配	0.0	2.9	17.4	42.9	0.0	10.4	d.f.=8
合計	100.0(64)	100.0(139)	100.0(103)	100.0(21)	100.0(1)	100.0(305)	p<.001
【50代】	3年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	全体	検定
班配送	5.4	7.3	23.9	34.5	58.6	26.5	
戸別配送	91.9	85.4	51.6	35.8	24.1	51.3	$\chi^2=101.149$
元班の戸配	2.7	7.3	24.5	29.7	17.2	22.2	d.f.=8
合計	100.0(37)	100.0(76)	100.0(155)	100.0(229)	100.0(29)	100.0(391)	p<.001
【60代】	3年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	全体	検定
班配送	32.0	3.6	8.2	46.7	43.7	32.1	
戸別配送	68.0	88.0	66.3	29.5	20.4	44.1	$\chi^2=159.938$
元班の戸配	0.0	8.4	25.5	23.8	35.9	23.8	d.f.=8
合計	100.0(25)	100.0(83)	100.0(98)	100.0(210)	100.0(142)	100.0(558)	p<.001
【70代以上】	3年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	全体	検定
班配送	7.1	11.5	15.0	47.3	54.2	41.0	
戸別配送	85.7	26.1	65.0	36.4	18.7	39.6	$\chi^2=65.851$
元班の戸配	7.1	0.0	20.0	16.4	27.1	19.4	d.f.=8
合計	100.0(14)	100.0(26)	100.0(20)	100.0(55)	100.0(107)	100.0(222)	p<.001
値は%(実数)							

続いて、加入形態と職業の有無との関連について見てみよう。表 2-3 は、回答者の職業形態と生活クラブ生協の加入形態のクロス表である。フルタイムの仕事を持つ組合員が戸別配送であることが多く、ワーカーズ・コレクティブで働く組合員が班配送の割合が高いことがわかる。フルタイムの仕事を持つ組合員は班配送による荷分け等に加わる時間がないため、戸別配送を選択する傾向があるのかもしれない。また、ワーカーズ・コレクティブを仕事してもつ組合員は、ワーカーズ・コレクティブが生活クラブ生協の理念を強く反映した活動であり、その強い理念を班の中で生み出していったという解釈もありえる。もっとも、班が減少している現在、班配送を続けたくてもやむなく戸別配送に加入形態を変更する組合員もいるため、ワーカーズ・コレクティブという形態で職を持っている組合員でも、戸別配送の形態をとっていてもおかしくはない。

表2-3 職業形態と加入形態						
	自営	フルタイム	パートタイム	ワーカーズ	無職・学生	全体
班配送	26.2	18.9	28.9	58.1	25.5	26.4
戸別配送	73.8	81.1	71.1	41.9	74.5	73.6
合計	100.0(229)	100.0(243)	100.0(506)	100.0(43)	100.0(768)	100.0(1789)
値は% d.f.=4 $\chi^2=31.119$ p<.001						

表 2-4 は、世代別にみた職業形態と生活クラブ生協への加入形態のクロス表である。職業形態と加入形態の関係性の傾向については、上述した通りであるが、若い世代の方が戸別配送の割合がどの職種でも多いことが見いだせる。

表2-4 世代別にみた職業形態と加入形態							
【30代以下】	自営	フルタイム	パートタイム	ワーカーズ	無職・学生	全体	検定
班配送	21.1	6.0	18.4	—	3.1	8.3	d.f.=3
戸別配送	78.9	94.0	81.6	—	96.9	91.7	$\chi^2=12.930$
合計	100.0(19)	100.0(50)	100.0(38)	—	100.0(97)	100.0(204)	p<.01
【40代】	自営	フルタイム	パートタイム	ワーカーズ	無職・学生	全体	検定
班配送	15.8	11.6	20.7	71.4	18.3	18.7	d.f.=4
戸別配送	84.2	88.4	79.3	38.6	81.7	81.3	$\chi^2=15.694$
合計	100.0(38)	100.0(69)	100.0(140)	100.0(7)	100.0(115)	100.0(369)	p<.01
【50代】	自営	フルタイム	パートタイム	ワーカーズ	無職・学生	全体	検定
班配送	25.9	23.7	32.7	57.1	21.5	27.5	d.f.=4
戸別配送	74.1	76.3	67.3	42.9	78.5	72.5	$\chi^2=12.393$
合計	100.0(81)	100.0(76)	100.0(196)	100.0(14)	100.0(168)	100.0(530)	p<.05
【60代】	自営	フルタイム	パートタイム	ワーカーズ	無職・学生	全体	検定
班配送	31.4	41.0	35.0	52.6	30.9	33.5	d.f.=4
戸別配送	68.6	59.0	65.0	47.4	69.1	66.5	$\chi^2=5.148$
合計	100.0(70)	100.0(39)	100.0(123)	100.0(19)	100.0(262)	100.0(513)	n.s.
【70代以上】	自営	フルタイム	パートタイム	ワーカーズ	無職・学生	全体	検定
班配送	36.8	16.7	40.0	66.7	43.8	42.2	d.f.=4
戸別配送	63.2	83.3	60.0	33.3	56.3	57.8	$\chi^2=2.699$
合計	100.0(19)	100.0(6)	100.0(5)	100.0(3)	100.0(128)	100.0(161)	n.s.
値は%(実数)							

表 2-5 は、具体的な職種と生活クラブ生協への加入形態のクロス表である。専門的職業Ⅱ（保母、

表2-5 職種と加入形態						
	農林漁業従事者	事務的職業	販売的職業	サービスの職業	保安的職業	生産工程事業者
班配送	25.0	24.7	24.0	37.8	0.0	36.8
戸別配送	75.0	75.3	76.0	62.2	100.0	63.2
合計	100.0(4)	100.0(287)	100.0(96)	100.0(188)	100.0(1)	100.0(19)
	専門的職業Ⅰ	専門的職業Ⅱ	専門的職業Ⅲ	NPO・NGOスタッフ	その他	全体
班配送	20.8	19.0	18.6	41.8	26.2	26.8
戸別配送	79.2	81.0	81.4	58.2	73.8	73.2
合計	100.0(48)	100.0(195)	100.0(59)	100.0(55)	100.0(42)	100.0(1007)
値は%(実数)						

小学校・中学校・高校教員、看護師、栄養士など）、専門的職業Ⅲ（著述業、芸術家、デザイナー、カメラマンなど）である人が、やや戸別配送の割合が高いことが見いだせるが、それほど突出した結果にはなっていない。

また、NPO・NGOのスタッフが班配送の割合が高いが、これは上述したように班配送の比率が高かった、ワーカーズ・コレクティブの人がこのカテゴリーに含まれるためである。

次に、生活クラブ生協の加入形態と、親や親族の加入の有無との関係について見てみよう（表 2-6）。親が加入している、もしくはしていた組合員が、戸別配送の組合員である比率が高い。親世代が生活クラブ生協の組合員の時は、班別予約共同購入のみであり、その活動の大変さを見た子世代が班配送を選択せずに戸別配送を選んだという解釈も可能である。だが、親や親族の加入歴と加入形態の関係は、世代でコントロールすると統計的に有意な関係性が見られないため、明確な関連性は認めがたい。

表2-6 親族の加入歴と加入形態				
	親が加入していた(る)	親以外の親族が加入しているた	加入していない	全体
班配送	17.9	28.5	26.2	25.9
戸別配送	82.1	71.5	73.8	74.1
合計	100.0(184)	100.0(390)	100.0(1400)	100.0(1974)
値は% d.f.=4 $\chi^2=7.490$ p<.05				

最後に、エリア（ブロック）と加入形態との関係について見てみよう（表 2-7）。「23 区南」が他の

3つのブロックに比べて戸別配送の比率がやや高い。また、元班の戸配組合員がやや高く、23区南ブロックで、班の解体が進んだ結果とも考えられる。とはいえ、統計的にはさほど有意な結果ではなく、これらのエリア（ブロック）と加入形態の関係は、それほど強い関係でないといえるだろう。なお、表は省略するが、エリア（ブロック）と組合員の職業形態との関連を見ても、23区南の組合員がフルタイムの仕事についている比率が他のエリアと比べて高いわけではなく、フルタイムに従事するため加入形態が戸別配送であるという点も定かではない。

表2-7 加入形態とエリア(ブロック)					
	23区南	北東京	多摩きた	多摩みなみ	全体
班配送	19.8	28.1	28.0	29.1	26.7
戸別配送	60.2	55.6	53.9	54.7	55.9
元班の戸配	20.1	16.3	18.1	16.2	17.4
合計	100.0(364)	100.0(565)	100.0(432)	100.0(475)	100.0(1836)
値は% d.f.=6 $\chi^2=12.210$ $p<.1$					

2-2 加入動機

次に生活クラブ生協への加入動機について見てみよう。表2-8は、生活クラブ生協に加入した動機について、世代別にみた結果である。生活クラブ生協への加入動機として多い回答は、「安全で品質の良い品物が手にはいるから」「子どものために安全な食品を手に入れたいから」「生活クラブの食材がおいしいから」という点であり、すべての世代でほぼ共通している。一方、世代によって動機付けが異なる項目も多く見られる。「以前から「食」に関心があったから」「生活クラブ生協の考え方に賛同するから」という点は世代が上であるほど、動機付けとして回答している率が高いが、これは現在の組合員が、「食」の問題を扱う生活クラブ生協への理念、考えに対する共感によって加入するのではなく、安全で品質がよい品物が欲しいという、ある意味、即物的な理由が加入動機になっているといえるかもしれない。ただし、これは現在の組合員が生活クラブ生協の理念を共有していないというわけではない。詳細は第4章で述べるが、回答者の大部分は生活クラブ生協の理念に理解を示している。だが、その一方で、「市民運動に興味があったから」「社会参加の場所として魅力があったから」という回答は、70代以上の組合員にやや見られるものの、生活クラブ生協による運動性が、加入動機にはなっていないことが見いだせる。

さらに、生活クラブ生協への加入に、友人や知人から誘われたという回答も、世代が若いほど、低くなっている。上述したように、若い世代ほど加入形態が戸別配送になっていることもあり、班配送である組合員からの働きかけ（「拡大」）が相対的に少なくなっていることが伺える。

表2-8 世代別にみた加入動機の比率(はいと答えた比率(%))							
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体	検定
品物を配達してもらえから	49.8	43.5	36.2	42.4	50.0	42.5	$\chi^2=19.894$ d.f.=4 $p<.001$
安全で品質の良い品物が手にはいるから	81.3	84.5	87.7	88.3	88.7	86.7	$\chi^2=9.875$ d.f.=1 $p<.05$
子どものために安全な食品を手に入れたいから	66.7	65.5	65.6	64.9	48.7	63.5	$\chi^2=25.595$ d.f.=4 $p<.001$
生活クラブの食材がおいしいから	55.7	55.7	57.3	50.2	52.1	54.1	n.s.
以前から「食」に関心があったから	24.2	28.5	35.5	43.1	58.0	37.8	$\chi^2=80.932$ d.f.=4 $p<.001$
自分や家族が病気になるから	2.3	3.1	4.0	3.4	7.6	3.9	$\chi^2=11.169$ d.f.=4 $p<.05$
社会参加の場所として魅力があったから	1.4	1.3	2.2	3.9	8.8	3.2	$\chi^2=33.470$ d.f.=4 $p<.001$
市民運動に興味があったから	0.5	1.3	1.9	1.5	4.2	1.8	$\chi^2=10.902$ d.f.=4 $p<.05$
友達や話し相手をもっと欲しかったから	0.5	0.5	2.9	1.9	4.6	2.1	$\chi^2=17.177$ d.f.=4 $p<.01$
友人から誘われたから	11.4	20.2	25.8	27.6	34.9	24.8	$\chi^2=41.218$ d.f.=4 $p<.001$
近所の人や知人から熱心に誘われたから	5.5	8.3	15.4	14.9	15.1	12.8	$\chi^2=24.595$ d.f.=4 $p<.001$
生活クラブ生協の考え方に賛同するから	17.4	19.2	21.5	26.9	38.2	24.2	$\chi^2=41.325$ d.f.=4 $p<.001$
自然食品よりも生活クラブの消費材の方が安いから	10.5	12.4	10.7	8.8	9.7	10.3	n.s.
キャラバンで生活クラブの消費材に興味を持ったから	2.7	4.1	4.3	5.4	5.9	4.6	n.s.
N	219	386	578	590	238	2011	

表 2-9A は、加入形態別の生活クラブ生協への加入動機についてまとめた結果である。班配送と戸別配送の組合員の違いは、「品物を配達してもらえから」という点で戸別配送の組合員が多いことが挙げられる。また、「友人から誘われたから」「近所の人から熱心に誘われたから」「生活クラブ生協の考え方に賛同するから」という点で、班配送の組合員の方が多い。友人・近所の人から誘われたという点については、上述したように班配送の組合員の方は、拡大などの働きかけで face to face の関係の中で加入したためであると思われる。「生活クラブ生協の考え方に賛同する」という点は、班配送の組合員の方が戸別配送の組合員に比べて、上の世代の組合員が多い（表 2-1～2-2 参照）ため、その点がクロス表の結果に表れたためであろう。

	班配送	戸別配送	全体	検定
品物を配達してもらえから	23.5	49.1	42.4	$\chi^2=104.839$ d.f.=1 p<.001
安全で品質の良い品物が手にはいるから	85.8	87.0	86.7	n.s.
子どものために安全な食品を手に入れたから	72.0	60.3	63.4	$\chi^2=22.816$ d.f.=1 p<.001
生活クラブの食材がおいしいから	48.7	55.8	54.0	$\chi^2=8.079$ d.f.=1 p<.01
以前から「食」に関心があったから	38.4	37.5	37.8	n.s.
自分や家族が病気になったから	2.5	4.4	3.9	$\chi^2=3.946$ d.f.=1 p<.05
社会参加の場所として魅力があったから	7.0	1.9	3.3	$\chi^2=31.826$ d.f.=1 p<.001
市民運動に興味があったから	2.5	1.6	1.8	n.s.
友達や話し相手がもっと欲しかったから	4.0	1.4	2.1	$\chi^2=12.737$ d.f.=1 p<.001
友人から誘われたから	31.1	22.6	24.8	$\chi^2=14.806$ d.f.=1 p<.001
近所の人や知人から熱心に誘われたから	21.4	9.7	12.7	$\chi^2=48.189$ d.f.=1 p<.001
生活クラブ生協の考え方に賛同するから	27.5	22.9	24.1	$\chi^2=4.417$ d.f.=1 p<.05
自然食品よりも生活クラブの消費材の方が安いから	9.7	10.6	10.3	n.s.
キャラバンで生活クラブの消費材に興味を持ったから	7.6	3.5	4.6	$\chi^2=14.506$ d.f.=1 p<.001
N	528	1497	2025	

	班配送	戸別配送	元班の戸配	全体	検定
品物を配達してもらえから	23.5	52.8	37.3	42.4	$\chi^2=131.760$ d.f.=2 p<.001
安全で品質の良い品物が手にはいるから	85.8	87.3	86.0	86.7	n.s.
子どものために安全な食品を手に入れたから	72.0	56.9	71.1	63.4	$\chi^2=46.490$ d.f.=2 p<.001
生活クラブの食材がおいしいから	48.7	55.8	56.0	54.0	$\chi^2=8.085$ d.f.=2 p<.05
以前から「食」に関心があったから	38.4	36.5	40.9	37.8	n.s.
自分や家族が病気になったから	2.5	4.6	3.6	3.9	n.s.
社会参加の場所として魅力があったから	7.0	1.5	3.4	3.3	$\chi^2=34.841$ d.f.=2 p<.001
市民運動に興味があったから	2.5	1.8	1.1	1.8	n.s.
友達や話し相手がもっと欲しかったから	4.0	0.7	3.6	2.1	$\chi^2=24.305$ d.f.=2 p<.001
友人から誘われたから	31.1	20.0	31.1	24.8	$\chi^2=32.723$ d.f.=2 p<.001
近所の人や知人から熱心に誘われたから	21.4	7.4	17.1	12.7	$\chi^2=71.285$ d.f.=2 p<.001
生活クラブ生協の考え方に賛同するから	27.5	22.4	24.6	24.1	n.s.
自然食品よりも生活クラブの消費材の方が安いから	9.7	10.8	9.8	10.3	n.s.
キャラバンで生活クラブの消費材に興味を持ったから	7.6	3.6	3.4	4.6	$\chi^2=14.540$ d.f.=2 p<.01
N	528	1140	357	2025	

なお、表 2-9B は、戸別配送の組合員の中で、戸別配送の組合員の戸配継続理由の中で「班が解散した」と回答した人を、「元班の戸配組合員」とカテゴリーし、班配送、戸別配送と区別して、分析した結果である。加入動機と加入形態の関係についての全般的な傾向は上述した通りであるが、元班の戸配組合員は、班が解散したことによって戸配組合員になったこともあり、戸配組合員であるが、班配送の組合員と回答の傾向が同じであることがわかる。

2-3 利用形態の理由

続いて、班配送と戸別配送それぞれの組合員が、それぞれの利用形態を使っている理由について、世代別に見ていこう。表 2-10 は班配送の利用理由、表 2-11 は戸別配送の利用理由をまとめたものである。全体的にみると、班を利用している理由は、「班の方が 4%の値引きがあるから」「班には助け合う仲間がいるから」という点が多い。ただし、前者については統計的に有意ではないが、若い世代になればなるほどその傾向が強まり、逆に後者については上の世代になればなるほどその傾向が強まる。「班の方が共同購入らしいから」という回答も世代が上の方が高い。さらに、戸別配送に比べて、荷受けをする必要がある班配送であっても、品物を配達してくれるという点も世代が上の方が高い。班別予約共同購入というシステムに込められた意味が、世代によって異なっていることが予想される。つまり、若い世代は組合員との交流や助け合いという側面をあまり重視せず、班による値引きという点が重視される一方、50 代以上は、班別予約共同購入システムの副次的な産物でもある、組合員の交流や助け合いという効果が、班配送を利用し続ける理由付けになる傾向が見られる。

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体	検定
品物を配達してもらえるから	10.5	20.0	32.7	39.4	45.8	35.0	$\chi^2=18.817$ d.f.=4 p<.001
受け取りができないので、荷受けしてもらえるから	15.8	5.7	15.0	6.4	6.3	9.1	$\chi^2=11.100$ d.f.=4 p<.05
班の方が4%の値引きがあるから	73.7	65.7	60.1	52.7	60.4	58.7	n.s.
家族が多いから	0.0	8.6	4.6	3.2	1.0	3.8	n.s.
班には助け合える仲間がいるから	21.1	37.1	52.3	56.4	70.8	54.0	$\chi^2=27.872$ d.f.=4 p<.001
地域のいろいろな人と話せるから	10.5	15.7	19.0	19.7	25.0	19.6	n.s.
仲の良い友人がいるから	31.6	18.6	21.6	27.1	32.3	25.5	n.s.
班の方が共同購入らしいから	10.5	8.6	11.8	21.3	22.9	16.7	$\chi^2=12.004$ d.f.=4 p<.05
N	19	70	153	188	96	526	

一方、戸別配送の利用理由についてみると、「自宅に直接配達してくれるから」という点はすべての世代においてもっとも多い理由になっている。また、「自分の生活スタイルにあっているから」「留守がちで荷受けの受け取りができないから」など、ライフスタイルを理由に戸別配送を選択している組合員は、若い世代ほど多い。関連して「班別予約共同購入のしくみが面倒だから」という回答も、50 代以下に 2-3 割程度存在する。他方で、30 代以下の組合員の中で、「近くに班がなかったから」という理由で、戸別配送を利用している組合員もいることがわかる。上述したように、班別予約共同購入に対するイメージ、意味づけが世代によって異なっていることが予想されるが、若い世代のすべてが、やや手間がかかる（その分、割引もあるが）班配送を敬遠し、戸別配送を選択するというわけではないことが見いだせるだろう。

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体	検定
自宅に直接配達してくれるから	85.0	86.1	82.4	83.0	90.8	84.5	n.s.
自分の生活スタイルに合っているから	40.5	45.3	38.4	36.2	26.8	38.4	$\chi^2=15.630$ d.f.=4 p<.01
班のしくみを知らなかった／わからなかったから	5.5	2.8	0.0	1.0	1.4	1.8	$\chi^2=27.530$ d.f.=4 p<.001
班別共同購入のしくみが面倒だから	27.5	30.4	26.1	21.9	11.3	24.7	$\chi^2=22.216$ d.f.=4 p<.001
留守がちで荷受けの受け取りができないから	39.5	38.0	35.1	28.4	9.2	32.0	$\chi^2=48.583$ d.f.=4 p<.001
近くに班がなかったから	25.0	18.0	15.5	10.5	11.3	15.6	$\chi^2=24.921$ d.f.=4 p<.001
人づきあいが苦手だから	5.0	3.8	1.6	1.0	1.4	2.4	$\chi^2=13.617$ d.f.=4 p<.01
人づきあいが面倒だから	8.5	6.3	3.3	5.7	3.5	5.3	n.s.
戸配は組合員活動をしなくてもよいと思っていたから	0.5	3.5	4.9	6.0	7.0	4.5	$\chi^2=12.555$ d.f.=4 p<.05
班はなにかとわずらわしいと聞いたことがあるから	6.0	10.8	6.1	5.7	7.7	7.1	n.s.
班が解散したから	0.5	12.7	29.4	35.2	32.4	23.8	$\chi^2=123.255$ d.f.=4 p<.001
N							

2-4 生活クラブ生協の継続意志

最後に、生活クラブ生協の継続意志について見てみよう（表 2-12）。9 割以上の組合員が、現状の利用形態で継続したいと回答し、生活クラブを継続したくないという回答は全体で 1%程度に過ぎない。もっとも、本調査に回答していない組合員（約 6 割）の中に、継続をしたくないという人もいる可能性はある。生活クラブ生協を継続する意志があったからこそ、調査に協力していただいたといえるかもしれない。なお、表 2-13 は、生活クラブ生協を継続したくないと回答した 28 名の具体的な理由（複数回答）である。消費材の価格の高さが、非継続の理由で一番多いようである。

表2-12 世代別にみた生活クラブ生協の継続						
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
今のままの利用形態で継続したい	95.4	94.8	93.4	95.4	95.7	94.7
戸配に移動したい	0.9	0.8	2.3	2.1	1.7	1.7
班に移動したい	2.8	1.0	0.9	0.3	0.0	0.9
デポーに移動したい	0.9	1.0	2.4	0.9	0.4	1.3
生活クラブを継続したくない	0.0	2.3	1.0	1.4	2.1	1.4
合計	100.0(217)	100.0(385)	100.0(573)	100.0(581)	100.0(235)	100.0(1991)
値は%(実数)						
$\chi^2=32.839$ d.f.=16 $p<.01$						

表2-13 継続したくない理由	
生活クラブ生協の消費材に魅力を感じない／感じなくなった	21.4
生活クラブ生協からの呼びかけが、わずらわしいから	3.6
他の生協・業者の方が便利だから	25.0
消費材の価格が高く感じられるから	42.9
荷受けができないから	10.7
申し込み方法が面倒だから	25.0
配送曜日・時間があわないから	10.7
戸別配送8点ルールを守るのが大変だから	17.9
生活クラブ生協の考え方があわないと思ったから	3.6
事務局の対応や配送時の対応に不満があるから	10.7
その他	21.4
N=28	

第3章 組合員の購入行動と購入態度

3-1 購入金額と購入先

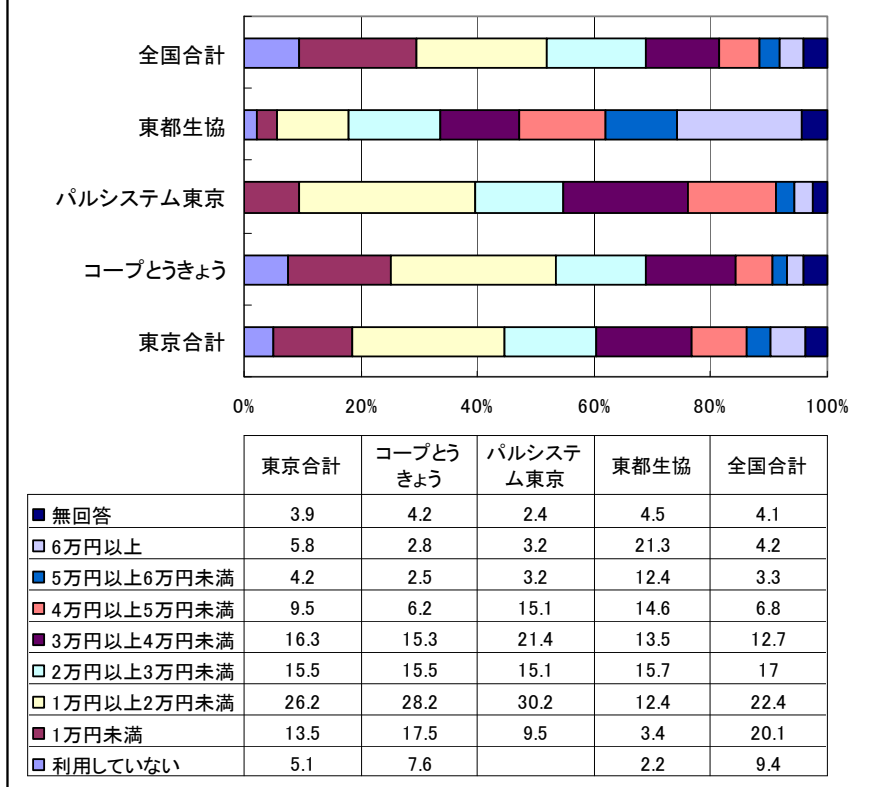
問 10 では、千円単位で平均的な月額消費材購入金額を回答していただいた。最小は 3 千円、最大は 30 万円、平均は 3.9 万円となった。なお、班では 4.3 万円、戸配では 3.8 万円となり、やや班の利用高が大きくなっている。また、表 3-1 は、1 万円刻みでの、購入金額の分布を示したものである。3 万円が最大となり、全体の 4 分の 1 が集中している。また、3 万円以下が半数を占める結果となった。その一方で、7 万円以上利用している「ヘビーユーザー」も 1 割近く存在している。なお、理事監事経験者（N=25）に限定すると 7.3 万円、委員長経験者（N=108）では 6.3 万円、委員経験者（N=449）では 5.0 万円となっており、役職経験と購入金額との一定の関係をみることができる（委員長経験者・委員経験者は統計的に有意）。

なお、2009 年全国生協組合員意識調査（以下「2009 年全国調査」）と比較すると、項目の設定が異なっているので、解釈は若干慎重に行わなければならないが、購入金額は全国平均や東京平均に比べてかなり高いことがうかがえる¹。

表3-1 購入金額の分布

1万円以下	5.7
2万円以下	20.4
3万円以下	25.0
4万円以下	15.9
5万円以下	12.3
6万円以下	6.7
7万円以下	4.6
10万円以下	7.5
10万円超	2.1
合計	100.0(1999)
値は%	

図3-1 【参考】生協での買い物一ヶ月の平均金額
(2009年全国調査)



¹ 単協では、東都生協がやや近い分布を示しており、他方、パルシステム東京では、5 万円を超えると極端に利用者が減少しているのが特徴的である。

なお、2009 年全国調査のデータは、回答者数が、全国 4304、東京 569、コープとうきょう 354、パルシステム東京 126、東都生協 89 となっている。

表3-2 主な消費材の購入先

	米	卵	牛乳	豚肉	牛肉	鶏肉	野菜
生活クラブ(配達)	61.2	81.1	67.3	82.1	57.2	69.2	48.8
生活クラブ(デポー	0.4	1.1	1.2	1.4	1.4	1.1	1.4
他の生協(配達)	3.4	3.6	3.1	1.0	1.0	3.3	3.7
他の生協(店舗)	1.5	0.6	1.9	0.8	1.7	1.4	2.9
スーパー	6.4	8.0	16.7	9.0	20.5	15.1	21.0
安売り店	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
地元の店	5.3	1.4	2.1	3.1	7.3	5.3	12.8
自然食品の店	0.6	0.8	0.2	0.4	0.3	0.6	1.1
百貨店	0.2	0.1	0.3	0.5	3.1	0.9	0.5
コンビニ	0.1	-	0.6	-	0.1	-	-
生産者から直接	9.4	1.4	0.9	0.3	-	-	5.5
その他	3.6	0.4	1.3	0.7	1.1	1.0	1.6
いただき物	7.1	0.2	0.1	-	0.3	-	0.4
インターネット	0.7	0.1	0.1	-	0.1	-	-
必要ない	0.3	1.1	4.2	0.8	6.0	1.9	0.3
合計	100.0(1938	100.0(1945	100.0(1889	100.0(1923	100.0(1865	100.0(1900	100.0(1863
	味噌	醤油	その他調味料	冷凍加工食品	冷蔵惣菜	菓子	石けん
生活クラブ(配達)	56.3	68.2	71.2	71.9	53.7	35.9	52.4
生活クラブ(デポー	0.6	0.6	0.8	0.8	0.5	0.8	0.5
他の生協(配達)	2.7	3.4	1.7	5.0	3.5	1.4	2.8
他の生協(店舗)	1.7	1.4	1.5	0.6	1.8	2.4	1.4
スーパー	14.8	15.0	19.0	12.7	17.7	35.5	18.1
安売り店	0.3	0.5	0.6	0.4	0.1	1.7	5.0
地元の店	1.8	1.1	1.1	0.3	1.9	4.5	3.0
自然食品の店	2.2	2.3	1.7	0.3	0.3	0.5	0.7
百貨店	1.1	0.6	0.6	0.1	1.8	6.2	0.7
コンビニ	-	0.1	0.1	-	-	0.9	0.2
生産者から直接	4.5	2.4	0.2	0.1	0.1	0.2	0.9
その他	5.7	1.0	0.8	0.8	0.6	2.6	4.4
いただき物	5.8	3.0	0.5	-	0.1	2.1	5.6
インターネット	0.5	0.4	0.1	0.2	-	0.2	1.6
必要ない	2.0	0.2	0.2	7.0	18.1	5.0	2.6
合計	100.0(1907	100.0(1924	100.0(1895	100.0(1863	100.0(1767	100.0(1796	100.0(1879

値は%

表3-3 【参考】主な購入先(2009年全国調査)

		米	卵	牛乳	肉類	葉物野菜	基礎調味料	冷凍食品	惣菜	菓子類
東京合計	店舗	14.2	13.2	13.7	9.3	13.5	13.9	9.7	7.6	9.8
	共同購入・個配	36.9	36.6	34.6	25.1	21.1	33.2	40.4	6.9	9.5
	合計	51.1	49.8	48.3	34.4	34.6	47.1	50.1	14.5	19.3
コープとうきょう	店舗	18.4	17.8	18.4	12.1	17.5	18.9	12.7	10.2	14.1
	共同購入・個配	28.2	22.9	26	14.4	11.6	25.1	27.7	3.7	8.5
	合計	46.6	40.7	44.4	26.5	29.1	44	40.4	13.9	22.6
パルシステム東京	店舗	7.9	4	2.4	4	4.8	4	4	2.4	2.4
	共同購入・個配	47.6	52.4	41.3	34.9	30.2	42.9	58.7	10.3	10.3
	合計	55.5	56.4	43.7	38.9	35	46.9	62.7	12.7	12.7
東都生協	店舗	5.7	7.9	11.2	5.6	10.1	7.9	5.6	4.5	3.4
	共同購入・個配	56.2	68.5	59.6	53.9	46.1	51.7	65.2	14.6	12.4
	合計	61.9	76.4	70.8	59.5	56.2	59.6	70.8	19.1	15.8
全国合計	店舗	12.9	18.2	18.4	17.4	16.9	17.9	12.9	12.5	12.8
	共同購入・個配	17.1	19.7	21.3	15.9	9.7	19	28.1	4.9	8.1
	合計	30	37.9	39.7	33.3	26.6	36.9	41	17.4	20.9

問 11 では、主要な消費材の購入先と、生活クラブでの購入あるいは生活クラブ以外での購入理由について質問した。

まず、表 3-2 は、主な購入先に関する回答をまとめたものである。今回アンケート項目として取り上げた 14 の消費材については、おおむね生活クラブの支持が高い結果となっている。その中で、特に支持が高かったのは豚肉と卵で、8 割以上が生活クラブから購入している。また、冷凍加工食品・その他調味料・鶏肉・醤油・牛乳で約 7 割、米・牛肉が約 6 割となった。他方、相対的にではあるが、支持が低かったのは、味噌・野菜・冷蔵惣菜・石けんなどで、菓子は 35.9%にとどまった。

2009 年全国調査の結果(表 3-3)と比較すると、他の生協では、相対的に店舗の割合が高く、特にその傾向は全国合計およびコープとうきょうで目立つ。他方、パルシステム東京と東都生協では、配達の割合が高くなり、生活クラブと似た数値となる。デポの歴史がまだ浅い東京では、デポ(=店舗)の割合が、他生協と比較して際立って低くなるのは当然であろう。しかし、パルシステムや東都生協の傾向をみると、デポの割合の伸びは限定的と判断する方が適切かもしれない。また、どの食材でも、生活クラブの割合が他生協よりも高く、組合員の高い支持を獲得している様子がうかがえる結果となった。比較的生活クラブと似た数値を示しているのは東都生協である。

表3-4 生活クラブから購入する理由

	米	卵	牛乳	豚肉	牛肉	鶏肉	野菜
近い・便利	3.7	3.1	5.7	3.9	6.7	5.5	10.8
安全性が高い	29.9	40.5	32.5	36.5	30.0	35.3	22.8
配達が便利	18.4	10.8	11.8	4.8	4.9	5.8	8.6
価格が安い	4.6	3.3	5.5	3.8	9.0	6.3	8.2
品揃えがよい	0.9	0.6	1.0	1.3	4.2	2.0	4.9
新鮮	1.1	12.4	5.2	3.8	3.7	3.5	13.6
産地が明確	15.9	10.3	6.4	8.2	8.8	8.9	12.5
味が良い	10.2	12.4	21.1	32.4	22.4	25.3	9.0
環境配慮	1.7	0.8	1.1	0.5	0.4	0.5	1.0
気に入ったものがある	3.6	1.8	3.2	2.4	3.5	2.9	2.6
自分なりのポリシー	2.8	1.4	1.9	0.9	1.6	1.3	1.6
店の人や職員の対応が良い	0.5	0.1	0.1	0.3	0.5	0.4	0.5
その他	6.7	2.4	4.7	1.3	4.2	2.3	3.9
合計	100.0(3103)	100.0(3142)	100.0(2912)	100.0(3187)	100.0(2790)	100.0(3011)	100.0(3022)
	味噌	醤油	その他調味料	冷凍加工食品	冷蔵惣菜	菓子	石けん
近い・便利	4.4	3.6	5.6	4.3	8.0	10.5	6.1
安全性が高い	29.3	34.1	34.8	36.9	32.7	19.6	28.4
配達が便利	8.2	11.4	8.9	10.3	7.7	3.8	7
価格が安い	5.1	5.9	5.2	5.2	5.9	11.2	10.4
品揃えがよい	2.4	2.3	5.6	4.5	6.4	14.8	4.5
新鮮	0.6	0.5	0.4	0.9	1.1	0.3	0.0
産地が明確	6.5	5.1	4.7	6.9	4.6	1.9	0.9
味が良い	25.2	23.6	21.3	18.4	17.8	14.0	0.9
環境配慮	0.6	1.0	1.2	0.6	0.4	0.5	16.7
気に入ったものがある	9.6	7.5	8.4	8.2	8.7	16.5	13.3
自分なりのポリシー	2.2	2.2	1.9	1.4	2.4	2.0	6.8
店の人や職員の対応が良い	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.3	0.2
その他	5.8	2.6	1.9	2.3	4.0	4.7	4.6
合計	100.0(2742)	100.0(2955)	100.0(2978)	100.0(2794)	100.0(2333)	100.0(2602)	100.0(2610)

表 3-4 は、生活クラブの消費材を主に購入する理由をまとめたものである。なお、消費材ひとつにつき 2 項目まで選択の形で回答いただいている。ばらつきはあるものの、全ての消費材において「安全性が高い」が最も高く、次いで、食品については「味が良い」が高い割合を示しているのが特徴的である。ことに、肉類と調味料での高さが目立っており、生活クラブの強みはここにあるということもできるかもしれない。その中で、野菜では「味が良い」の回答がその他の食材に比べるとかなり低くなっている。また、米・牛乳・醤油・卵では「配達が便利」が比較的高いが、日常的に買い物をする主婦の立場の率直な意見といえよう。また、調味料や加工食品、菓子では「気に入ったものがある」という回答が比較的高いようである。当然のことながら、石けんでは「環境配慮」が高くなっている。

なお、2009 年全国調査での購入理由は、特に生協という形ではアンケートを行っていないため、比較をすることはできないが、東京と全国の間で顕著な差はなく、おおむね東都生協とパルシステム東京で安全性を理由にあげる回答が目立っている。特に、東都生協でその傾向が著しい。

表3-5 生活クラブ以外から購入する理由

	米	卵	牛乳	豚肉	牛肉	鶏肉	野菜
量に不満(多すぎる)	4.4	15.6	14	16.5	11.0	13.4	6.7
容器等が使いにくい	0.2	1.1	7.7	3.4	1.0	1.6	0.4
申込回数が少ない	1.6	3.5	3.8	3.0	2.1	3.3	5.1
配達回数が少ない	2.1	2.4	2.8	3.0	2.1	2.4	10.7
価格が高い	10.4	18.8	21.2	25.8	29.5	25.4	22.4
美味しくない	6.9	2.6	2.2	1.1	8.3	3.3	1.5
品質に不満	2.6	2.4	0.3	1.7	2.8	2.8	15.8
家族に不評	2.9	2.2	4.7	2.8	4.8	2.0	1.4
使い慣れたものがある	24.6	12.8	8.4	9.4	7.2	9.6	3.0
なんとなく	13.9	19.0	9.3	14.8	13.4	18.6	10.8
その他	30.5	19.7	25.5	18.5	17.7	17.4	22.3
合計	100.0(963)	100.0(462)	100.0(783)	100.0(466)	100.0(1027)	100.0(747)	100.0(1307)
	味噌	醤油	その他調味料	冷凍加工食品	冷蔵惣菜	菓子	石けん
量に不満(多すぎる)	1.8	2.9	2.9	3.2	3.4	3.2	0.5
容器等が使いにくい	3.2	2.1	4.7	0.8	0.6	0.4	1.6
申込回数が少ない	1.9	1.8	2.6	4.6	4.6	3.5	1.5
配達回数が少ない	0.4	1.0	1.7	2.5	4.4	2.7	0.5
価格が高い	8.4	17.9	16.1	23.8	17.7	16.1	9.8
美味しくない	7.2	4.8	3.7	7.6	6.6	6.7	0.0
品質に不満	1.9	2.3	1.9	1.5	1.6	1.1	6.4
家族に不評	4.1	2.3	3.0	4.9	5.1	8.1	10.8
使い慣れたものがある	32.3	33.2	28.2	13.1	8.7	14.1	35.3
なんとなく	16.5	19.0	21.7	19.4	26.2	26.2	17.7
その他	22.3	12.7	13.5	18.5	21.0	17.8	15.9
合計	100.0(959)	100.0(730)	100.0(696)	100.0(589)	100.0(823)	100.0(1366)	100.0(1046)
値は%							

表 3-5 は、生活クラブ以外のところで購入する理由をまとめたものである。上記と同様、消費材ひとつにつき 2 項目まで選択していただいている。こちらでは、生活クラブの消費材を購入する理由とは異なり、消費材ごとのばらつきが大きい。その中で、比較的目立っているのが「価格が高い」である。これは、余裕があれば買いたいが出ないという消極的なものと、消費材の品質が価格に見合ったものではないという批判的なものとが考えられるが、「なんとなく」や「その他」が多いところなどと併せて考えると、消極的な理由の方が大きいようにも思われる。

「量に不満(多すぎる)」では、卵・牛乳・豚肉・牛肉・鶏肉などで高くなっている。かつてからいわゆるロットの問題は、組合員の不満が高い事柄のひとつであったが、生活クラブを象徴する主要消費材において、未だにその問題が解消されていないということを物語っている。ただ、豚肉一頭買いのように、単なるロット調整では済まない、思想的な面も含んだ課題もあり、単純にこれらが「解決されるべき課題である」と断罪することは早計であるようにも思われる。また、「使い慣れたものがある」は、米・調味料・石けんで割合が高くなった。これらは、市販の多様な商品あるいはブランド・銘柄との競合が激しい品目とみられる。また、石けんでは「家族に不評」の回答も高くなっている。合成洗剤の洗い上がりの感覚に慣れると石けんに違和感を抱いてしまうのかもしれない。

また、相対的に取り組みはじめて期間が短い野菜では、独特な傾向が現れている。「配達回数が少ない」と「品質に不満」が 14 消費材中最も高い比率になっており、これまでの消費材とは異なった課題が起こっていることがうかがえる。野菜は品揃えも多様で、品質の劣化も早いので、配達回数が制限されるとなかなか使いにくい面もあるだろう。また、病害虫もつきやすいため、低農薬での栽培と

なると、見た目にはあまり良くない可能性もありえる。いずれにせよ、このような評価は、発展途上段階の「産みの苦しみ」かもしれない。

3-2 消費材に対する満足度

問 12 では、生活クラブの消費材や生活クラブの取り組みに関する 14 の項目について満足度を尋ねた。表 3-6 はその結果をまとめたものである。結果はおおむね高い評価であるといえるが、特に「消費材の安全性」「配送される便利さ」「配送時間の正確さ」は非常に高い満足度となっている。他方、「青果物の鮮度」で最も不満が高くなり、「価格」「注文のしやすさ」「消費材の単位・容量」が続く。不満の高かった 4 項目のうち、「青果物の鮮度」を除く 3 項目については、ある意味古くから組合員の不満の高かったものともいえるが、OCR の導入やロットの見直しなど、ある程度の努力はすでになされていることでもあるため、これ以上の努力は、むしろコストパフォーマンスが低下するものとも考えられる。その一方で、「青果物の鮮度」という項目は、先に記述した組合員評価とも共通する、生活クラブにおける新しい問題であり、まだ改善の余地が残されていると考えられる。

なお、ここで使用した項目は 2009 年全国調査のものを援用しており、東京のほうが全国よりも高い満足度を示しかつパルシステム東京および東都生協の満足度が顕著に高い。表 3-7 は、同じ質問に関する、パルシステム東京および東都生協の結果を示したものである。「消費材の安全性」「配送時間の正確さ」「美味しさ」「届いたものがイメージと合う」「生協の取組等の情報の得やすさ」の 5 項目で生活クラブの満足度が際立って高いことがわかる。また、「商品案内の見やすさ」「品揃え」「欠品を

表3-6 消費材に対する満足度

	消費材の 安全性	案内の見 やすさ	注文のしや すさ	消費材の 単位・容量	配送される 便利さ	配送時間 の正確さ	品揃え
満足	76.8	46.4	28.2	22.2	67.4	55.5	31.8
やや満足	22.2	43.4	38.6	48.7	28.0	32.8	49.6
やや不満	0.7	6.9	22.5	23.2	3.1	5.5	14.9
不満	—	0.9	6.4	3.8	0.8	0.8	1.7
気にしない	0.4	2.4	1.8	2.1	0.7	5.4	2.0
合計	100.0(1987)	100.0(1967)	100.0(1976)	100.0(1937)	100.0(1964)	100.0(1992)	100.0(1971)
	価格	美味しさ	青果物の 鮮度	品切れ・欠 品を出さな い努力	届いたもの がイメージ と合う	職員の対 応や知識	生協の取 組等の情 報の得や すさ
満足	17.7	49.9	21.0	32.0	23.6	41.7	34.1
やや満足	49.0	42.3	43.8	46.9	53.9	43.3	47.8
やや不満	27.2	5.8	25.6	12.3	17.0	6.7	9.1
不満	4.5	1.0	8.2	2.3	1.8	1.7	1.3
気にしない	1.7	1.1	1.4	6.4	3.7	6.2	7.6
合計	100.0(1977)	100.0(1977)	100.0(1937)	100.0(1960)	100.0(1974)	100.0(1962)	100.0(1965)

値は%

表3-7 【参考】共同購入・個配に対する満足度(2009年全国調査)

	食品の安全性		商品案内の見やすさ		注文のしやすさ		商品の規格の単位・容量		配送される便利さ	
	パル	東都	パル	東都	パル	東都	パル	東都	パル	東都
満足	35.0	34.1	40.7	37.2	52.8	50.0	29.5	18.6	63.9	65.1
やや満足	56.1	63.5	52.8	52.3	38.2	44.0	50.0	59.3	32.8	32.6
やや不満	7.3	2.4	3.3	9.3	4.9	6.0	13.9	14.0	2.5	2.3
不満	0.8	0.0	0.8	0.0	2.4	0.0	3.3	4.7	0.0	0.0
気にしない	0.8	0.0	2.4	1.2	1.6	0.0	3.3	3.5	0.8	0.0
合計	100.0(123)	100.0(85)	100.0(123)	100.0(86)	100.0(123)	100.0(84)	100.0(122)	100.0(86)	100.0(122)	100.0(86)
	配送時間の正確さ		品揃え		価格		美味しさ		青果物の鮮度	
	パル	東都	パル	東都	パル	東都	パル	東都	パル	東都
満足	38.5	44.2	21.3	20.9	7.4	15.1	28.9	32.6	27.0	45.2
やや満足	38.5	38.4	46.7	64.0	57.9	58.1	58.7	58.1	50.0	40.5
やや不満	13.1	5.8	23.8	9.3	26.4	20.9	9.1	5.8	15.6	13.1
不満	1.6	1.2	5.7	2.3	5.8	1.2	2.5	1.2	5.7	1.2
気にしない	8.2	10.5	2.5	3.5	2.5	4.7	0.8	2.3	1.6	0.0
合計	100.0(122)	100.0(86)	100.0(122)	100.0(86)	100.0(121)	100.0(86)	100.0(121)	100.0(86)	100.0(122)	100.0(84)
	品切れ・欠品を出さない努力		届いたものがイメージと合う		職員の対応や知識		生協の取組等の情報の得やすさ			
	パル	東都	パル	東都	パル	東都	パル	東都		
満足	28.6	24.4	13.4	17.4	33.1	36.1	20.8	15.5		
やや満足	52.9	54.7	49.6	46.5	44.1	43.4	43.3	54.8		
やや不満	8.4	10.5	27.7	29.1	7.6	4.8	12.5	7.1		
不満	5.0	2.3	2.5	5.8	3.4	2.4	0.0	3.6		
気にしない	5.0	8.1	6.7	1.2	11.9	13.3	23.3	19.0		
合計	100.0(119)	100.0(86)	100.0(119)	100.0(86)	100.0(118)	100.0(83)	100.0(120)	100.0(84)	値は%	

出さない努力」「職員の対応や知識」なども生活クラブの満足度が高い。他方、生活クラブで不満とする割合が高いのは「注文のしやすさ」と「青果物の鮮度」の2項目で、このあたりに経営努力が必要とされているのかもしれない。また、「生協の取り組み等の情報の得やすさ」において、「気にしない」という回答が、生活クラブではかなり少ない割合になっている。これは、生活クラブの組合員が、消費材の購入のみの関係ではなく、より深い関係を求めている証拠とも読み取れよう。

次に、問12の14項目について、加入形態・世代・役職経験の3点との関連性を明らかにするため、クロス集計を行った。その結果が表3-8である。加入形態で有意になったのは「配送される便利さ」「配送時間の正確さ」「品切れ・欠品を出さない努力」の3項目で、いずれも戸配の評価が高い。世代では、「消費材の規格・単位・容量」「注文のしやすさ」「配送時間の正確さ」「消費材の価格」「届いたものがイメージと合う」の5項目で有意な結果を得た。一貫した傾向とはいえないが、前の3項目では、50代以降で支持が高くなるのに対して、後ろの2項目では逆に年齢と反比例する形で満足度が低下する傾向がみられる。最後に、役職経験との関連だが、一貫した傾向が現われたとはいえない結果となった。唯一全ての役職で有意となった「生協の取り組み等の情報の得やすさ」でも、理事監事では肯定的な評価になっているが、委員長・委員・班長ではむしろ未経験者の回答よりも不満を述べる回答が目立っている。つまり、消費材に対する満足度に関する回答からは、役職を積み重ねることによって生じる効果はみられない。他方、「消費材の美味しさ」については、理事監事を除く全ての役職経験で肯定的な評価となっている。なお、有意な結果を得たのは、理事監事で2項目、委員長で7項目、委員で5項目、班長で7項目であり、理事監事の2項目、委員長の「注文のしやすさ」、委員の「消費材の価格」、班長の「注文のしやすさ」「消費材の品揃え」以外の項目では、相対的ではある

が、役職経験者の方が厳しい回答になっているのが特徴的である。

表3-8 消費材に対する満足度×加入形態・世代・役職経験

		1)消費材の安全性					2)消費材案内の見やすさ					3)消費材の規格・単位・容量				
		委員経験あり	委員経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし	30代以下	40代	50代	60代	70代以上				
満足		82.0	75.3	33.6	47.2	42.1	48.8	24.1	20.3	23.7	21.7	21.4				
やや満足		17.5	23.6	48.6	43.1	45.3	42.4	46.2	53.3	49.1	48.7	41.9				
やや不満		0.4	0.4	11.2	6.7	8.3	6.2	22.6	20.8	21.9	24.9	27.4				
不満		0.0	0.0	0.9	0.9	1.0	0.8	5.2	3.7	3.7	3.2	3.3				
気にしない		0.0	0.5	5.6	2.2	3.3	1.9	1.9	1.9	1.6	1.4	6.0				
計		100.0(451)	100.0(1536)	100.0(107)	100.0(1860)	100.0(700)	100.0(1267)	100.0(212)	100.0(375)	100.0(562)	100.0(558)	100.0(215)				
		$\chi^2=10.290$	$p>0.05$	$\chi^2=12.614$	$p>0.05$	$\chi^2=11.992$	$p>0.05$	$\chi^2=28.748$	$p>0.05$							

3)注文のしやすさ												
	班	戸配	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	委員長経験あり	委員長経験なし	班長経験あり	班長経験なし	
満足		27.5	29.4	22.0	28.6	27.0	31.2	34.9	24.3	29.2	28.4	29.2
やや満足		44.2	38.0	32.1	35.2	40.4	44.0	41.7	43.9	39.4	43.9	37.3
やや不満		22.1	23.5	33.9	26.0	24.7	17.6	17.9	24.3	23.1	21.7	23.9
不満		4.3	7.3	11.9	8.4	5.8	4.7	4.1	1.9	6.8	4.0	7.9
気にしない		1.9	1.8	0.0	1.8	2.1	2.4	1.4	5.6	1.6	2.0	1.7
計		100.0(516)	100.0(1458)	100.0(218)	100.0(381)	100.0(570)	100.0(573)	100.0(218)	100.0(107)	100.0(1869)	100.0(697)	100.0(1279)
		$\chi^2=10.035$	$p>0.05$	$\chi^2=62.006$	$p>0.001$				$\chi^2=14.083$	$p>0.01$	$\chi^2=16.664$	$p>0.01$

5)配送される便利さ				6)配送時間の正確さ								
	班	戸配		班	戸配	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	委員長経験あり	委員長経験なし
満足		59.8	70.2	46.9	58.6	56.4	55.8	58.2	50.9	58.9	49.1	55.9
やや満足		34.6	25.6	37.7	31.0	29.4	27.1	32.3	38.9	32.6	35.2	32.7
やや不満		4.4	2.6	7.7	4.7	6.4	7.1	3.6	5.7	5.4	2.8	5.6
不満		0.4	1.0	0.4	0.9	2.3	1.1	0.5	0.3	0.4	1.9	0.7
気にしない		0.8	0.6	7.3	4.8	5.5	8.9	5.4	4.2	2.7	11.1	5.1
計		100.0(518)	100.0(1444)	100.0(520)	100.0(1470)	100.0(218)	100.0(380)	100.0(576)	100.0(578)	100.0(224)	100.0(108)	100.0(1884)
		$\chi^2=22.873$	$p>0.001$	$\chi^2=26.871$	$p>0.001$	$\chi^2=43.242$	$p>0.001$				$\chi^2=11.21$	$p>0.05$

7)消費材の品揃え				8)消費材の価格								
	班長経験あり	班長経験なし		30代以下	40代	50代	60代	70代以上	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員経験あり	委員経験なし
満足		33.8	30.6	16.5	14.1	18.3	17.4	23.3	34.6	17.4	21.6	16.5
やや満足		51.5	48.5	55.0	45.1	47.7	49.2	53.8	57.7	48.8	49.7	48.8
やや不満		11.8	16.6	23.9	33.4	29.0	26.2	17.0	3.8	27.5	24.7	27.9
不満		1.0	2.1	4.1	6.4	3.5	4.9	2.7	3.8	4.5	2.2	5.1
気にしない		1.9	2.1	0.5	1.1	1.4	2.3	3.1	0.0	1.7	1.8	1.7
計		100.0(701)	100.0(1270)	100.0(218)	100.0(377)	100.0(568)	100.0(569)	100.0(223)	100.0(26)	100.0(1945)	100.0(445)	100.0(1526)
		$\chi^2=12.647$	$p>0.05$	$\chi^2=40.055$	$p>0.01$				$\chi^2=10.461$	$p>0.05$	$\chi^2=12.696$	$p>0.05$

9)消費材の美味しさ						10)青果物の鮮度					
	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	班長経験あり	班長経験なし	
満足		62.0	49.2	55.6	48.2	51.2	49.1	11.2	21.5	16.9	23.2
やや満足		36.1	42.6	39.3	43.2	42.2	42.5	53.3	43.3	47.3	41.9
やや不満		0.9	6.0	3.3	6.5	6.3	4.9	25.2	25.6	27.2	24.7
不満		0.0	1.0	0.0	1.2	1.5	0.0	10.3	8.1	7.8	8.4
気にしない		0.9	1.1	1.8	0.9	0.9	1.4	0.0	1.5	0.9	1.7
計		100.0(108)	100.0(1869)	100.0(450)	100.0(1527)	100.0(701)	100.0(1275)	100.0(107)	100.0(1830)	100.0(692)	100.0(1245)
		$\chi^2=10.195$	$p>0.05$	$\chi^2=18.868$	$p>0.01$	$\chi^2=13.383$	$p>0.05$	$\chi^2=9.612$	$p>0.05$	$\chi^2=14.700$	$p>0.01$

11)品切れ・欠品を出さない努力											
	班	戸配	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	委員経験あり	委員経験なし		
満足		26.3	34.0	42.7	36.5	31.6	27.4	26.5	27.1	33.4	
やや満足		50.9	45.5	40.8	44.4	47.8	51.3	45.1	48.9	45.3	
やや不満		13.5	11.9	9.6	9.7	12.7	13.1	15.3	12.3	12.4	
不満		1.9	2.5	1.4	3.1	1.8	2.5	3.3	2.9	2.2	
気にしない		7.4	6.1	5.5	6.3	6.2	5.7	9.8	8.7	5.7	
計		100.0(513)	100.0(1445)	100.0(218)	100.0(381)	100.0(567)	100.0(563)	100.0(215)	100.0(446)	100.0(1514)	
		$\chi^2=11.664$	$p>0.05$	$\chi^2=34.308$	$p>0.01$				$\chi^2=10.361$	$p>0.05$	

12)届いたものがイメージと合うこと											
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	委員長経験あり	委員長経験なし	班長経験あり	班長経験なし		
満足		34.3	29.1	21.8	17.8	23.1	17.9	23.9	18.9	26.1	
やや満足		52.8	50.7	55.1	56.3	50.7	54.7	53.9	56.8	52.3	
やや不満		10.2	14.7	17.1	19.6	21.3	14.2	17.1	17.9	16.4	
不満		0.5	1.0	1.4	3.0	2.3	4.7	1.7	2.1	1.7	
気にしない		2.3	4.5	4.6	3.3	2.7	8.5	3.5	4.1	3.5	
計		100.0(216)	100.0(381)	100.0(568)	100.0(572)	100.0(221)	100.0(106)	100.0(1868)	100.0(702)	100.0(1272)	
		$\chi^2=49.999$	$p>0.001$				$\chi^2=13.907$	$p>0.01$	$\chi^2=13.198$	$p>0.05$	

14)生協の取り組み等の情報の得やすさ											
	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし			
満足		52.0	33.9	32.1	34.3	36.2	33.6	34.6	33.9		
やや満足		28.0	48.1	43.4	48.1	44.9	48.7	48.4	47.6		
やや不満		20.0	8.9	17.9	8.6	12.6	8.0	10.3	8.4		
不満		0.0	1.3	0.9	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3		
気にしない		0.0	7.7	0.3	7.7	4.9	8.4	5.3	8.9		
計		100.0(25)	100.0(1940)	100.0(106)	100.0(1859)	100.0(445)	100.0(1520)	100.0(699)	100.0(1265)		
		$\chi^2=10.061$	$p>0.05$	$\chi^2=11.019$	$p>0.05$	$\chi^2=15.052$	$p>0.01$	$\chi^2=9.858$	$p>0.05$		

値は%

表3-9 生活クラブ以外の利用

	コープとうきょう	パルシステム	東都生協	自然派クラブ	東京南部生協
よくする	12.2	6.2	6.3	0.7	0.2
たまにする	18.1	2.4	2.1	0.5	0.2
あまりしない	4.2	0.9	0.9	0.6	0.4
ほとんど・まったくしない	65.5	90.5	90.7	98.2	99.3
合計	100.0(1849)	100.0(1739)	100.0(1733)	100.0(1694)	100.0(1695)
	大地を守る会	らでいっしゅぼーや	自然食品の店	ヨシケイ	タイヘイ
よくする	1.3	0.7	4.5	0.1	-
たまにする	2.2	0.8	23.6	0.6	0.1
あまりしない	0.8	1.1	6.8	0.4	0.2
ほとんど・まったくしない	95.6	97.4	65.1	98.9	99.7
合計	100.0(1707)	100.0(1689)	100.0(1777)	100.0(1697)	100.0(1689)
値は%					

表3-10 生活クラブ以外の利用×世代・役職経験

1)コープとうきょう						
	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
よくする	0.0	12.4	8.5	13.3	8.3	14.4
たまにする	13.6	16.2	22.5	16.8	21.7	16.1
あまりしない	18.2	4.0	3.8	4.3	3.8	4.4
ほとんど・全くしない	68.2	65.6	65.2	65.6	66.3	65.1
計	100.0(22)	100.0(1827)	100.0(423)	100.0(1426)	100.0(664)	100.0(1185)
	$\chi^2=13.498$	$p>0.01$	$\chi^2=12.085$	$p>0.01$	$\chi^2=20.930$	$p>0.001$

3)東都生協					
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
よくする	3.5	11.7	7.9	2.5	4.8
たまにする	3.5	2.3	2.9	1.0	1.2
あまりしない	0.5	1.4	0.6	1.2	0.0
ほとんど・全くしない	92.6	84.6	88.6	95.3	94.0
計	100.0(202)	100.0(351)	100.0(517)	100.0(462)	100.0(167)
	$\chi^2=46.492$	$p>0.001$			
値は%					

3-3 生活クラブ以外の利用

問 13 では、生活クラブ以外の、生協・業者の利用について尋ねた。表 3-9 はその結果をまとめたものである。結果はおおむね競合関係にはないが、その中で、いくつか目立った数値も表れている。

まず、コープとうきょうを利用するという回答が 3 割程度あることである。おそらく、この結果は戸配での競合というよりはむしろ、主要消費材を生活クラブから購入し、毎日あるいは補助的な買い物に店舗を利用しているパターンと推測される。自然食品の店も 3 割弱の利用という回答が得られたが、同様の理由であると思われる。デポーが普及することで、このような回答が将来的には減少する可能性はあるものと思われる。

もうひとつは、パルシステムと東都生協で 1 割弱の利用の回答があることである。数値としては無視してもよい程度のものとも考えられるものの、リーダー層への聞き取り調査では東都生協への加入経験があるという回答が複数あり、また、パルシステムでは生活クラブを意識している側面もあることが種々の文献等からうかがえることなどに着目すれば、ある程度の競合関係にあることが予想されるところであり、この点について、もう少し詳細な分析が必要になってくるかもしれない。

また、表 3-9 に上がった 10 者と加入形態・世代・役職経験との関連をクロス集計により確認した

ところ、表 3-10 のような結果が得られた。コープとうきょうに関しては、委員長経験を除く役職経験との関連が示された。役職経験は、生活クラブの消費材に対する利用を高める効果があることが推測される。また、東都生協については世代との関連性が示唆される結果となった。40 代および 50 代で相対的に利用が高くなっており、このあたりの世代では、ある種の使い分けがなされているのかもしれない。

表3-11 外食等の利用

	外食	市販の弁当	市販の惣菜	調理済冷凍食品	ファストフード
週に1回以上	6.9	2.3	5.9	8.1	0.7
月に数回	32.7	13.5	28.8	24.5	10.4
月に1回以下	45.4	29.6	29.4	24.9	31.1
利用しない	15.0	54.6	35.9	42.5	57.8
合計	100.0(1997)	100.0(1979)	100.0(1985)	100.0(1976)	100.0(1976)
値は%					

表3-12 外食等の利用×加入形態・世代・役職経験

3)市販の惣菜								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	委員長経験あり 委員長経験なし		
週に1回以上	5.5	7.0	6.6	4.3	5.5	1.8	6.1	
月に数回	31.3	36.6	33.2	21.9	19.6	23.6	29.1	
月に1回以下	32.7	28.5	28.9	31.3	25.6	26.4	29.6	
利用しない	30.4	27.9	31.3	42.4	49.3	48.2	35.2	
計	100.0(217)	100.0(383)	100.0(575)	100.0(575)	100.0(219)	100.0(110)	100.0(1875)	
	$\chi^2=64.639$ $p>0.001$					$\chi^2=9.593$ $p>0.05$		

4)調理済みの冷凍食品①							
	班	戸配	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
週に1回以上	7.2	8.4	8.7	12.3	9.4	5.1	4.2
月に数回	20.6	25.9	32.6	32.2	27.8	16.5	15.8
月に1回以下	24.3	25.2	22.0	24.1	24.2	28.2	23.7
利用しない	48.0	40.5	36.7	31.4	38.6	50.3	56.3
計	100.0(515)	100.0(1459)	100.0(219)	100.0(382)	100.0(575)	100.0(571)	100.0(215)
	$\chi^2=10.233$ $p>0.05$		$\chi^2=95.571$ $p>0.001$				

4)調理済みの冷凍食品②						
	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	班長経験あり	班長経験なし
週に1回以上	3.8	8.2	3.6	8.4	6.1	9.2
月に数回	11.5	24.7	22.7	24.6	21.2	26.3
月に1回以下	11.5	25.1	17.3	25.4	26.6	24.0
利用しない	73.1	42.1	56.4	41.6	45.0	40.5
計	100.0(26)	100.0(1950)	100.0(110)	100.0(1866)	100.0(702)	100.0(1274)
	$\chi^2=10.110$ $p>0.05$		$\chi^2=11.066$ $p>0.05$		$\chi^2=14.458$ $p>0.01$	

5)ファストフード①							
	班	戸配	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
週に1回以上	0.8	0.7	1.4	1.0	0.5	0.7	0.0
月に数回	7.8	11.4	20.6	16.4	10.8	5.4	1.9
月に1回以下	27.5	32.3	41.3	41.7	33.3	23.6	15.6
利用しない	64.0	55.6	36.7	40.9	55.4	70.1	82.5
計	100.0(516)	100.0(1458)	100.0(218)	100.0(384)	100.0(576)	100.0(571)	100.0(212)
	$\chi^2=12.249$ $p>0.01$		$\chi^2=189.031$ $p>0.001$				

5)ファストフード②								
	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
週に1回以上	0.0	0.7	0.9	0.7	0.7	0.7	0.6	0.8
月に数回	0.0	10.6	0.9	11.0	6.0	11.7	7.1	12.2
月に1回以下	7.7	31.4	28.2	31.2	28.3	31.9	27.5	33.0
利用しない	92.3	57.3	70.0	57.1	65.0	55.7	64.8	53.9
計	100.0(26)	100.0(1950)	100.0(110)	100.0(1866)	100.0(449)	100.0(1527)	100.0(702)	100.0(1274)
	$\chi^2=12.999$ $p>0.01$		$\chi^2=13.501$ $p>0.01$		$\chi^2=17.584$ $p>0.01$		$\chi^2=25.466$ $p>0.001$	

値は%

3-4 外食の利用

問 14 では、外食やいわゆる中食の類の利用頻度について尋ねた。表 3-11 はその結果をまとめたものである。全般的に利用頻度は少なく、また、一般に比べれば相当に利用頻度は低いと思われるが、他方、生活クラブの組合員家庭でも、外食や中食は一定の浸透を見せているようである。特に、外食の利用は、程度の差はあるものの、利用しているという回答が 8 割を超え、外食に続き市販の惣菜が 6 割超、調理済み冷凍食品が 6 割弱の利用となっている。主に、外食は休日、市販の惣菜は夕食、調理済み冷凍食品は昼食の弁当のおかずなどの利用が多いと考えられる。市販の弁当とファストフードの利用が半数を割っているのも、生活クラブの組合員らしさのようにも思える。

表 3-12 は、表 3-11 の 5 項目と加入形態・世代・役職経験との関連をクロス集計した結果である。

「外食」と「市販の弁当」については有意な結果を得られなかったが、「市販の惣菜」「調理済み冷凍食品」「ファストフード」については有意な結果が多数得られた。世代については3項目全てで、年齢と反比例して利用頻度が高くなっている。また、加入形態では「調理済み冷凍食品」と「ファストフード」で有意になったが、ある意味で「便利さ」あるいは「使い勝手の良さ」を追求するライフスタイルと一致するところがあるのかもしれない。また、この二つは役職経験との間でも総じて有意な結果が得られている。役職経験の累積が生活クラブのスタイルへの共鳴を意味するとすれば、「調理済み冷凍食品」や「ファストフード」はその対極にあるものなのかもしれない。

3-5 日常的な購入態度

問15では、日常的な購入態度について尋ねた。表3-13はその結果をまとめたものである。この問いでも、おおむね意識の高い結果が得られたが、項目によって多少のばらつきがあるので、それについて言及しておこう。

まず、加入前から気にかけているという回答が6割を超えた5つの項目（「添加物に気をつけている」・「多少高くても質の良いものを買う」・「修理して使えるものは使う」・「無農薬や有機栽培の野菜を買う」・「国産・外国産に関心を持つ」）は、加入してから気にかけているもあわせると9割前後の回答になっている。これらは、生活クラブの教育効果以前に、一般社会においてある程度の意識を有する人びとにとつての「常識」ともいえるものなのかもしれない。気にかけているという回答の合計が4分の3程度となった3項目（「環境負荷の高い商品は買わない」・「地元産を買うようにしている」・「購入量に気をつけている」）は、近年、食育や地産地消などといった形で一般に広く認知され始めてはいるものの、まだ途上にあるものとも考えられる。さらに、相対的に低い回答にとどまった2項目（「フェアトレードを重視する」・「メーカーの社会貢献に関心を持つ」）は、これから意識されていくものであると思われる。なお、加入してから気にかけているという回答だけに注目すると、総体的に大きな差異はなく、生活クラブの教育効果は、単純集計の上では限定的であると評価せざるを得ない。

他方、表3-14は、日常的な購入態度と加入形態・世代・役職経験の関連を示すものだが、ほとんどの項目で有意となった²。加入形態では、総じて班で「加入してから気にかけている」という回答の割合が高く、班による教育効果という、従来の仮説の有意性を示す結果となった。また、いくつかの項目で、戸配で「加入してもあまり気にかけていない」という回答の割合が高くなる傾向がみられた。これは、戸配組合員が、相対的に便利さ追求というライフスタイルを望む傾向が強いことを示すもの

² 有意とならなかったものの多くは理事監事経験および委員長経験との関連であるが、この二つは度数がきわめて少なく、それが影響しているものと考えられる。実際、割合を比較すると、有意な結果を得られなかったものについてもきわめて明瞭な違いが現われている。

表3-13 日常的な購入態度

	添加物表示に 気をつけている	環境負荷の低い商品 は買わない	地元産を買うよ うにしている	購入量に気をつ けている	多少高くても買 うの良いものを買 う
加八してから 気にかけてい る	28.6	32.0	30.9	20.5	30.9
加八する前か ら気にかけて いる	66.5	43.2	47.1	54.8	63.1
あまり気をつ けていない	4.9	24.8	22.0	24.7	6.1
合計	100.0(1994)	100.0(1986)	100.0(1946)	100.0(1928)	100.0(1987)
	修理して使える ものは使う	無農薬・有機 栽培の野菜を 買う	フェアトレードを 重視する	ベーカーの社会 貢献に関心を 持つ	国産・外国産に 関心を持つ
加八してから 気にかけてい る	15.4	28.3	32.8	30.1	30.0
加八する前か ら気にかけて いる	72.1	61.0	34.3	25.4	68.0
あまり気をつ けていない	12.5	10.8	32.9	44.5	2.0
合計	100.0(1958)	100.0(1968)	100.0(1874)	100.0(1951)	100.0(2003)

値は%

表3-14 日常的な購入態度×加入形態・世代・役職経験①

1)添加物の表示に気をつけている								
	班	戸配	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
加入してから気にかけている	35.3	26.3	47.7	27.5	40.1	25.2	38.8	23.0
加入する前から気にかけている	61.0	68.5	52.3	67.4	57.7	69.1	58.5	71.0
加入してもあまり気にかけていない	3.7	5.3	0.0	5.1	2.2	5.6	2.7	6.1
計	100.0(518)	100.0(1474)	100.0(109)	100.0(1885)	100.0(449)	100.0(1545)	100.0(709)	100.0(1285)
	$\chi^2=16.300$ $p>0.001$		$\chi^2=23.877$ $p>0.001$		$\chi^2=41.956$ $p>0.001$		$\chi^2=61.472$ $p>0.001$	

2)環境負荷の高い商品は買わないようにしている①								
	班	戸配	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
加入してから気にかけている	43.0	28.2	76.9	31.4	55.5	30.7	50.8	26.6
加入する前から気にかけている	38.8	44.6	23.1	43.4	40.0	43.3	37.4	44.8
加入してもあまり気にかけていない	18.2	27.2	0.0	25.2	4.5	26.0	11.9	28.6
計	100.0(516)	100.0(1468)	100.0(26)	100.0(1960)	100.0(110)	100.0(1876)	100.0(447)	100.0(1539)
	$\chi^2=41.548$ $p>0.001$		$\chi^2=25.584$ $p>0.001$		$\chi^2=39.521$ $p>0.001$		$\chi^2=106.940$ $p>0.001$	

2)環境負荷の高い商品は買わないようにしている②								
	班長経験あり	班長経験なし	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	
加入してから気にかけている	45.8	24.5	24.3	27.2	35.3	34.7	33.3	
加入する前から気にかけている	36.1	47.0	45.9	41.2	36.5	44.4	55.6	
加入してもあまり気にかけていない	18.1	28.5	29.8	31.7	28.1	20.8	11.1	
計	100.0(706)	100.0(1280)	100.0(218)	100.0(379)	100.0(572)	100.0(576)	100.0(225)	
	$\chi^2=96.776$ $p>0.001$		$\chi^2=57.441$ $p>0.001$					

3)地元で創った品物があれば、なるべくそちらを買うようにしている								
	班	戸配	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
加入してから気にかけている	39.9	27.8	50.0	29.8	42.3	27.6	40.9	25.4
加入する前から気にかけている	42.5	48.6	41.7	47.4	43.5	48.1	41.6	50.1
加入してもあまり気にかけていない	17.6	23.6	8.3	22.8	14.2	24.3	17.4	24.5
計	100.0(501)	100.0(1443)	100.0(108)	100.0(1838)	100.0(444)	100.0(1502)	100.0(694)	100.0(1252)
	$\chi^2=28.749$ $p>0.001$		$\chi^2=23.846$ $p>0.001$		$\chi^2=41.714$ $p>0.001$		$\chi^2=41.714$ $p>0.001$	

4)品物の量に気をつけるようにしている①								
	班	戸配	委員長経験あり	委員長経験なし	班長経験あり	班長経験なし		
加入してから気にかけている	25.3	18.8	27.4	18.5	26.9	17.0		
加入する前から気にかけている	53.6	55.3	50.0	56.2	50.4	57.2		
加入してもあまり気にかけていない	21.1	25.9	22.06	25.3	22.7	25.8		
計	100.0(502)	100.0(1424)	100.0(438)	100.0(1490)	100.0(684)	100.0(1244)		
	$\chi^2=11.251$ $p>0.01$		$\chi^2=16.612$ $p>0.001$		$\chi^2=26.764$ $p>0.001$			

4)品物の量に気をつけるようにしている②								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上			
加入してから気にかけている	14.7	16.4	19.9	22.5	30.9			
加入する前から気にかけている	55.3	54.4	53.7	56.6	53.1			
加入してもあまり気にかけていない	30.0	29.2	26.4	20.9	15.9			
計	100.0(217)	100.0(373)	100.0(564)	100.0(551)	100.0(207)			
	$\chi^2=35.235$ $p>0.001$					値は%		

表3-14 日常的な購入態度×加入形態・世代・役職経験②

5)少し値段が高くても質の良い商品を買う								
	班	戸配	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
加入してから気にかけている	39.1	28.0	40.9	30.3	38.9	28.5	38.0	26.9
加入する前から気にかけている	54.7	66.0	55.5	63.5	55.5	65.3	56.4	66.8
加入してもあまり気にかけていない	6.2	6.1	3.6	6.2	5.5	6.3	5.6	6.3
計	100.0(516)	100.0(1469)	100.0(110)	100.0(1877)	100.0(452)	100.0(1535)	100.0(708)	100.0(1279)
	$\chi^2=23.192$ $p>0.001$		$\chi^2=6.038$ $p>0.05$		$\chi^2=17.964$ $p>0.001$		$\chi^2=26.314$ $p>0.001$	

5)少し値段が高くても質の良い商品を買う					
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
加入してから気にかけている	28.4	28.5	29.2	32.9	36.2
加入する前から気にかけている	65.1	61.5	63.5	63.5	61.5
加入してもあまり気にかけていない	6.4	10.0	7.3	3.6	2.3
計	100.0(218)	100.0(379)	100.0(575)	100.0(578)	100.0(221)
	$\chi^2=26.944$ $p>0.01$				

6)修理して使えるものは使う①						
	班戸配		委員経験あり 委員経験なし		班長経験あり 班長経験なし	
加入してから気にかけている	16.7	15.0	18.1	14.6	18.1	13.9
加入する前から気にかけている	74.5	71.2	72.8	71.9	72.0	72.2
加入してもあまり気にかけていない	8.8	13.8	9.2	13.4	9.9	13.9
計	100.0(510)	100.0(1448)	100.0(448)	100.0(1510)	100.0(700)	100.0(1258)
	$\chi^2=8606$ $p>0.05$		$\chi^2=7.799$ $p>0.05$		$\chi^2=11.155$ $p>0.01$	

6)修理して使えるものは使う②					
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
加入してから気にかけている	11.0	14.6	14.8	15.1	25.4
加入する前から気にかけている	69.7	74.1	72.6	74.1	64.3
加入してもあまり気にかけていない	19.3	11.4	12.7	10.8	10.3
計	100.0(218)	100.0(378)	100.0(569)	100.0(564)	100.0(213)
	$\chi^2=29.652$ $p>0.001$				

7)無農薬や有機栽培の野菜を買う①								
	班	戸配	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
加入してから気にかけている	33.5	26.5	54.2	27.9	45.0	27.3	37.6	25.5
加入する前から気にかけている	55.8	62.8	37.5	61.3	51.4	61.5	55.9	62.5
加入してもあまり気にかけていない	10.7	10.7	8.3	10.8	3.7	11.2	6.5	12.0
計	100.0(513)	100.0(1453)	100.0(24)	100.0(1944)	100.0(109)	100.0(1859)	100.0(444)	100.0(1524)
	$\chi^2=9.879$ $p>0.01$		$\chi^2=8.105$ $p>0.05$		$\chi^2=18.541$ $p>0.001$		$\chi^2=29.819$ $p>0.001$	

7)無農薬や有機栽培の野菜を買う②							
	班長経験あり	班長経験なし	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
加入してから気にかけている	37.6	23.1	22.5	24.4	29.9	30.4	31.0
加入する前から気にかけている	54.5	64.5	63.8	59.4	58.2	61.7	65.3
加入してもあまり気にかけていない	7.9	12.4	13.8	16.2	12.0	7.9	3.7
計	100.0(699)	100.0(1269)	100.0(218)	100.0(377)	100.0(569)	100.0(572)	100.0(216)
	$\chi^2=49.637$ $p>0.001$		$\chi^2=35.521$ $p>0.001$				

8)フェアトレードを重視して多少高くても購入する①								
	班	戸配	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
加入してから気にかけている	39.3	30.6	57.3	31.3	48.4	28.1	45.1	26.1
加入する前から気にかけている	33.4	34.5	30.1	34.6	30.2	35.5	28.7	37.4
加入してもあまり気にかけていない	27.3	34.9	12.6	34.1	21.4	36.4	26.3	36.5
計	100.0(476)	100.0(1396)	100.0(103)	100.0(1771)	100.0(430)	100.0(1444)	100.0(659)	100.0(1215)
	$\chi^2=14.498$ $p>0.01$		$\chi^2=34.205$ $p>0.001$		$\chi^2=66.726$ $p>0.001$		$\chi^2=70.106$ $p>0.001$	

8)フェアトレードを重視して多少高くても購入する					
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
加入してから気にかけている	21.7	28.2	36.8	34.2	38.7
加入する前から気にかけている	33.2	27.4	31.2	37.7	47.6
加入してもあまり気にかけていない	45.2	44.4	31.9	28.1	13.6
計	100.0(217)	100.0(376)	100.0(554)	100.0(520)	100.0(191)
	$\chi^2=84.583$ $p>0.001$				

値は%

表3-14 日常的な購入態度×加入形態・世代・役職経験③

9)製造をしている会社の社会的貢献に関心を持つ①								
	班	戸配	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
加入してから気にかけている	36.1	28.0	61.5	29.7	58.3	28.4	42.2	26.5
加入する前から気にかけている	24.7	25.5	19.2	25.5	20.4	25.7	22.2	26.3
加入してもあまり気にかけていない	39.3	46.5	19.2	44.9	21.3	45.9	35.7	47.2
計	100.0(507)	100.0(1442)	100.0(26)	100.0(1925)	100.0(108)	100.0(1843)	100.0(446)	100.0(1505)
	$\chi^2=12.615$ $p>0.01$		$\chi^2=12.845$ $p>0.01$		$\chi^2=45.314$ $p>0.001$		$\chi^2=40.531$ $p>0.001$	

9)製造している会社の社会的貢献に関心を持つ②							
	班長経験あり	班長経験なし	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
加入してから気にかけている	40.6	24.3	27.5	28.8	29.9	31.1	33.7
加入する前から気にかけている	22.2	27.1	24.8	22.0	23.3	24.2	39.5
加入してもあまり気にかけていない	37.2	48.6	47.7	49.2	46.9	44.7	26.8
計	100.0(694)	100.0(1257)	100.0(218)	100.0(378)	100.0(572)	100.0(562)	100.0(205)
	$\chi^2=57.241$ $p>0.001$		$\chi^2=38.526$ $p>0.001$				

10)国産か、海外産かの違いに関心を持つ①								
	班	戸配	理事監事経験あり	理事監事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
加入してから気にかけている	41.3	26.0	61.5	29.5	50.9	28.7	43.4	26.0
加入する前から気にかけている	57.2	71.9	38.5	68.4	49.1	69.1	55.9	71.6
加入してもあまり気にかけていない	1.5	2.2	0.0	2.0	0.0	2.1	0.7	2.4
計	100.0(523)	100.0(1478)	100.0(26)	100.0(1977)	100.0(110)	100.0(1893)	100.0(454)	100.0(1549)
	$\chi^2=43.260$ $p>0.001$		$\chi^2=12.687$ $p>0.01$		$\chi^2=25.531$ $p>0.001$		$\chi^2=53.267$ $p>0.001$	

10)国産か、海外産かの違いに関心を持つ							
	班長経験あり	班長経験なし	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
加入してから気にかけている	42.0	23.3	21.6	28.3	28.8	30.9	41.0
加入する前から気にかけている	56.7	74.3	76.6	69.6	68.9	67.1	57.6
加入してもあまり気にかけていない	1.3	2.4	1.8	2.1	2.3	2.1	1.3
計	100.0(714)	100.0(1289)	100.0(218)	100.0(381)	100.0(576)	100.0(583)	100.0(229)
	$\chi^2=77.812$ $p>0.001$		$\chi^2=22.336$ $p>0.01$				

値は%

かもしれない。世代では、世代が上がるにつれて「加入してから気にかけている」の回答の割合が高くなる傾向があり、いくつかの項目で、40代と50代の間に目立った違いが現われるのが確認できる。役職経験では、高い役職に就いた経験と「加入してから気にかけている」の割合の高さおよび「加入してもあまり気にかけていない」の割合の低さとの関連が顕著である。なお、委員経験と班長経験との間に大きな差異は見られない。

ここで注意しなければならないのは、「加入してから気にかけている」と「加入する前から気にかけている」という回答の意味である。表面的にとらえてしまえば、あたかも前者の回答は、それまで気にかけていなかったことを加入によって気付かされたと受け取れる回答であるが、むしろ、加入前に知識レベルとは異なった、より深い知識を生活クラブが提供したということも考え得ることであり、役職経験との関連はむしろその考えを支持するものであるといえるように思われる。上記の考えが正しいとするならば、クロス集計の結果は、単純集計の結果とは逆に、役職や組合員歴あるいは加入形態による教育効果の存在を示唆する傾向を示しているといえる。

3-6 パソコン・携帯電話の利用

問16では、インターネット等の利用について尋ねた。表3-15はその結果をまとめたものである。「パソコンを介した情報収集は「よくする」「たまにする」の合計が6割弱に達し、商品購入やサービス予約でも4割を超えている。総務省の調査では、一般家庭のパソコンの普及率は2009年度末で約75%であるが、パソコンは、主婦にとってもごく普通の情報ツールである様子がうかがえる。他方、

携帯電話では、情報収集で約 15%、商品購入やサービス予約では 1 割を割っている。

なお、2009 年全国調査と比較すると、「インターネットでの商品・サービス購入について、「自分自身が利用している」と回答した率が、全国で 27.8%、東京 3 生協の平均が 39.9%となっており、東京における平均とほぼ同じ値となっている³。

表3-15 インターネット等の利用

	PCで情報収集	携帯電話で情報 収集	PCで商品購入や サービス予約	携帯電話で商品 購入やサービス予 約
よくする	29.7	4.6	15.9	1.9
たまにする	27.2	10.8	26.6	5.0
あまりしない	7.8	17.1	9.3	10.2
ほとんどしない	35.3	67.5	48.2	83.0
合計	100.0(1977)	100.0(1971)	100.0(1975)	100.0(1972)

³ なお、単協別では、パルシステム東京 51.6%、コープとうきょう 39.0%、東都生協 27.0%となっており、パルシステム組合員のインターネット利用の高さが際立っている。

表3-16 インターネット等の利用×世代

	1a)パソコンで情報収集				
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
よくする	59.4	42.6	34.0	14.8	5.4
たまにする	27.2	33.2	32.1	24.3	12.2
あまりしない	6.0	9.4	6.5	9.0	5.9
ほとんどしない	7.4	14.9	27.4	51.9	76.5
計	100.0(217)	100.0(383)	100.0(573)	100.0(568)	100.0(221)
	$\chi^2=464.902$ $p>0.001$				

	1b)携帯電話で情報収集				
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
よくする	19.4	7.6	2.6	0.4	0.5
たまにする	22.7	17.5	10.9	5.1	2.3
あまりしない	18.5	21.9	21.4	13.2	6.0
ほとんどしない	39.4	53.0	64.9	81.4	91.3
計	100.0(216)	100.0(383)	100.0(570)	100.0(569)	100.0(218)
	$\chi^2=325.814$ $p>0.001$				

	2a)パソコンで商品購入やサービスの予約をする				
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
よくする	37.7	24.3	17.3	5.6	3.2
たまにする	35.8	35.5	29.2	20.6	11.8
あまりしない	9.3	14.1	9.8	7.6	4.5
ほとんどしない	17.2	26.1	43.7	66.3	80.5
計	100.0(215)	100.0(383)	100.0(572)	100.0(569)	100.0(221)
	$\chi^2=375.369$ $p>0.001$				

	2b)携帯電話で商品購入やサービスの予約をする				
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
よくする	7.9	3.1	1.2	0.2	0.0
たまにする	12.6	7.3	3.9	2.1	4.1
あまりしない	18.1	13.6	11.0	6.2	5.0
ほとんどしない	61.4	76.0	83.9	91.6	90.9
計	100.0(215)	100.0(383)	100.0(571)	100.0(569)	100.0(220)
	$\chi^2=152.673$ $p>0.001$				

値は%

表3-17 インターネット等の利用×加入形態・役職経験

1a)パソコンで情報収集					値は%
	班	戸配	班長経験あり	班長経験なし	
よくする	21.0	32.8	22.6	33.6	
たまにする	28.5	26.7	28.6	26.3	
あまりしない	4.7	8.8	6.7	8.4	
ほとんどしない	45.8	31.6	41.9	31.7	
計	100.0(515)	100.0(1460)	100.0(704)	100.0(1273)	
	$\chi^2=48.650$ $p>0.001$		$\chi^2=34.871$ $p>0.001$		

1b)携帯電話で情報収集						
	班	戸配	委員経験あり	委員経験なし	班長経験あり	班長経験なし
よくする	2.5	5.3	2.7	5.1	2.7	5.6
たまにする	9.9	11.1	11.5	10.6	9.2	11.7
あまりしない	14.8	18.0	14.4	18.0	15.6	18.0
ほとんどしない	72.7	65.7	71.5	66.3	72.5	64.7
計	100.0(513)	100.0(1456)	100.0(445)	100.0(1526)	100.0(699)	100.0(1272)
	$\chi^2=11.763$ $p>0.01$		$\chi^2=8.543$ $p>0.05$		$\chi^2=16.459$ $p>0.01$	

2a)パソコンで商品購入やサービス予約				2b)携帯電話で商品購入等		
	班	戸配	班長経験あり	班長経験なし	班長経験あり	班長経験なし
よくする	9.5	18.2	9.8	19.4	0.4	2.7
たまにする	26.0	26.7	25.8	27.0	2.9	6.1
あまりしない	7.2	10.1	9.1	9.4	9.1	10.6
ほとんどしない	57.3	44.9	55.3	44.2	87.6	80.4
計	100.0(515)	100.0(1458)	100.0(705)	100.0(1270)	100.0(701)	100.0(1271)
	$\chi^2=33.737$ $p>0.001$		$\chi^2=38.107$ $p>0.001$		$\chi^2=25.976$ $p>0.001$	

表 3-16 および表 3-17 は、それぞれインターネット等の利用と世代、加入形態および役職経験との関連を示したものである。表 3-16 をみると明らかなように、パソコンおよび携帯電話による情報収集や商品購入等は、世代の効果が非常に大きい。また、パソコンと携帯電話の使われ方も、世代によって違いがあることがわかる。すなわち、30 代ではパソコンと携帯電話の双方を情報収集および商品購入等のツールとして積極的に使用する傾向があるのと対照的に、40 代ではパソコンの割合はある程度高いものの、携帯電話による情報収集および商品購入等についてはかなり低い割合を示している。このように、近年変化の著しい情報機器の使い方も、比較的近い世代の間でもかなりその使用方法に差があることがうかがえるのであり、これは、今後の生活クラブ、ひいては生協セクター全体のマーケット戦略を考える上で重要な示唆を与えているといえるだろう。スマートフォンや iPod、あるいは PDA やタブレット端末など、新たなインターネットツールは日進月歩で成長している。そして、新しい世代はこれらのツールを使いこなすと考えられる。そのような変化に対応していくことが、今後はより一層求められるのかもしれない。

なお、表 3-17 は加入形態および役職経験との有意となったクロス表の一覧だが、これらはおそらく世代の効果による結果だと思われる。

第4章 生活クラブ生協の組織的活動への参加と評価

4-1 役職経験者について

はじめに理事・幹事、委員長の経験者がどのような属性を持つのか、検討していこう¹。表4-1は、加入形態別にみた、役職経験があると回答した組合員の比率である。班配送の組合員が役職経験者の比率が高いことが伺える。だが、本調査データでは、班配送の組合員の方が年齢層が高く（表0-2）、それゆえ組合員歴も長い²ため、班配送の組合員の方が役職経験を担う機会が多いことが、上記の結果を示したともいえる。そこで、世代別に加入形態と、役職経験がある組合員の関係を見てみよう（表4-2）。表4-2から、世代をコントロールしても、班配送の組合員の方が、役職経験者が多いことがわかる。

では、役職経験を持つ組合員は、どのような性格をもっているのだろうか。以下では、2つの観点から考察していきたい。

第一に、役職経験者のリーダー経験の有無との関連である。表4-3は、理事・幹事、委員長、委員経験者が、さまざまな組織におけるリーダーを経験したことがあるかないかを割合で示したものである。また、役職経験者の両親のリーダー経験も同時に聞き、リーダー性の伝承に関する世代間の効果も検証しようと試みた。

各種委員長、委員の経験者は、生活クラブ生協とは直接関連がない組織でも、相対的にリーダーを担っている傾向が強いことが伺える。理事・幹事経験については、リーダー経験の有無について有意な差は見られない（理事・幹事経験者のサンプル数が少ないことも影響している）。その一方で、生活クラブの理事・幹事、委員長経験者は、社会運動・市民運動のリーダーの経験率が極端に高い。これ

表4-1 役職経験がある組合員と加入形態			
	理事・幹事	委員長	委員
班配送(N=528)	3.0	10.6	40.5
戸別配送(N=1497)	0.7	3.6	16.0
検定	$\chi^2=17.186$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=37.220$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=134.685$ d.f.=1 p<.001

表4-2 世代別にみた役職経験がある組合員と加入形態			
	理事・幹事	委員長	委員
【30代以下】			
班配送(N=19)	5.3	0.0	21.1
戸別配送(N=200)	0.0	0.0	4.5
検定	$\chi^2=10.575$ d.f.=1 p<.1	-	$\chi^2=8.514$ d.f.=1 p<.05
【40代】			
班配送(N=70)	1.4	5.7	25.7
戸別配送(N=316)	0.3	2.8	6.0
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=25.665$ d.f.=1 p<.001
【50代】			
班配送(N=153)	4.6	16.3	49.7
戸別配送(N=425)	0.9	5.6	23.5
検定	$\chi^2=79.58$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=16.578$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=36.308$ d.f.=1 p<.001
【60代】			
班配送(N=188)	2.1	10.6	45.7
戸別配送(N=401)	0.7	4.5	21.9
検定	n.s.	$\chi^2=8.020$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=34.830$ d.f.=1 p<.001
【70代以上】			
班配送(N=96)	3.1	7.3	30.2
戸別配送(N=142)	1.4	2.1	16.9
検定	n.s.	$\chi^2=3.817$ d.f.=1 p<.1	$\chi^2=5.859$ d.f.=1 p<.05

¹ なお、調査票では班配送の組合員を対象に「班長」の経験の有無も尋ねたが、戸別配送の組合員の中にも班配送の経験者が多く含まれ、本調査では戸別配送のみの経験者を厳密に抽出できないため、班長の分析は除外した。

は、社会運動・市民運動のリーダー経験者が、生活クラブ生協において相対的に重要な役職経験を担うことになったという可能性もあるが、生活クラブの委員長や理事・幹事に就任することによって、生活クラブ生協関連の社会運動・市民運動のリーダーに携わったという解釈の方が妥当であるかもしれない。なお、役員経験者の親がリーダー経験を持っているかどうか尋ねたが、親にリーダー経験があると、その子である組合員も役職経験を持つ傾向が弱いながらも示されている。

表4-3 役職経験者と、自分／親のリーダー経験							
学級委員・生徒会役員の経験【自分】	理事・幹事	委員長	委員	学級委員・生徒会役員経験あり【親】	理事・幹事	委員長	委員
経験あり	1.6	7.2	25.7	経験あり	1.8	7.5	25.3
経験なし	0.7	2.1	16.1	経験なし	1.2	4.9	21.7
検定	n.s.	$\chi^2=23.016$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=24.349$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	$\chi^2=5.760$ d.f.=1 p<.1	n.s.
子どものPTA会長・副会長の経験【自分】	理事・幹事	委員長	委員	子どものPTA会長・副会長の経験【親】	理事・幹事	委員長	委員
経験あり	2.3	15.5	35.2	経験あり	2.2	9.8	28.1
経験なし	1.1	3.9	20.5	経験なし	1.2	4.9	21.7
検定	n.s.	$\chi^2=60.374$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=28.745$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	$\chi^2=9.477$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=4.753$ d.f.=1 p<.05
町内会・自治会・子供会役員の経験【自分】	理事・幹事	委員長	委員	町内会・自治会・子供会役員の経験【親】	理事・幹事	委員長	委員
経験あり	1.1	7.6	29.0	経験あり	1.5	7.2	25.3
経験なし	1.4	3.7	17.0	経験なし	1.2	4.7	21.2
検定	n.s.	$\chi^2=15.038$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=41.872$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	$\chi^2=5.485$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=4.182$ d.f.=1 p<.05
サークルのリーダー【自分】	理事・幹事	委員長	委員	サークルのリーダー【親】	理事・幹事	委員長	委員
経験あり	2.0	8.6	31.0	経験あり	3.8	7.2	27.4
経験なし	0.9	4.0	18.4	経験なし	1.4	5.2	21.8
検定	$\chi^2=4.113$ d.f.=1 p<.1	$\chi^2=18.166$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=39.109$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=3.342$ d.f.=1 p<.1
社会運動・市民運動のリーダー【自分】	理事・幹事	委員長	委員	社会運動・市民運動のリーダー【親】	理事・幹事	委員長	委員
経験あり	6.7	32.0	45.3	経験あり	6.5	17.7	30.6
経験なし	1.1	4.4	21.5	経験なし	1.1	5.0	22.1
検定	$\chi^2=17.829$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=107.156$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=23.571$ d.f.=1 p<.001	検定	$\chi^2=13.495$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=18.900$ d.f.=1 p<.001	n.s.

第二に、第一の点と関連して、役職経験を持つ組合員が、どのような組織に所属し、そこで積極的な活動をしている（していた）かどうかを尋ねた（表 4-5）。パットナム（R. Putnam）は、個人にとってお互いの利益を促進するための社会的組織のことをソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と呼び、さまざまな市民活動への参加者ほど、多くの組織にさまざまな組織に加入しているとされている。役職経験者が、どのようなソーシャル・キャピタル（社会関係資本）を持っているのか、またその組織でアクティブに活動しているのかどうかを尋ねた。

その前に、組合員が生活クラブ生協以外では、どのような組織に所属し、活動しているのかを確認しておこう。表 4-4 は組合員（回答者）の所属団体と活動状況の一覧である。なお、比較する資料として、日本人の意識や行動を継続的に調査している JGSS 調査²の 2010 年調査結果をもとに、各種団体・会への加入率を算出した。JGSS 調査データは男性サンプルも含まれており、解釈には一定程度の留保が必要だが、これらの表から生活クラブ生協の組合員が、一般の人々よりもさまざまな会に所

² JGSS 調査については、<http://jgss.daishodai.ac.jp/index.html> を参照のこと。なお、本報告書で用いている JGSS のデータは、公開されている単純集計の結果を算出したものである。

属し、活動していることが見いだせる（町内会は例外的）。

表4-4 組合員の所属団体・活動状況			
	加入している	積極的に活動している	以前、活動したことがある
1)自治会・町内会	45.2	4.7	14.1
2)労働組合	3.6	0.2	4.3
3)業界団体・同業者団体	1.7	0.2	0.7
4)政治関係の団体や会（政党・後援会など）	2.2	0.9	2.5
5)ボランティアのグループ	10.7	5.9	10.7
6)生協などの消費者運動、団体	9.3	0.6	4.9
7)自然保護・環境保護団体・サークル	3.4	0.7	1.6
8)その他の市民運動・団体	2.7	1.5	2.4
9)宗教や信仰に関する団体・サークル	5.7	2.2	1.8
10)学校・PTA・父母会	14.4	5.5	30.2
11)スポーツ関係のグループやクラブ	17.5	8.1	9.5
12)趣味・教養・学習のための団体・サークル	30.6	13.0	12.8
13)同窓会・同郷会	17.4	4.0	7.0
14)その他	0.6	0.7	0.2
N=2075			
値は%			

参考：JGSS調査（2010年）：団体の加入率	
政治関連の団体や会	2.8
業界団体・同業者団体	7.7
ボランティアのグループ	8.5
市民運動・消費者運動のグループ	2.2
宗教の団体や会	7.8
スポーツ関連のグループやクラブ	19.2
趣味の会	15.8
消費生活協同組合	18.1
町内会	85.5
値は% N=5003（町内会のみ2507）	

さて、役職経験者との関連を見ていこう。表 4-5 から、全般的にいえることは、役職経験者はさまざまな組織に加入し、そこで活動をしている（していた）組合員が多いという事実である。特に、政治関連の団体や会、ボランティア団体、消費者運動・団体、自然保護・環境保護団体については、これらの活動に積極的に関わっている組合員の方が、役職経験者である比率が高くなっている。先に、生活クラブ生協の役職経験者が、社会運動・市民運動のリーダーを担っているという結果の背景には、役職に就くことによって、生活クラブ生協関連の社会運動・市民運動に関わる機会が増えたという点を述べたが、多様な種類の団体への所属、活動への関与の実態を見ると、社会組織に所属し、アクティブな組合員が生活クラブ生協の役職にも就いている可能性も示唆される。

表4-5 役員経験者とソーシャル・キャピタル

【自治会・町内会】				【学校・PTA・父母会】			
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
加入	1.1	5.5	26.2	加入	0.0	3.7	15.4
非加入	1.4	5.3	19.2	非加入	1.5	5.7	23.6
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=14.421$ d.f.=1 p<.001	検定	$\chi^2=4.539$ d.f.=1 p<.05	n.s.	$\chi^2=9.741$ d.f.=1 p<.01
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
積極的に活動	0.0	9.5	51.6	積極的に活動	1.8	0.3	16.1
活動していない	1.3	5.2	34.5	活動していない	1.3	5.4	22.8
検定	n.s.	$\chi^2=3.789$ d.f.=1 p<.1	$\chi^2=11.529$ d.f.=1 p<.01	検定	n.s.	n.s.	n.s.
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
以前活動していた	1.7	9.4	32.9	以前活動していた	2.0	9.6	33.9
していない	1.2	4.8	20.7	していない	1.0	3.6	17.4
検定	n.s.	$\chi^2=10.453$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=20.999$ d.f.=1 p<.001	検定	$\chi^2=3.161$ d.f.=1 p<.1	$\chi^2=30.175$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=67.257$ d.f.=1 p<.001
【政治関係の団体や会】				【スポーツ関係のグループ】			
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
加入	6.8	34.1	54.5	加入	0.3	4.2	23.4
非加入	1.2	4.8	21.7	非加入	1.5	5.7	22.2
検定	$\chi^2=10.884$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=72.004$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=26.743$ d.f.=1 p<.001	検定	$\chi^2=3.389$ d.f.=1 p<.1	n.s.	n.s.
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
積極的に活動	14.3	50.0	50.0	積極的に活動	1.8	7.4	28.2
活動していない	1.2	5.1	22.2	活動していない	1.2	5.3	21.9
検定	$\chi^2=18.824$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=54.573$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=6.180$ d.f.=1 p<.05	検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=3.458$ d.f.=1 p<.1
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
以前活動していた	8.0	28.0	54.0	以前活動していた	1.0	7.8	31.8
していない	1.1	4.9	21.6	していない	1.3	5.2	21.4
検定	$\chi^2=18.268$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=50.898$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=29.456$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=10.721$ d.f.=1 p<.01
【ボランティア団体】				【趣味・教養・学習サークル】			
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
加入	1.8	10.1	35.8	加入	1.1	5.1	24.4
非加入	1.2	4.9	20.8	非加入	1.4	5.6	21.5
検定	n.s.	$\chi^2=10.358$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=25.168$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	n.s.	n.s.
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
積極的に活動	2.5	12.5	35.0	積極的に活動	0.4	6.4	28.1
活動していない	1.2	5.0	21.6	活動していない	1.4	5.3	21.5
検定	n.s.	$\chi^2=12.434$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=11.655$ d.f.=1 p<.01	検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=5.732$ d.f.=1 p<.05
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
以前活動していた	3.7	9.6	29.4	以前活動していた	2.7	9.3	32.9
していない	1.0	4.9	21.6	していない	1.1	4.9	20.9
検定	$\chi^2=10.992$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=8.421$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=6.808$ d.f.=1 p<.05	検定	$\chi^2=4.778$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=8.652$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=18.924$ d.f.=1 p<.001
【消費者運動・団体】				【同窓会・同郷会】			
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
加入	2.1	11.8	38.0	加入	0.8	5.4	29.2
非加入	1.2	4.8	20.8	非加入	1.4	5.4	21.0
検定	n.s.	$\chi^2=16.124$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=28.734$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=11.307$ d.f.=1 p<.01
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
積極的に活動	8.3	41.7	58.3	積極的に活動	1.2	12.2	26.8
活動していない	1.2	5.2	22.2	活動していない	1.3	5.1	22.2
検定	n.s.	$\chi^2=30.891$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=8.969$ d.f.=1 p<.01	検定	n.s.	$\chi^2=7.628$ d.f.=1 p<.05	n.s.
	理事・幹事	委員長	委員		理事・幹事	委員長	委員
以前活動していた	2.1	21.1	67.4	以前活動していた	1.4	12.1	35.7
していない	1.2	4.7	20.2	していない	1.3	4.9	21.4
検定	n.s.	$\chi^2=47.419$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=115.972$ d.f.=1 p<.001	検定	n.s.	$\chi^2=13.217$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=15.343$ d.f.=1 p<.001
【自然保護・環境保護団体】							
	理事・幹事	委員長	委員				
加入	6.1	28.8	37.9				
非加入	1.1	4.6	21.9				
検定	$\chi^2=12.299$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=72.544$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=9.407$ d.f.=1 p<.01				
	理事・幹事	委員長	委員				
積極的に活動	0.0	42.9	57.1				
活動していない	1.3	5.2	22.2				
検定	n.s.	$\chi^2=38.484$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=9.792$ d.f.=1 p<.01				
	理事・幹事	委員長	委員				
以前活動していた	3.3	16.7	40.0				
していない	1.3	5.3	22.1				
検定	n.s.	$\chi^2=7.496$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=5.428$ d.f.=1 p<.05				

なお、学校・PTA・父母会への加入の有無と役職経験の有無についてのみ、他の組織の加入／積極的な活動経験の有無との関連と傾向が異なっている（加入していない組合員の方が、役職経験をしている比率が高い）が、現在、学校・PTA・父母会に加入している世代が、全サンプル数の中で相対的に数が少ないため、このような結果になったといえるだろう。学校・PTA・父母会がかつて積極的に活動した組合員は、活動していない組合員に比べて生活クラブ生協の役職経験者の比率が多い。

さらに、役職経験者と、組合員の社会運動・市民活動の経験との関連について見ていこう。

表 4-5 は、世代および役職経験者（理事・監事、委員長、委員）ごとにみた、生活クラブ生協が展開している社会運動・市民運動の経験率である。世代別に見ると、全般的にいえることは、50-60 代の組合員が中心的、継続的な参加経験や、署名や 1,2 回程度の会合への参加経験率が相対的に高いという点である。そして、40 代以下と 50 代以上で活動の参加経験率に段階的な差があることも見いだすことができるであろう。なお、唯一の例外が子育てに関する運動・活動であり、40 代の参加経験率が高いが、育児は 30-40 代が中心であるためであろう。

表4-5 社会運動との関連													
【1】反(脱)原発運動													
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	
中心的、継続的な参加経験あり	0.0	0.3	1.4	1.5	2.6	1.2	15.4	1.0	12.0	0.6	3.6	0.5	
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	14.9	22.0	27.5	27.0	25.4	24.6	69.2	24.0	60.2	22.5	43.1	19.1	
参加経験はほとんどない	63.5	64.2	62.3	64.4	63.7	63.6	11.5	64.0	25.9	62.6	50.3	67.2	
運動そのものを知らない	21.6	13.5	8.7	7.1	8.3	10.7	3.8	10.9	1.9	11.3	2.9	13.2	
合計	100.0(222)	100.0(377)	100.0(552)	100.0(551)	100.0(193)	100.0(1895)	100.0(26)	100.0(1897)	100.0(108)	100.0(1815)	100.0(443)	100.0(1480)	
検定	$\chi^2=60.081$ df=12 p<.001						$\chi^2=77.964$ df=3 p<.001		$\chi^2=204.850$ df=3 p<.001		$\chi^2=151.131$ df=3 p<.001		
値は%(実数)													
【2】食品問題に関わる運動・活動													
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	
中心的、継続的な参加経験あり	0.5	1.3	4.0	2.7	3.0	2.6	50.0	2.0	29.6	1.1	7.6	1.2	
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	12.2	22.6	33.5	35.1	33.5	29.3	42.3	29.3	53.7	28.1	52.7	22.5	
参加経験はほとんどない	68.8	65.7	57.0	57.7	58.5	60.4	3.8	60.7	15.7	62.6	38.0	66.6	
運動そのものを知らない	18.6	10.4	5.6	4.5	5.0	7.7	3.8	7.9	0.9	8.3	1.8	9.7	
合計	100.0(221)	100.0(376)	100.0(553)	100.0(556)	100.0(200)	100.0(1906)	100.0(26)	100.0(1910)	100.0(108)	100.0(1828)	100.0(440)	100.0(1486)	
検定	$\chi^2=105.215$ df=12 p<.001						$\chi^2=253.496$ df=3 p<.001		$\chi^2=376.177$ df=3 p<.001		$\chi^2=233.228$ df=3 p<.001		
値は%(実数)													
【3】ゴミ問題に関わる運動・活動													
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	
中心的、継続的な参加経験あり	0.9	1.3	4.3	4.2	5.0	3.4	44.0	3.0	29.4	2.0	9.5	1.7	
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	13.1	17.4	26.9	27.9	36.6	24.8	36.0	24.7	50.5	23.3	44.8	18.9	
参加経験はほとんどない	70.3	70.3	62.6	63.0	54.0	64.2	16.0	64.4	17.4	66.5	43.2	69.9	
運動そのものを知らない	15.8	11.0	6.1	4.9	4.5	7.7	4.0	7.9	2.8	8.2	2.5	9.5	
合計	100.0(222)	100.0(374)	100.0(553)	100.0(552)	100.0(202)	100.0(1903)	100.0(25)	100.0(1906)	100.0(109)	100.0(1822)	100.0(444)	100.0(1487)	
検定	$\chi^2=89.275$ df=12 p<.001						$\chi^2=128.654$ df=3 p<.001		$\chi^2=292.157$ df=3 p<.001		$\chi^2=209.504$ df=3 p<.001		
値は%(実数)													
【4】自然保護、自然環境に関わる運動・活動													
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	
中心的、継続的な参加経験あり	0.0	2.4	3.8	2.9	3.6	2.8	23.1	2.7	22.2	1.8	6.8	1.8	
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	14.9	18.3	26.8	27.5	26.9	23.9	38.5	23.9	45.4	22.9	36.5	19.8	
参加経験はほとんどない	69.7	68.7	62.6	64.3	65.5	65.4	34.6	65.3	30.6	66.9	52.5	68.6	
運動そのものを知らない	15.4	10.6	6.9	5.3	4.1	7.9	3.8	8.1	1.9	8.4	2.3	9.8	
合計	100.0(221)	100.0(377)	100.0(553)	100.0(546)	100.0(197)	100.0(1894)	100.0(26)	100.0(1898)	100.0(108)	100.0(1816)	100.0(442)	100.0(1482)	
検定	$\chi^2=57.110$ df=12 p<.001						$\chi^2=42.540$ df=3 p<.001		$\chi^2=190.930$ df=3 p<.001		$\chi^2=114.757$ df=3 p<.001		
値は%(実数)													
【5】平和運動・活動													
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	
中心的、継続的な参加経験あり	1.4	1.9	3.6	1.8	2.5	2.4	19.2	2.2	14.0	1.8	4.5	1.8	
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	10.4	13.6	21.5	22.8	25.3	19.4	42.3	19.4	40.2	18.5	30.5	16.4	
参加経験はほとんどない	71.6	71.3	67.1	69.0	67.7	69.1	34.6	69.0	43.0	70.0	61.8	70.6	
運動そのものを知らない	16.7	13.3	7.8	6.4	4.5	9.2	3.8	9.4	2.8	9.7	3.2	11.2	
合計	100.0(222)	100.0(376)	100.0(553)	100.0(548)	100.0(198)	100.0(1897)	100.0(26)	100.0(1900)	100.0(107)	100.0(1819)	100.0(442)	100.0(1484)	
検定	$\chi^2=61.573$ df=12 p<.001						$\chi^2=42.585$ df=3 p<.001		$\chi^2=102.431$ df=3 p<.001		$\chi^2=71.895$ df=3 p<.001		
値は%(実数)													
【6】人権活動													
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし	
中心的、継続的な参加経験あり	0.9	0.8	3.8	2.0	0.5	2.0	11.5	2.0	12.0	1.5	5.0	1.2	
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	9.5	9.6	15.8	15.5	14.8	13.6	26.9	13.6	27.8	12.9	19.4	12.1	
参加経験はほとんどない	72.9	74.9	71.1	73.6	76.0	73.3	57.7	73.2	55.6	74.0	70.0	73.9	
運動そのものを知らない	16.7	14.7	9.3	8.9	8.7	11.0	3.8	11.3	4.6	11.6	5.6	12.9	
合計	100.0(221)	100.0(375)	100.0(551)	100.0(549)	100.0(196)	100.0(1892)	100.0(26)	100.0(1894)	100.0(108)	100.0(1812)	100.0(443)	100.0(1477)	
検定	$\chi^2=46.332$ df=12 p<.001						$\chi^2=16.752$ df=3 p<.01		$\chi^2=79.964$ df=3 p<.001		$\chi^2=52.976$ df=3 p<.001		
値は%(実数)													

【7】災害支援に関わる運動・活動												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	1.4	0.3	1.5	0.2	1.5	0.8	0.0	0.8	3.7	0.7	1.1	0.7
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	12.6	15.5	24.4	28.5	26.9	22.7	48.0	22.6	40.2	21.9	36.3	18.9
参加経験はほとんどない	68.5	72.3	66.7	63.7	66.0	67.1	48.0	67.0	50.5	67.7	58.2	69.3
運動そのものを知らない	17.6	12.0	7.5	7.7	5.6	9.4	4.0	9.6	5.6	9.8	4.3	11.5
合計	100.0(222)	100.0(375)	100.0(550)	100.0(548)	100.0(197)	100.0(1892)	100.0(25)	100.0(1896)	100.0(107)	100.0(1814)	100.0(443)	100.0(1478)
検定	$\chi^2=65.354$ df=12 p<.001						$\chi^2=9.320$ df=3 p<.05		$\chi^2=32.580$ df=3 p<.001		$\chi^2=68.809$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												
【8】イラク戦争反対運動												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	0.0	0.3	0.4	0.4	0.0	0.3	4.0	0.3	2.8	0.2	0.7	0.2
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	5.4	8.0	13.1	16.7	16.8	12.6	32.0	12.7	34.6	11.7	21.3	10.5
参加経験はほとんどない	74.3	75.5	75.4	73.4	74.3	74.6	60.0	74.3	53.3	75.3	70.2	75.3
運動そのものを知らない	20.3	16.0	11.1	9.5	8.9	12.5	4.0	12.7	9.3	12.8	7.8	14.0
合計	100.0(222)	100.0(376)	100.0(549)	100.0(548)	100.0(191)	100.0(1883)	100.0(25)	100.0(1887)	100.0(107)	100.0(1805)	100.0(436)	100.0(1476)
検定	$\chi^2=47.400$ df=12 p<.001						$\chi^2=20.209$ df=3 p<.001		$\chi^2=70.792$ df=3 p<.001		$\chi^2=44.477$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												
【9】高齢者に関わる運動・活動												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	0.9	2.4	6.7	7.1	8.0	5.4	34.6	5.1	23.9	4.4	11.5	3.6
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	5.4	6.6	17.6	17.9	21.0	14.5	30.8	14.3	28.4	13.7	24.8	11.5
参加経験はほとんどない	75.7	76.6	67.1	67.3	65.0	69.8	30.8	70.1	45.0	71.1	59.5	72.7
運動そのものを知らない	18.0	14.4	8.5	21.5	6.0	10.3	3.8	10.5	2.8	10.8	4.3	12.2
合計	100.0(222)	100.0(376)	100.0(550)	100.0(548)	100.0(200)	100.0(1896)	100.0(26)	100.0(1899)	100.0(109)	100.0(1816)	100.0(444)	100.0(1481)
検定	$\chi^2=97.571$ df=12 p<.001						$\chi^2=52.656$ df=3 p<.001		$\chi^2=103.620$ df=3 p<.001		$\chi^2=109.295$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												
【10】障がい者に関わる運動・活動												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	1.8	3.7	6.4	6.5	5.5	5.3	19.2	5.1	15.0	4.7	7.6	4.6
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	11.3	13.9	23.6	21.5	21.9	19.4	46.2	19.2	36.4	18.5	29.3	16.6
参加経験はほとんどない	69.8	68.8	61.5	64.8	67.2	65.5	30.8	65.7	43.9	66.5	58.4	67.3
運動そのものを知らない	17.1	13.6	8.5	7.2	5.5	9.8	3.8	10.0	4.7	10.2	4.7	11.5
合計	100.0(222)	100.0(375)	100.0(551)	100.0(554)	100.0(201)	100.0(1903)	100.0(26)	100.0(1906)	100.0(107)	100.0(1825)	100.0(447)	100.0(1485)
検定	$\chi^2=28.728$ df=12 p<.001						$\chi^2=25.092$ df=3 p<.001		$\chi^2=47.792$ df=3 p<.001		$\chi^2=54.830$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												
【11】子育てに関わる運動・活動												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	3.2	8.5	9.3	4.2	4.1	6.4	26.9	6.1	19.6	5.6	10.2	5.2
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	19.0	23.3	24.7	19.1	21.1	21.8	53.8	21.5	42.1	20.8	32.1	18.9
参加経験はほとんどない	62.9	58.1	60.2	71.9	69.6	64.4	15.4	64.8	37.4	65.7	55.0	66.9
運動そのものを知らない	14.9	10.1	5.8	4.9	5.2	7.4	3.8	7.6	0.9	7.9	2.7	9.0
合計	100.0(221)	100.0(377)	100.0(550)	100.0(551)	100.0(194)	100.0(1893)	100.0(26)	100.0(1896)	100.0(107)	100.0(1815)	100.0(442)	100.0(1480)
検定	$\chi^2=62.400$ df=12 p<.001						$\chi^2=40.035$ df=3 p<.001		$\chi^2=71.541$ df=3 p<.001		$\chi^2=65.606$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												
【12】反GMO（遺伝子組み換え食品）運動・活動												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	0.0	0.8	3.3	1.1	1.0	1.5	38.5	1.0	19.4	0.4	4.9	0.5
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	11.8	21.8	34.2	32.2	32.8	28.4	50.0	28.3	60.2	26.8	51.0	21.9
参加経験はほとんどない	70.1	66.8	57.2	62.0	62.1	62.5	7.7	62.9	20.4	64.7	42.7	68.0
運動そのものを知らない	18.1	10.6	5.3	4.7	4.0	7.5	3.8	7.7	0.0	8.1	1.3	9.6
合計	100.0(221)	100.0(376)	100.0(552)	100.0(552)	100.0(198)	100.0(1899)	100.0(26)	100.0(1902)	100.0(108)	100.0(1820)	100.0(445)	100.0(1483)
検定	$\chi^2=110.762$ df=12 p<.001						$\chi^2=256.615$ df=3 p<.001		$\chi^2=325.552$ df=3 p<.001		$\chi^2=212.243$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												
【13】合成洗剤追放運動（石けん運動）												
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
中心的、継続的な参加経験あり	0.5	1.9	3.1	4.3	4.0	3.0	57.7	2.3	30.3	1.4	9.6	1.1
署名や、1,2回程度の会合への参加経験あり	4.1	13.3	27.2	27.3	32.3	22.3	30.8	22.3	50.5	20.7	46.8	15.0
参加経験はほとんどない	76.4	72.6	62.9	63.6	58.6	66.1	7.7	66.7	17.4	68.8	41.8	73.1
運動そのものを知らない	19.1	12.2	6.9	4.8	5.1	8.6	3.8	8.8	1.8	9.1	1.8	10.8
合計	100.0(220)	100.0(376)	100.0(552)	100.0(557)	100.0(198)	100.0(1903)	100.0(26)	100.0(1905)	100.0(109)	100.0(1822)	100.0(447)	100.0(1484)
検定	$\chi^2=134.646$ df=12 p<.001						$\chi^2=272.579$ df=3 p<.001		$\chi^2=368.276$ df=3 p<.001		$\chi^2=319.563$ df=3 p<.001	
値は%(実数)												

次に役職経験の有無と社会運動・市民活動の参加経験³との関係を見てみよう。理事、委員長、委員ともに役職経験がある組合員が、社会運動・市民活動の参加経験率が圧倒的に高いことがわかる。表4-4の分析において、多様な種類の団体への所属、活動への関与し、アクティブな組合員が生活クラブ生協の役職にも就いているという点を指摘したが、表4-5の結果は、生活クラブ生協のさまざまな活動の中で相対的にハードルが高い社会運動・市民運動の経験者は、生活クラブ生協の役職を担っていることを示している。もっとも、役職に就くことによって、生活クラブ生協関連の社会運動・市民運動に関わる機会が増えたという解釈も成立しうる。どちらが正しいかは、組合員が役職経験を経るキャリアパターンを考慮しなければならない。つまり、生活クラブ生協の組織的活動を積極的に担っ

³ なお、社会運動・市民運動の経験と生活クラブ生協への加入形態（班配送、戸別配送）との関連については、すべての種類の社会運動・市民運動において、班配送の組合員の方が、戸別配送の組合員よりも参加経験率が高いという結果になった（クロス表等は省略）。

てきた組合員が、役職に就くというパターンと、いきなり何らかの役職を経験することによって、徐々に生活クラブ生協のさまざまな活動、運動にコミットメントしていくというパターンが考えられるからである。それぞれの社会運動・市民運動への参加経験は、理事経験者＞委員長経験者＞委員経験者となっており、いきなり理事や委員長になることは考えられない。よって、生活クラブ生協の活動に積極的に関与して委員になった組合員が、生活クラブ生協の運動を経験し、その後、委員長や理事になっていき、さらに運動・活動に関与していくというパターンの存在を表 4-5 から確認できると考えられる。

第三に、役職経験者と本人の性格との関連について見ていきたい。あらかじめこの分析・考察に関する留意点を述べておくと、ある個人が持つ性格と役職経験の有無の直接的な因果関係を求めるものではない。その一方で、本調査と並行して実施している、生活クラブ生協の役職経験者の組合員に対して、組合員リーダーの新規リクルートメントについて聞き取り調査をすると、生活クラブ生協への関与に対する積極性を前提としながら、社交的／外向的な人、役職を引き受けてくれそうな人、こだわりがある人などをピックアップして、役職就任の打診をすることが多いという回答が顕著であった。そこで、社交性・外向性の指標として、「家にじっとしている方が落ち着く」、「友人・知人などと集まって過ごすことが好き」、他人からの依頼を許容性の指標として「私は他人から頼まれるとつい引き受けてしまう性格だ」、組合員個人のこだわりの指標として「私は必要な情報は自分で確認しないと気が済まない方だ」の 4 つの項目について調査し、役職経験の有無との関連性をみた。その結果、社交性・外向性については統計的に関連が見あらず、後者の 2 つの点のみ関連性が確認された（表 4-6）。

特に「私は他人から頼まれるとつい引き受けてしまう性格だ」という項目については、該当する組合員の方が役職経験者であるという傾向が、理事・委員長・委員ともに見られる。生活クラブ生協の組合員の聞き取り調査の中でも、引き受けた理由として役職経験者から語られた内容を裏付けたともいえるかもしれない。もっとも、役職に就くかどうかという点については、他の要因との関係でも決まってくるため、ここで述べた個人の性格がそのまま役職経験の有無と直接的に関連があるという解釈は控えるべきであろう。

表4-6 役職経験の有無と性格						
私は他人から頼まれるとつい引き受けてしまう性格だ						
	理事あり	理事なし	委員長あり	委員長なし	委員あり	委員なし
当てはまる	32.0	22.5	28.0	22.3	28.4	20.9
やや当てはまる	68.0	53.8	64.5	53.4	55.8	53.5
あまり当てはまらない	0.0	17.7	4.7	18.2	11.9	19.2
当てはまらない	0.0	6.0	2.8	6.1	3.9	6.5
合計	100.0(25)	100.0(1874)	100.0(107)	100.0(1792)	100.0(437)	100.0(1462)
検定	$\chi^2=7.831$ d.f.=3 p<.050		$\chi^2=16.267$ d.f.=3 p<.001		$\chi^2=22.752$ d.f.=3 p<.001	
私は必要な情報は自分で確認しないと気が済まない方だ						
	理事あり	理事なし	委員長あり	委員長なし	委員あり	委員なし
当てはまる	24.0	28.5	38.3	27.8	30.8	27.7
やや当てはまる	48.0	48.2	46.7	48.2	52.4	16.9
あまり当てはまらない	20.0	19.4	13.1	19.7	13.1	21.2
当てはまらない	8.0	4.0	1.9	4.2	3.7	4.1
合計	100.0(25)	100.0(1881)	100.0(107)	100.0(1799)	100.0(435)	100.0(1471)
検定	n.s.		$\chi^2=7.569$ d.f.=3 p<.1		$\chi^2=14.804$ d.f.=3 p<.001	
値は%(実数)						

4-2 組織的活動の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意志

ここまで役職経験がある組合員を中心的に見てきたが、すべての組合員に対して、生活クラブ生協の組織的活動（まち大会（支部大会）、地域大会、拡大活動（戸別訪問）、ちらしまき、キャラバン、生産者交流会、学習会、デポのワーク、まちのサークルやチームの活動、試食会や料理講習会、生産者交流会、産地見学会）の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意思について、それぞれの活動別に考察していこう。

表 4-7 は、世代別に見た組織的活動の認知度、参加経験、今後の活動意思の動向である。組織的活動の認知度は「知っていた」と回答した率、参加経験と主催経験は経験ありと回答した割合、今後の活動意思は、今後参加したいと回答した割合を世代別に記載してある。

表4-7 組織的活動の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意志×組合員の世代							
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体	検定
まち大会を知っていた	54.2	58.1	61.5	55.9	55.0	57.6	n.s.
まち大会の参加経験あり	8.4	14.4	30.9	33.3	27.3	25.5	$\chi^2=80.074$ d.f.=4 p<.001
まち大会の運営経験あり	1.3	5.7	10.8	6.4	3.3	6.6	$\chi^2=31.939$ d.f.=4 p<.001
まち大会・今後参加したい	3.6	0.5	2.4	1.2	2.1	1.8	$\chi^2=10.375$ d.f.=4 p<.01
地域大会を知っていた	48.4	43.7	49.3	46.7	44.2	46.8	n.s.
地域大会の参加経験あり	3.6	9.8	19.6	23.4	24.8	17.7	$\chi^2=70.931$ d.f.=4 p<.001
地域大会の運営経験あり	0.9	2.8	6.5	3.5	3.3	3.9	$\chi^2=17.707$ d.f.=4 p<.01
地域大会・今後参加したい	3.6	0.5	1.5	1.5	0.0	1.4	$\chi^2=13.587$ d.f.=4 p<.01
拡大活動を知っていた	33.8	42.4	52.6	47.7	45.9	46.3	$\chi^2=26.235$ d.f.=4 p<.001
拡大活動の参加経験あり	0.9	6.2	25.1	28.1	23.6	19.5	$\chi^2=135.923$ d.f.=4 p<.01
拡大活動の運営経験あり	0.0	3.9	8.8	5.4	3.7	5.3	$\chi^2=29.549$ d.f.=4 p<.01
拡大活動・今後参加したい	1.8	0.5	1.2	0.5	0.8	0.9	n.s.
ちらしまきを知っていた	41.3	44.5	49.0	41.5	43.8	44.4	n.s.
ちらしまきの参加経験あり	9.8	17.7	44.3	47.0	37.6	35.4	$\chi^2=173.563$ d.f.=4 p<.001
ちらしまきの運営経験あり	0.4	4.9	8.9	6.0	3.3	5.7	$\chi^2=26.079$ d.f.=4 p<.001
ちらしまき・今後参加したい	2.2	0.3	2.1	2.0	1.7	1.7	n.s.
キャラバンを知っていた	52.9	54.5	55.7	49.2	45.0	52.0	$\chi^2=10.805$ d.f.=4 p<.05
キャラバンの参加経験あり	6.2	14.7	33.5	34.6	27.7	26.5	$\chi^2=110.528$ d.f.=4 p<.001
キャラバンの運営経験あり	1.8	4.9	10.8	6.5	5.0	6.7	$\chi^2=27.703$ d.f.=4 p<.001
キャラバン・今後参加したい	3.1	0.5	1.7	0.8	0.0	1.2	$\chi^2=11.448$ d.f.=4 p<.05
生産者交流会を知っていた	56.9	53.7	61.5	59.5	50.4	57.6	$\chi^2=12.115$ d.f.=4 p<.05
生産者交流会の参加経験あり	14.2	17.2	27.1	25.8	21.5	22.7	$\chi^2=25.770$ d.f.=4 p<.001
生産者交流会の運営経験あり	1.8	3.9	6.5	5.0	2.1	4.5	$\chi^2=13.484$ d.f.=4 p<.01
生産者交流会・参加希望	9.8	3.6	3.6	2.5	1.2	3.7	$\chi^2=29.971$ d.f.=4 p<.001
学習会を知っていた	46.2	45.8	51.2	48.2	44.2	47.9	n.s.
学習会の参加経験あり	9.8	16.5	28.4	27.1	21.1	22.8	$\chi^2=47.446$ d.f.=4 p<.001
学習会の運営経験あり	1.8	3.9	7.2	4.8	2.5	4.7	$\chi^2=15.782$ d.f.=4 p<.01
学習会・今後参加したい	6.7	4.4	2.7	2.5	0.8	3.2	$\chi^2=16.192$ d.f.=4 p<.01
デポのワークを知っていた	35.6	39.3	39.5	39.8	35.5	38.7	n.s.
デポのワークの参加経験あり	1.3	2.3	3.1	3.0	4.1	2.8	n.s.
デポのワークの運営経験あり	0.0	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	n.s.
デポのワーク・今後参加したい	4.0	1.0	1.2	0.8	0.0	1.2	$\chi^2=18.152$ d.f.=4 p<.01
まちのサークル活動を知っていた	44.9	51.9	49.7	48.2	41.3	48.1	n.s.
まちのサークルの参加経験あり	8.9	9.5	13.2	11.5	11.2	11.3	n.s.
まちのサークルの運営経験あり	0.4	2.6	4.6	2.7	0.8	2.8	$\chi^2=15.644$ d.f.=4 p<.01
まちのサークル・今後参加したい	5.8	1.0	2.6	2.7	0.8	2.5	$\chi^2=16.513$ d.f.=4 p<.05
料理講習会を知っている	61.8	54.5	58.1	53.0	50.0	55.4	$\chi^2=9.753$ d.f.=4 p<.05
料理講習会の参加経験あり	24.0	36.8	46.0	48.2	35.1	41.2	$\chi^2=51.949$ d.f.=4 p<.001
料理講習会の運営経験あり	2.7	6.7	12.4	9.5	5.8	8.6	$\chi^2=25.537$ d.f.=4 p<.001
料理講習会・今後参加したい	18.2	5.7	4.6	3.7	1.7	5.7	$\chi^2=78.810$ d.f.=4 p<.001
産地見学会を知っている	59.1	67.4	68.0	65.9	52.9	64.5	$\chi^2=22.162$ d.f.=4 p<.001
産地見学会の参加経験あり	0.9	5.9	13.4	12.5	9.9	9.9	$\chi^2=40.019$ d.f.=4 p<.001
産地見学会の運営経験あり	0.0	2.1	3.8	3.2	0.4	2.5	$\chi^2=15.698$ d.f.=4 p<.01
産地見学会・今後参加したい	14.7	6.2	4.5	4.5	2.9	5.7	$\chi^2=40.254$ d.f.=4 p<.001

まず、組織的な活動それぞれにおいて、認知度は高いが、参加経験や運営経験の割合はかなり下回

るという傾向が見て取れる。その中で料理講習会については比較的、世代を通じて、認知度と参加経験率の差が少ない（つまり参加経験者が多い）ことがわかる。認知度と参加率の大きなギャップの存在は、組合員にとってそれぞれの生活クラブ生協の組織的な活動に対して何らかの参入障壁があることを意味しているが、「食」に直結した活動は、世代を超えて組合員が参加しやすい活動であることが確認された。その一方で、活動の認知度、参加経験において世代間に差がなかったものは、デポールのワークとまちのサークル活動であり、これらは生活クラブ生協の組織的な活動の中でも歴史が浅く、世代間の差が生じなかったと考えられる。

次に活動への参加経験と世代の関係について見てみよう。50代以上と、40代以下で参加経験の差が大きく開いている活動が多いことが見いだせる。また、それぞれの組織的活動の運営経験も、50代が中心であることがわかる。この傾向の理由は、これらの世代が生活クラブ生協の役職を担ってきた（いる）ため、運営経験率が高まったためであろう。まち大会や地域大会、ちらしまき、キャラバンなど、生活クラブ生協の基本的な組織的活動や組合員のリクルートメント活動の動向（すべての世代で活動を認知している率が高いにもかかわらず、50代以上の参加経験率、運営経験率が高い）からも伺える。もっとも、40代以下と50代以上の参加経験率の差を見たとき、40代以下の組合員が50代になることによって、生活クラブ生協の組織的な活動へのコミットメントが強くなるかどうかはわからない。現時点では、40代以下と50代以上で、生活クラブ生協の組織的な活動への参加パターンが異なっていることしか述べることはできない。

確かに、30代以下と40代を比べると、40代の組合員の方が、組織的な活動の認知度、参加率、主催経験も多いため、年齢が経ることによって、生活クラブ生協のコミットメントが強くなる可能性はある。だがその一方で、筆者らが2006年度に生活クラブ生協北海道で行った組合員調査同様に、30代以下の組合員が、どのイベントにおいても「今後参加したい」と積極的な姿勢を持っている一方で、40代以降は、今後の積極的な参加意志を示す率が減っていく。30代以下の今後の活動意志の相対的な高さは、生活クラブ生協に入ったばかりの組合員の「期待」であるかもしれないし、40代以上は生活クラブ生協に慣れる、もしくは活動に疲弊して、今後の積極的な参加意志を示していない可能性がある。30代以下の組合員の積極性が、どの程度まで持続するのか、継続的な調査が必要であろう。

続いて、加入形態と組織的活動の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意志との関連について見ていこう。表4-8はその結果を示したものである。デポールのワークについて以外は、すべての組織的活動において、班配送の組合員が戸別配送の組合員に比べて、活動の認知度、参加経験、主催経験が高いことがわかる。相対的に組合員歴が長い人が班配送であるため、上記のような結果となったと考えられる。一方、組織的な活動を今後参加したいかどうかという点については、生活クラブ生協への加入形態の差は見られない。本調査では、かつては班配送だったが、現在は戸別配送であるという組合員を同定することができないため、最初から戸別配送の組合員であった人と、班配送の組合員の違いは明確にすることはできない。だが、現在、多くの新規の組合員が戸別配送を選択するという点を考えると、生活クラブ生協の組織的な活動の参加経験、主催経験率の差は、戸別配送の組合員が、相対的に生活クラブ生協へのコミットメントが弱いということを示唆していると思われる。その中で、デポールのワークについては、今後も参加したいと回答する率が戸別配送の組合員に多い（といっても1.6%に過ぎないが）。つまり、デポールのワークは、デポールを利用する組合員が生活クラブ生協の組織的活動にかかわる接点の一つであるが、戸別配送の組合員にもその機能を持ちうると考えられる。上述したような戸別配送の組合員が相対的に生活クラブ生協の組織的活動にコミットメントしていないのであれば、戸別配送の組合員に特化したかわりとそのしくみを模索しなければならないといえる

だろう。

表4-8 組織的活動の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意志×加入形態				
	班配送	戸別配送	全体	検定
まち大会を知っていた	60.6	56.3	57.4	$\chi^2=2.999$ d.f.=1 p<.05
まち大会の参加経験あり	45.0	18.5	25.4	$\chi^2=147.604$ d.f.=1 p<.001
まち大会の運営経験あり	14.1	3.8	6.5	$\chi^2=70.244$ d.f.=1 p<.001
まち大会・今後参加したい	2.4	1.5	1.7	n.s.
地域大会を知っていた	50.6	45.0	46.4	$\chi^2=4.938$ d.f.=1 p<.05
地域大会の参加経験あり	32.5	12.4	17.6	$\chi^2=110.895$ d.f.=1 p<.001
地域大会の運営経験あり	8.0	2.4	3.9	$\chi^2=32.298$ d.f.=1 p<.001
地域大会・今後参加したい	1.3	1.4	1.4	n.s.
拡大活動を知っていた	55.8	42.6	46.0	$\chi^2=27.820$ d.f.=1 p<.001
拡大活動の参加経験あり	38.1	12.9	19.4	$\chi^2=161.965$ d.f.=1 p<.001
拡大活動の運営経験あり	11.2	3.2	5.3	$\chi^2=50.440$ d.f.=1 p<.001
拡大活動・今後参加したい	0.7	0.9	0.9	n.s.
ちらしまきを知っていた	49.3	42.4	44.2	$\chi^2=7.610$ d.f.=1 p<.01
ちらしまきの参加経験あり	61.0	26.3	35.3	$\chi^2=209.121$ d.f.=1 p<.001
ちらしまきの運営経験あり	12.1	3.5	5.7	$\chi^2=55.004$ d.f.=1 p<.001
ちらしまき・今後参加したい	2.4	1.4	1.6	n.s.
キャラバンを知っていた	55.2	50.3	51.6	$\chi^2=3.844$ d.f.=1 p<.001
キャラバンの参加経験あり	49.4	18.4	26.5	$\chi^2=196.778$ d.f.=1 p<.001
キャラバンの運営経験あり	13.6	4.2	6.7	$\chi^2=55.588$ d.f.=1 p<.001
キャラバン・今後参加したい	1.3	1.2	1.2	n.s.
生産者交流会を知っていた	60.6	56.0	57.2	$\chi^2=3.371$ d.f.=1 p<.05
生産者交流会の参加経験あり	37.5	17.6	22.8	$\chi^2=89.630$ d.f.=1 p<.001
生産者交流会の運営経験あり	8.2	3.2	4.5	$\chi^2=22.980$ d.f.=1 p<.001
生産者交流会・参加希望	3.7	3.7	3.7	n.s.
学習会を知っていた	51.3	46.3	47.6	$\chi^2=62.507$ d.f.=1 p<.05
学習会の参加経験あり	34.9	18.4	22.7	$\chi^2=62.507$ d.f.=1 p<.001
学習会の運営経験あり	9.3	3.1	4.7	$\chi^2=34.510$ d.f.=1 p<.001
学習会・今後参加したい	3.2	3.1	3.1	n.s.
デポールのワークを知っていた	42.2	37.1	38.4	$\chi^2=4.365$ d.f.=1 p<.05
デポールのワークの参加経験あり	3.9	2.5	2.9	n.s.
デポールのワークの運営経験あり	0.6	0.2	0.3	n.s.
デポールのワーク・今後参加したい	0.2	1.6	1.3	$\chi^2=6.718$ d.f.=1 p<.001
まちのサークル活動を知っていた	54.8	45.5	47.9	$\chi^2=14.012$ d.f.=1 p<.001
まちのサークルの参加経験あり	19.0	8.4	11.2	$\chi^2=44.533$ d.f.=1 p<.001
まちのサークルの運営経験あり	4.8	2.0	2.7	$\chi^2=12.480$ d.f.=1 p<.001
まちのサークル・今後参加したい	2.0	2.6	2.5	n.s.
料理講習会を知っている	52.2	56.0	55.0	n.s.
料理講習会の参加経験あり	61.5	33.8	41.0	$\chi^2=126.795$ d.f.=1 p<.001
料理講習会の運営経験あり	16.7	5.7	8.6	$\chi^2=62.092$ d.f.=1 p<.001
料理講習会・今後参加したい	4.5	6.1	5.7	n.s.
産地見学会を知っている	67.7	63.0	64.2	$\chi^2=3.814$ d.f.=1 p<.05
産地見学会の参加経験あり	17.8	7.2	10.0	$\chi^2=50.451$ d.f.=1 p<.001
産地見学会の運営経験あり	5.0	1.6	2.5	$\chi^2=19.720$ d.f.=1 p<.001
産地見学会・今後参加したい	4.6	6.1	5.7	n.s.

最後に役職経験と組織的活動の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意識との関係について考察しよう（表 4-9）。理事・監事、委員長、委員の役職経験の有無と、それぞれの組織的活動の認知、参加経験、主催経験、今後の活動意志についての割合を示した。

表4-9 組織的活動の認知度、参加経験、主催経験、今後の活動意志×加入形態／役職経験

【まち大会】			
まち大会を知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	57.7	56.4	58.4
役職経験なし	57.3	57.4	57.0
検定	n.s.	n.s.	n.s.
まち大会の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	57.7	58.2	60.4
役職経験なし	24.9	23.5	15.3
検定	$\chi^2=14.617$ df=1 p<.001	$\chi^2=66.447$ df=1 p<.001	$\chi^2=387.167$ df=1 p<.001
まち大会の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	73.1	67.3	25.8
役職経験なし	5.6	3.1	0.9
検定	$\chi^2=193.443$ df=1 p<.001	$\chi^2=711.171$ df=1 p<.001	$\chi^2=366.467$ df=1 p<.001
まち大会・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	15.4	8.2	3.2
役職経験なし	1.6	1.4	1.3
検定	$\chi^2=28.775$ df=1 p<.01	$\chi^2=28.318$ df=1 p<.001	$\chi^2=7.968$ df=1 p<.01
【地域大会】			
地域大会を知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	57.7	49.1	51.9
役職経験なし	46.2	46.2	44.8
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=7.459$ df=1 p<.01
地域大会の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	61.5	52.7	44.4
役職経験なし	17.0	15.6	9.9
検定	$\chi^2=35.081$ df=1 p<.001	$\chi^2=98.929$ df=1 p<.001	$\chi^2=297.074$ df=1 p<.001
地域大会の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	46.2	36.4	14.7
役職経験なし	3.3	2.0	0.7
検定	$\chi^2=127.087$ df=1 p<.001	$\chi^2=14.705$ df=1 p<.01	$\chi^2=189.210$ df=1 p<.001
地域大会・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	50.0	50.0	54.8
役職経験なし	45.9	45.7	43.4
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=18.677$ df=1 p<.01
【拡大活動】			
拡大活動を知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	50.0	50.0	54.8
役職経験なし	45.9	45.7	43.4
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=18.677$ df=1 p<.001
拡大活動の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	61.5	69.1	55.4
役職経験なし	18.8	16.6	9.1
検定	$\chi^2=29.969$ df=1 p<.001	$\chi^2=183.814$ df=1 p<.001	$\chi^2=494.146$ df=1 p<.001
拡大活動の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	69.2	54.5	20.1
役職経験なし	4.4	2.5	1.0
検定	$\chi^2=216.538$ df=1 p<.001	$\chi^2=567.068$ df=1 p<.001	$\chi^2=264.286$ df=1 p<.001
拡大活動・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	3.8	1.8	0.9
役職経験なし	0.8	0.8	0.9
検定	n.s.	n.s.	n.s.
【ちらしまき】			
ちらしまきを知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	50.0	48.2	40.6
役職経験なし	44.0	43.9	42.2
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=10.353$ df=1 p<.01
ちらしまきの参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	65.4	70.9	73.8
役職経験なし	34.8	33.2	24.2
検定	$\chi^2=10.493$ df=1 p<.01	$\chi^2=64.807$ df=1 p<.001	$\chi^2=387.689$ df=1 p<.001
ちらしまきの運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	73.1	61.8	22.1
役職経験なし	4.8	2.5	1.0
検定	$\chi^2=222.949$ df=1 p<.001	$\chi^2=682.376$ df=1 p<.001	$\chi^2=297.721$ df=1 p<.001
ちらしまき・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	7.7	4.5	3.0
役職経験なし	1.6	1.5	1.2
検定	n.s.	$\chi^2=6.090$ df=1 p<.05	n.s.

【学習会】			
学習会を知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	50.0	48.2	50.6
役職経験なし	47.5	47.5	46.7
検定	n.s.	n.s.	n.s.
学習会の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	61.5	68.2	56.1
役職経験なし	22.1	20.1	13.0
検定	$\chi^2=22.818$ df=1 p<.001	$\chi^2=137.944$ df=1 p<.001	$\chi^2=380.319$ df=1 p<.001
学習会の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	65.4	54.5	18.6
役職経験なし	3.9	1.9	0.7
検定	$\chi^2=217.774$ df=1 p<.001	$\chi^2=648.303$ df=1 p<.001	$\chi^2=259.174$ df=1 p<.001
学習会・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	7.7	5.5	3.5
役職経験なし	3.1	3.0	3.0
検定	n.s.	n.s.	n.s.
【デボーのワーク】			
デボーのワークを知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	53.8	46.4	43.7
役職経験なし	38.2	38.0	36.9
検定	n.s.	$\chi^2=3.106$ df=1 p<.05	$\chi^2=7.093$ df=1 p<.01
ワークの参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	0.0	4.5	5.2
役職経験なし	2.9	2.7	2.2
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=11.896$ df=1 p<.01
ワークの運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	3.8	3.6	0.6
役職経験なし	0.2	0.1	0.2
検定	n.s.	$\chi^2=45.138$ df=1 p<.001	n.s.
ワーク・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	0.0	1.3	0.4
役職経験なし	1.3	0.9	1.5
検定	n.s.	$\chi^2=6.886$ df=1 p<.01	$\chi^2=3.231$ df=1 p<.05
【まちのサークルやチームの活動】			
サークルを知っていた	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	65.4	60.0	57.8
役職経験なし	47.6	47.2	45.0
検定	n.s.	$\chi^2=6.866$ df=1 p<.05	$\chi^2=23.517$ df=1 p<.001
サークルの参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	30.8	32.7	24.7
役職経験なし	10.6	10.0	7.3
検定	$\chi^2=10.174$ df=1 p<.01	$\chi^2=54.303$ df=1 p<.001	$\chi^2=108.986$ df=1 p<.001
サークルの運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	42.3	26.4	9.1
役職経験なし	2.2	1.4	0.9
検定	$\chi^2=157.307$ df=1 p<.001	$\chi^2=247.724$ df=1 p<.001	$\chi^2=92.475$ df=1 p<.001
サークル・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	11.5	8.2	4.1
役職経験なし	2.3	2.1	2.0
検定	$\chi^2=9.056$ df=1 p<.05	$\chi^2=15.875$ df=1 p<.01	$\chi^2=6.788$ df=1 p<.05
【試食会や料理講習会】			
料理講習会を知っている	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	50.0	50.9	50.0
役職経験なし	55.1	55.2	56.4
検定	n.s.	n.s.	$\chi^2=5.974$ df=1 p<.01
料理講習会の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	61.5	63.6	73.6
役職経験なし	40.6	39.6	31.5
検定	$\chi^2=4.656$ df=1 p<.05	$\chi^2=24.919$ df=1 p<.001	$\chi^2=263.389$ df=1 p<.001
料理講習会の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	61.5	64.5	32.3
役職経験なし	7.9	5.4	1.7
検定	$\chi^2=94.821$ df=1 p<.001	$\chi^2=467.120$ df=1 p<.001	$\chi^2=428.605$ df=1 p<.001
料理講習会・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	7.7	8.2	5.6
役職経験なし	5.6	5.5	5.6
検定	n.s.	n.s.	n.s.

【キャラバン】				【産地見学会】			
キャラバンを知っている	理事・幹事	委員長	委員	産地見学会を知っている	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	53.8	48.2	51.9	役職経験あり	57.7	54.5	64.9
役職経験なし	51.4	51.7	51.3	役職経験なし	64.2	64.6	63.9
検定	n.s.	n.s.	n.s.	検定	n.s.	$\chi^2=4.604$ d.f.=1 p<.05	n.s.
キャラバンの参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員	産地見学会の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	57.7	68.2	67.5	役職経験あり	65.4	60.0	32.5
役職経験なし	26.0	24.1	14.6	役職経験なし	9.2	7.1	3.5
検定	$\chi^2=13.258$ d.f.=1 p<.01	$\chi^2=104.289$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=517.140$ d.f.=1 p<.001	検定	$\chi^2=90.557$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=325.689$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=337.665$ d.f.=1 p<.001
キャラバンの運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員	産地見学会の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	73.1	67.3	26.4	役職経験あり	50.0	33.6	10.3
役職経験なし	5.8	3.3	1.0	役職経験なし	1.9	0.7	0.3
検定	$\chi^2=187.136$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=687.603$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=373.650$ d.f.=1 p<.001	検定	$\chi^2=248.235$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=470.994$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=139.404$ d.f.=1 p<.001
キャラバン・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員	産地見学会・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	7.7	4.5	1.7	役職経験あり	15.4	10.9	6.7
役職経験なし	1.1	1.0	1.1	役職経験なし	5.6	5.4	5.4
検定	$\chi^2=9.310$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=10.891$ d.f.=1 p<.01	n.s.	検定	n.s.	$\chi^2=5.907$ d.f.=1 p<.05	n.s.
【生産者交流会】							
生産者交流会を知っている	理事・幹事	委員長	委員				
役職経験あり	50.0	49.1	54.3				
役職経験なし	57.2	57.6	58.0				
検定	n.s.	$\chi^2=3.086$ d.f.=1 p<.05	n.s.				
生産者交流会の参加経験あり	理事・幹事	委員長	委員				
役職経験あり	65.4	67.3	58.7				
役職経験なし	22.2	20.3	12.5				
検定	$\chi^2=27.239$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=131.048$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=436.156$ d.f.=1 p<.001				
生産者交流会の運営経験あり	理事・幹事	委員長	委員				
役職経験あり	61.5	50.0	17.5				
役職経験なし	3.8	1.9	0.7				
検定	$\chi^2=200.221$ d.f.=1 p<.001	$\chi^2=4.290$ d.f.=1 p<.05	$\chi^2=236.446$ d.f.=1 p<.001				
生産者交流会・今後参加したい	理事・幹事	委員長	委員				
役職経験あり	7.7	7.3	4.3				
役職経験なし	3.6	3.5	3.5				
検定	n.s.	$\chi^2=4.290$ d.f.=1 p<.05	n.s.				

表 4-9 の一連の結果を見ると、生活クラブ生協の組織的活動の認知度は、一部の活動をのぞいて、役職経験の有無とほとんど関係がない。デポのワークやまちのサークルやチームの活動については、委員長、委員経験者が未経験者よりも活動を認知しているという傾向が確認された。

一方、組織的活動の参加経験、運営経験については、役職経験がある方が、経験率が圧倒的に高いことが見いだせる。ここで行っているクロス表による分析では、さまざまな活動に参加した人が役員を担っているのか、役員を担っているからさまざまな活動に参加しているのか、因果関係は特定できない。しかし、ほとんどの組織的活動において、役職経験者は経験がない組合員と比べて、活動している割合が極端に高く、その活動の経験率は委員→委員長→理事・監事の順に上がっている。つまり、要職に就くことによって、さまざまな活動に参加し、運営もするようになったという実態が、役職経験の有無と活動の参加率、運営率の大きな差につながったと考えられるだろう。

しかしその一方で、組織的活動への今後の参加希望については、役職経験の効果はあまり見られない。その中で、比較的、役職経験の効果を確認できる活動は、まち大会、地域大会（委員のみ）、キャラバン（理事・監事、委員長）、まちのサークルやチームの活動などである。役職を担った組合員同士が協力し合って実施されるこれの組織的活動は、組合員同士で活動する面白みを発見する（同時に苦労も）場であり、一部の組合員にとっては、生活クラブ生協の組織的活動のモチベーションを見いだすことにつながっているともしえるかもしれない。

4-3 生活クラブ生協の活動・活動理念への評価

続いて、生活クラブ生協の活動と活動理念の評価について見ていこう。表 4-10 は、生活クラブ生協東京の活動に対する評価について、組合員全体の動向を示したものである。全般的には、現在の生活クラブ東京の活動をするべきだという意見が大半を示している。やや否定的な回答が多いのは、代理人運動と、多重債務者支援であるが、その組合員にとっては、他の活動と比較すると、自らの生活、立場とは距離があると考えているためであろう。また、「わからない」という回答については、多重債務者支援、ワーカーズコレクティブの法制化、代理人運動が顕著である。上述したやや否定的な回答と相関があることから、特に代理人運動と、多重債務者支援という活動は、一般の組合員にとってはやや距離があるのかもしれない。その他の活動としては、草の根市民基金・ぐらん、グリーンシステムが「わからない」と回答した率が高い。

表4-10 生活クラブ東京の活動への評価								
	1) 石けん運動	2) 代理人運動	3) ワーカーズ・コレクティブの活動	4) 多重債務者支援	5) 生き物環境調査	6) NON-GMO (遺伝子組み換え食品) 活動	7) 草の根市民基金・ぐらん	8) エッコロたすけあい制度
積極的にすべきである	47.5	17.1	32.3	7.3	34.6	67.4	21.8	42.1
ある程度活動するべき	39.0	35.1	37.8	21.1	34.2	21.5	36.1	45.6
あまり活動すべきではない	1.3	6.2	1.8	11.7	1.7	0.6	4.0	2.6
活動するべきではない	0.2	1.3	0.2	3.8	0.2	0.2	0.7	0.6
活動自体を知らない	12.0	40.4	27.9	56.1	29.3	10.3	37.4	9.2
合計	100.0(1880)	100.0(1794)	100.0(1798)	100.0(1783)	100.0(1829)	100.0(1883)	100.0(1779)	100.0(1846)
	9) CO・OP共済	10) 料理スクール、クッキングスタジオ	11) 食品表示の政策提言	12) ワーカーズコレクティブの法制化	13) 子育て支援事業	14) 地域福祉事業	15) 都市農業の育成	16) グリーンシステム
積極的にすべきである	36.3	25.9	61.5	22.3	47.5	44.1	48.3	38.1
ある程度活動するべき	50.6	57.8	26.3	33.4	36.1	35.6	29.4	24.5
あまり活動すべきではない	5.7	4.3	0.4	2.7	2.4	2.9	1.1	0.9
活動するべきではない	0.8	0.3	0.0	0.3	0.5	0.6	0.3	0.2
活動自体を知らない	6.6	11.7	11.8	41.3	13.5	16.8	20.9	36.4
合計	100.0(1831)	100.0(1814)	100.0(1857)	100.0(1760)	100.0(1864)	100.0(1865)	100.0(1862)	100.0(1833)
値: % (実数)								

では、これらの活動の評価を、世代、加入形態、役職経験の有無ごとに違いを見ていこう(表 4-11)。

まず、世代との関係を見ると、全般的にみると 50・60 代の組合員が生活クラブ生協の活動(運動)への評価が高い。より詳細に見ると、50 代～60 代の評価が高い活動(運動)は、ワーカーズ・コレクティブの活動、遺伝子組み換え食品活動、草の根市民基金・ぐらん、CO・OP 共催、食品表示の政策提言、ワーカーズ・コレクティブの法制化、地域福祉事業、グリーンシステムである。また、世代が上になるほど活動(運動)への評価が高い場合として、石けん運動、代理人運動、多重債務者支援がある。なお、代理人運動は、他の生活クラブ生協の活動(運動)と比較し、否定的な回答が多い項目である。一方、40 代以下の組合員が評価が高い場合として料理スクール・クッキングスタジオ、子育て支援事業があり、これは 40 代以下の組合員が現時点で必要とされている内容だからであろう。ただし、全般的に 40 代以下と 50 代以上の組合員の間で、生活クラブ生協の活動(運動)への理解度に差があり、40 代以下の組合員は、活動(運動)内容にもよるが、全般的に理解度が低い。これは戸配組合員が多いためであり、加入形態(班配送／戸別配送)別に見ると、活動(運動)への理解度も、評価も班配送の組合員(世代も 50 代以上である)が高いことが見いだせる。

表4-11 生活クラブ東京の活動への評価×世代、加入形態、役職経験の有無

【1】石けん運動

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計
継続的にすべきである	46.7	44.6	48.0	48.2	50.8	47.6
ある程度活動すべきである	31.9	37.2	40.7	42.2	39.2	39.3
あまり活動すべきではない	1.0	1.4	1.7	1.1	1.0	1.3
活動するべきではない	0.0	0.3	0.4	0.2	0.0	0.2
活動自体を知らない	20.5	16.5	9.2	8.3	9.0	11.6
合計	100.0(210)	100.0(352)	100.0(533)	100.0(533)	100.0(199)	100.0(1827)
検定	$\chi^2=38.990$ df=16 p<.01					
値は%(実数)						

	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	54.3	45.0	84.6	46.9	77.6	45.6	63.3	42.4
ある程度活動すべきである	37.7	39.9	11.5	39.7	22.4	40.3	35.1	40.6
あまり活動すべきではない	1.2	1.3	3.8	1.3	0.0	1.4	0.5	1.6
活動するべきではない	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2	0.2
活動自体を知らない	6.8	13.5	0.0	11.9	0.0	12.5	0.9	15.2
合計	100.0(486)	100.0(1352)	100.0(26)	100.0(1813)	100.0(107)	100.0(1732)	100.0(442)	100.0(1397)
検定	$\chi^2=22.338$ df=4 p<.001		$\chi^2=17.287$ df=4 p<.01		$\chi^2=44.952$ df=4 p<.001		$\chi^2=94.960$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

【2】代理人運動

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計
継続的にすべきである	7.7	13.0	20.6	18.8	22.3	17.2
ある程度活動すべきである	20.1	23.4	41.4	43.1	38.3	35.4
あまり活動すべきではない	1.9	4.8	6.8	7.3	6.9	6.0
活動するべきではない	0.0	0.6	0.8	2.4	2.3	1.3
活動自体を知らない	70.3	58.2	30.4	28.3	30.3	40.2
合計	100.0(209)	100.0(354)	100.0(514)	100.0(494)	100.0(199)	100.0(1827)
検定	$\chi^2=194.056$ df=16 p<.001					
値は%(実数)						

	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	26.1	13.9	46.2	16.7	47.1	15.3	33.4	12.0
ある程度活動すべきである	43.8	32.3	42.3	35.2	45.2	34.7	48.4	31.2
あまり活動すべきではない	7.6	5.5	0.9	6.1	6.7	6.0	7.2	5.7
活動するべきではない	1.7	1.1	0.0	1.3	1.0	1.3	1.9	1.0
活動自体を知らない	20.7	47.3	7.7	40.8	0.0	42.8	9.1	50.0
合計	100.0(483)	100.0(1293)	100.0(26)	100.0(1730)	100.0(104)	100.0(1652)	100.0(419)	100.0(1337)
検定	$\chi^2=105.747$ df=4 p<.001		$\chi^2=20.819$ df=4 p<.001		$\chi^2=106.674$ df=4 p<.001		$\chi^2=247.951$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

【3】ワーカーズ・コレクティブの活動

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計
継続的にすべきである	23.0	28.8	40.8	31.1	29.4	32.4
ある程度活動すべきである	26.3	32.8	38.3	44.9	41.2	37.9
あまり活動すべきではない	1.0	1.4	1.0	2.6	2.9	1.7
活動するべきではない	0.5	0.0	0.2	0.2	0.6	0.2
活動自体を知らない	49.3	37.0	19.7	21.2	25.9	27.7
合計	100.0(209)	100.0(351)	100.0(519)	100.0(499)	100.0(170)	100.0(1748)
検定	$\chi^2=110.804$ df=16 p<.01					
値は%(実数)						

	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	40.3	29.5	60.0	32.0	57.8	30.8	51.1	26.3
ある程度活動すべきである	43.8	35.9	32.0	38.0	36.3	38.0	40.5	37.1
あまり活動すべきではない	1.5	1.8	4.0	1.7	3.9	1.6	2.1	1.6
活動するべきではない	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2	0.2
活動自体を知らない	14.4	32.5	4.0	28.1	2.0	29.4	5.5	34.8
合計	100.0(459)	100.0(1301)	100.0(25)	100.0(1736)	100.0(102)	100.0(1659)	100.0(422)	100.0(1397)
検定	$\chi^2=59.477$ df=4 p<.001		$\chi^2=12.220$ df=4 p<.05		$\chi^2=51.129$ df=4 p<.001		$\chi^2=164.944$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

【4】多重債務者支援

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計
継続的にすべきである	5.7	8.2	7.4	7.0	8.1	7.3
ある程度活動すべきである	17.5	18.2	22.6	21.5	27.2	21.2
あまり活動すべきではない	10.0	8.0	11.9	13.6	13.9	11.5
活動するべきではない	1.4	2.0	3.5	5.4	5.2	3.6
活動自体を知らない	65.4	63.6	54.7	52.5	45.7	56.3
合計	100.0(211)	100.0(352)	100.0(514)	100.0(484)	100.0(173)	100.0(1734)
検定	$\chi^2=36.820$ df=16 p<.01					
値は%(実数)						

	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	7.0	7.5	13.0	7.3	10.4	7.2	9.2	6.8
ある程度活動すべきである	24.9	20.0	56.5	20.8	38.5	20.3	27.5	19.4
あまり活動すべきではない	16.2	9.8	4.3	11.6	13.5	11.3	14.9	10.4
活動するべきではない	4.0	3.5	8.7	3.6	6.3	3.5	5.7	3.1
活動自体を知らない	47.9	59.2	17.4	56.8	31.3	57.7	42.8	60.3
合計	100.0(445)	100.0(1300)	100.0(23)	100.0(1722)	100.0(96)	100.0(1649)	100.0(404)	100.0(1341)
検定	$\chi^2=22.264$ df=4 p<.001		$\chi^2=23.563$ df=4 p<.01		$\chi^2=29.120$ df=4 p<.001		$\chi^2=39.992$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

【5】生き物環境調査								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	36.1	35.4	35.3	33.2	34.6	34.7		
ある程度活動すべきである	26.0	28.7	35.1	39.0	37.9	34.2		
あまり活動すべきではない	1.4	1.4	1.4	1.9	3.3	1.7		
活動するべきではない	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1		
活動自体を知らない	36.5	36.5	27.8	25.8	24.2	29.2		
合計	100.0(208)	100.0(356)	100.0(518)	100.0(533)	100.0(182)	100.0(1779)		
検定	$\chi^2=31.817$ df=16 p<.05							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	38.8	33.4	50.0	34.6	42.5	34.3	43.8	32.0
ある程度活動すべきである	39.4	32.3	38.5	34.1	50.9	33.1	40.5	32.2
あまり活動すべきではない	1.5	1.8	0.0	1.8	0.0	1.8	2.3	1.5
活動するべきではない	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.5	0.0
活動自体を知らない	20.0	32.4	11.5	29.4	6.6	30.6	12.9	34.3
合計	100.0(469)	100.0(1323)	100.0(26)	100.0(1766)	100.0(106)	100.0(1686)	100.0(427)	100.0(1365)
検定	$\chi^2=27.098$ df=4 p<.001		n.s.		$\chi^2=32.945$ df=4 p<.001		$\chi^2=78.276$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【6】NON-GMO(遺伝子組み換え食品)活動								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	63.8	69.3	68.4	67.9	66.5	67.7		
ある程度活動すべきである	16.2	17.1	23.8	25.0	21.1	21.7		
あまり活動すべきではない	0.0	0.3	0.6	0.8	2.1	0.7		
活動するべきではない	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.1		
活動自体を知らない	20.0	13.3	7.1	6.2	10.3	9.9		
合計	100.0(210)	100.0(362)	100.0(534)	100.0(532)	100.0(194)	100.0(1832)		
検定	$\chi^2=57.908$ df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	71.3	66.4	84.6	67.4	81.3	66.8	75.6	65.2
ある程度活動すべきである	21.9	21.4	7.7	21.7	16.8	21.8	21.9	21.4
あまり活動すべきではない	0.8	0.6	0.0	0.7	0.0	0.7	0.9	0.6
活動するべきではない	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
活動自体を知らない	6.0	11.5	7.7	10.1	1.9	10.5	1.6	12.7
合計	100.0(484)	100.0(1359)	100.0(26)	100.0(1818)	100.0(107)	100.0(1737)	100.0(439)	100.0(1405)
検定	$\chi^2=13.038$ df=4 p<.05		n.s.		$\chi^2=12.694$ df=4 p<.05		$\chi^2=47.523$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【7】草の根市民基金・ぐらん								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	19.3	23.8	21.1	21.1	25.9	21.9		
ある程度活動すべきである	26.1	31.3	37.9	40.4	39.7	36.1		
あまり活動すべきではない	1.0	2.9	4.9	3.3	8.6	3.9		
活動するべきではない	0.0	0.0	1.2	1.0	0.0	0.6		
活動自体を知らない	53.6	42.0	35.0	34.1	25.9	37.5		
合計	100.0(207)	100.0(345)	100.0(512)	100.0(492)	100.0(174)	100.0(1730)		
検定	$\chi^2=64.314$ df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	28.4	19.6	53.8	21.5	34.0	21.2	31.8	18.9
ある程度活動すべきである	41.9	33.9	38.5	36.0	52.4	35.0	44.1	33.5
あまり活動すべきではない	5.0	3.5	0.0	4.0	2.9	4.0	5.8	3.3
活動するべきではない	0.4	0.7	0.0	0.6	0.0	0.7	1.2	0.5
活動自体を知らない	24.2	42.2	7.7	38.0	10.7	39.2	17.1	43.9
合計	100.0(458)	100.0(1283)	100.0(26)	100.0(1715)	100.0(103)	100.0(1638)	100.0(415)	100.0(1326)
検定	$\chi^2=49.322$ df=4 p<.001		$\chi^2=19.742$ df=4 p<.001		$\chi^2=37.397$ df=4 p<.001		$\chi^2=102.254$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【8】エコロたすけあい制度								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	46.2	44.3	40.6	42.2	42.0	42.6		
ある程度活動すべきである	44.3	44.0	48.4	45.9	41.5	45.6		
あまり活動すべきではない	6.5	1.7	3.4	2.3	3.7	2.6		
活動するべきではない	0.0	0.8	1.0	0.2	0.0	0.5		
活動自体を知らない	8.1	9.1	6.7	9.3	12.8	8.7		
合計	100.0(210)	100.0(361)	100.0(525)	100.0(514)	100.0(188)	100.0(1798)		
検定	n.s.							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	50.1	39.9	73.1	42.1	56.6	41.7	52.6	39.4
ある程度活動すべきである	42.3	46.9	26.9	45.9	42.5	45.8	44.1	46.1
あまり活動すべきではない	3.2	2.3	0.0	2.6	0.9	2.8	1.6	2.8
活動するべきではない	0.2	0.6	0.0	0.5	0.0	0.5	0.5	0.5
活動自体を知らない	4.2	10.3	0.0	8.9	0.0	9.3	1.2	11.1
合計	100.0(473)	100.0(1334)	100.0(26)	100.0(1782)	100.0(106)	100.0(1732)	100.0(426)	100.0(1382)
検定	$\chi^2=27.158$ df=4 p<.001		$\chi^2=10.938$ df=4 p<.001		$\chi^2=17.088$ df=4 p<.01		$\chi^2=52.096$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

【9】CO・OP共済								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	38.8	36.7	37.6	35.5	33.7	36.5		
ある程度活動すべきである	43.5	52.9	52.5	53.6	43.9	51.0		
あまり活動すべきではない	7.2	3.1	1.7	5.7	7.0	5.5		
活動するべきではない	1.4	0.8	0.8	0.4	0.5	0.7		
活動自体を知らない	9.1	6.4	3.3	4.9	15.0	6.3		
合計	100.0(209)	100.0(357)	100.0(518)	100.0(513)	100.0(187)	100.0(1784)		
検定	$\chi^2=48.660$ df=16 p<.01							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	40.8	35.0	46.2	36.4	41.9	36.2	43.5	34.3
ある程度活動すべきである	49.6	51.4	53.8	50.9	54.3	50.7	50.4	51.1
あまり活動すべきではない	5.6	5.4	0.0	5.5	1.9	5.7	4.0	5.9
活動するべきではない	0.4	0.8	0.0	0.7	1.0	0.7	0.7	0.7
活動自体を知らない	3.6	7.3	0.0	6.4	1.0	6.7	1.4	7.9
合計	100.0(468)	100.0(1326)	100.0(26)	100.0(1768)	100.0(105)	100.0(1689)	100.0(425)	100.0(1369)
検定	$\chi^2=11.609$ df=4 p<.05		n.s.		n.s.		$\chi^2=31.150$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【10】料理スクール、クッキングスタジオ								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	33.5	31.5	26.7	19.5	22.2	26.0		
ある程度活動すべきである	50.7	54.1	58.6	63.1	59.6	58.2		
あまり活動すべきではない	2.9	2.5	4.8	6.3	1.8	4.2		
活動するべきではない	0.0	0.0	0.6	0.4	0.0	0.3		
活動自体を知らない	12.9	11.8	9.4	10.7	16.4	11.3		
合計	100.0(209)	100.0(355)	100.0(524)	100.0(507)	100.0(171)	100.0(1766)		
検定	$\chi^2=44.734$ df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	22.7	27.0	32.0	25.8	26.2	25.9	29.2	24.9
ある程度活動すべきである	62.3	56.7	56.0	58.2	60.2	58.1	23.8	58.1
あまり活動すべきではない	5.4	3.8	8.0	4.2	9.7	3.9	6.9	3.4
活動するべきではない	0.4	0.2	0.0	0.3	1.0	0.2	0.5	0.2
活動自体を知らない	9.1	12.3	4.0	11.5	2.9	11.9	5.0	13.4
合計	100.0(462)	100.0(1314)	100.0(25)	100.0(1752)	100.0(103)	100.0(1674)	100.0(421)	100.0(1356)
検定	$\chi^2=9.884$ df=4 p<.05		n.s.		$\chi^2=16.663$ df=4 p<.01		$\chi^2=32.410$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【11】食品表示の政策提言								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	61.1	61.4	63.9	59.9	62.6	61.8		
ある程度活動すべきである	19.9	24.4	25.8	30.8	26.3	26.3		
あまり活動すべきではない	0.0	0.0	0.4	0.6	1.1	0.4		
活動するべきではない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
活動自体を知らない	19.0	14.2	10.0	8.7	10.0	11.5		
合計	100.0(211)	100.0(360)	100.0(532)	100.0(516)	100.0(190)	100.0(1809)		
検定	$\chi^2=30.797$ df=16 p<.01							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	64.0	60.9	88.5	61.3	81.9	60.4	72.3	58.4
ある程度活動すべきである	27.6	25.8	0.6	26.6	17.1	26.9	24.2	27.0
あまり活動すべきではない	0.2	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.5	0.4
活動するべきではない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
活動自体を知らない	8.2	12.8	0.0	11.8	1.0	12.3	3.0	14.3
合計	100.0(478)	100.0(1339)	100.0(26)	100.0(1792)	100.0(105)	100.0(1713)	100.0(429)	100.0(1389)
検定	$\chi^2=8.172$ df=4 p<.05		$\chi^2=8.431$ df=4 p<.05		$\chi^2=22.317$ df=4 p<.001		$\chi^2=46.853$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【12】ワーカーズコレクティブの法制化								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	13.6	18.7	28.4	20.8	28.7	22.5		
ある程度活動すべきである	26.2	32.2	32.3	37.1	37.2	33.4		
あまり活動すべきではない	1.5	1.1	2.9	4.0	4.3	2.8		
活動するべきではない	0.5	0.0	0.0	0.8	0.6	0.4		
活動自体を知らない	58.3	48.0	36.4	37.3	29.3	40.9		
合計	100.0(206)	100.0(348)	100.0(514)	100.0(480)	100.0(164)	100.0(1712)		
検定	$\chi^2=70.847$ df=16 p<.01							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	31.7	19.2	57.7	21.9	58.3	20.2	39.6	17.1
ある程度活動すべきである	36.6	32.2	30.8	33.4	29.1	33.6	36.2	32.4
あまり活動すべきではない	3.1	2.7	3.8	2.8	2.9	2.8	3.7	2.5
活動するべきではない	0.2	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.5	0.3
活動自体を知らない	28.3	45.5	7.7	41.6	9.7	43.1	20.0	47.6
合計	100.0(448)	100.0(1273)	100.0(26)	100.0(1813)	100.0(103)	100.0(1619)	100.0(409)	100.0(1313)
検定	$\chi^2=49.003$ df=4 p<.001		$\chi^2=21.977$ df=4 p<.001		$\chi^2=89.592$ df=4 p<.001		$\chi^2=130.841$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

【13】子育て支援事業								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	59.7	49.7	47.7	43.8	43.5	47.9		
ある程度活動すべきである	25.1	35.0	37.4	39.4	38.6	36.2		
あまり活動すべきではない	0.9	0.3	3.4	3.2	2.2	2.3		
活動するべきではない	0.0	0.3	0.2	0.9	0.5	0.4		
活動自体を知らない	14.2	14.7	11.3	12.7	15.2	13.1		
合計	100.0(211)	100.0(360)	100.0(532)	100.0(528)	100.0(184)	100.0(1815)		
検定	$\chi^2=39.005$ df=16 p<.01							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	50.6	46.8	76.9	47.4	61.3	46.9	55.1	45.5
ある程度活動すべきである	38.1	35.5	19.2	36.4	31.1	36.5	37.3	35.8
あまり活動すべきではない	3.1	2.5	3.8	2.3	1.9	2.4	2.3	2.4
活動するべきではない	0.2	0.5	0.0	0.4	0.0	0.5	0.5	0.4
活動自体を知らない	9.0	14.7	0.0	13.5	5.7	13.7	4.9	15.9
合計	100.0(478)	100.0(1345)	100.0(26)	100.0(1799)	100.0(106)	100.0(1719)	100.0(432)	100.0(1393)
検定	$\chi^2=11.446$ df=4 p<.05		$\chi^2=10.641$ df=4 p<.05		$\chi^2=10.606$ df=4 p<.05		$\chi^2=94.960$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【14】地域福祉事業								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	54.2	42.8	46.8	41.1	39.2	44.4		
ある程度活動すべきである	23.6	37.2	35.2	38.1	41.4	35.7		
あまり活動すべきではない	1.4	0.6	3.8	4.2	2.7	2.9		
活動するべきではない	0.0	0.3	0.4	1.1	0.5	0.6		
活動自体を知らない	20.8	19.2	13.8	15.5	16.1	16.4		
合計	100.0(212)	100.0(360)	100.0(528)	100.0(528)	100.0(186)	100.0(1814)		
検定	$\chi^2=44.103$ df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	45.6	43.9	80.8	43.8	58.1	43.5	51.7	42.0
ある程度活動すべきである	39.8	34.3	11.5	36.0	36.2	35.7	39.8	34.4
あまり活動すべきではない	3.5	2.6	3.8	2.8	1.0	3.0	2.3	3.0
活動するべきではない	0.4	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6	0.9	0.4
活動自体を知らない	10.6	18.7	3.8	16.8	4.8	17.3	5.3	20.1
合計	100.0(482)	100.0(1343)	100.0(26)	100.0(1801)	100.0(105)	100.0(1722)	100.0(435)	100.0(1392)
検定	$\chi^2=18.709$ df=4 p<.01		$\chi^2=15.025$ df=4 p<.01		$\chi^2=16.168$ df=4 p<.01		$\chi^2=55.681$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【15】都市農業の育成								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	50.2	44.7	52.1	47.9	46.2	48.6		
ある程度活動すべきである	20.9	28.1	27.1	33.7	34.9	29.3		
あまり活動すべきではない	0.5	0.3	1.1	2.1	0.5	1.1		
活動するべきではない	0.0	0.0	0.2	0.4	1.1	0.3		
活動自体を知らない	28.4	26.9	19.5	15.9	17.2	20.8		
合計	100.0(211)	100.0(360)	100.0(532)	100.0(522)	100.0(186)	100.0(1811)		
検定	$\chi^2=49.156$ df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	53.2	46.9	84.6	48.0	69.8	47.2	61.6	44.5
ある程度活動すべきである	31.7	28.5	7.7	29.6	24.5	29.6	27.8	29.8
あまり活動すべきではない	1.3	1.1	0.0	1.2	0.0	1.2	0.7	1.3
活動するべきではない	0.4	0.2	0.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.3
活動自体を知らない	13.4	23.3	7.7	20.9	5.7	21.6	9.7	24.1
合計	100.0(477)	100.0(1346)	100.0(26)	100.0(1799)	100.0(106)	100.0(1719)	100.0(432)	100.0(1393)
検定	$\chi^2=21.155$ df=4 p<.001		$\chi^2=13.809$ df=4 p<.01		$\chi^2=25.273$ df=4 p<.001		$\chi^2=54.303$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【16】グリーンシステム								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
継続的にすべきである	38.9	33.7	41.9	37.3	36.5	38.0		
ある程度活動すべきである	17.1	22.5	23.0	28.2	32.6	24.6		
あまり活動すべきではない	0.0	0.3	1.1	1.2	1.1	0.8		
活動するべきではない	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.2		
活動自体を知らない	44.1	43.5	34.0	32.9	29.3	36.3		
合計	100.0(210)	100.0(356)	100.0(530)	100.0(507)	100.0(181)	100.0(1785)		
検定	$\chi^2=40.438$ df=16 p<.01							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
継続的にすべきである	43.7	36.0	80.8	37.3	73.8	35.7	57.5	31.9
ある程度活動すべきである	28.7	23.3	7.7	24.9	17.8	25.1	25.2	24.5
あまり活動すべきではない	1.5	0.7	0.0	0.9	0.0	0.9	0.5	1.0
活動するべきではない	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2
活動自体を知らない	25.9	40.0	11.5	36.7	1.4	38.1	16.8	42.4
合計	100.0(471)	100.0(1324)	100.0(26)	100.0(1770)	100.0(107)	100.0(1689)	100.0(428)	100.0(1368)
検定	$\chi^2=31.175$ df=4 p<.001		$\chi^2=20.542$ df=4 p<.01		$\chi^2=66.315$ df=4 p<.001		$\chi^2=117.169$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

さらに役職経験の効果を見ると、役職経験者の方が、活動（運動）の理解度は圧倒的に高く、評価も高い。ただし、代理人運動、多重者債務支援などは、役職経験者でも活動（運動）への評価が分かれていることが伺える。

次に、生活クラブ生協の活動理念への共感度について見ていこう。表 4-12 は、回答者全体の動向である。おおむね生活クラブ生協の活動理念への共感度は高いといえるが、「様々な活動を通じて組合員や地域との交流をすすめる」という点については、あまり共感しない、共感しないという回答が多いことが見いだせる。では、これらの活動の評価を、世代、加入形態、役職経験の有無ごとに違いを見ていこう（表 4-13）。

	1)素性の確かな消費材を適正な価格で利用する	2)様々な活動を通じて組合員や地域との交流をすすめる	3)価格の破壊、使い捨て社会への異議申し立て	4)生産者と直接提携して、消費材を開発する	5)地域のたすけあいのネットワークづくり	6)環境に配慮した地域循環型社会をめざす
共感する	86.7	34.8	55.5	72.3	46.8	61.0
やや共感する	11.1	43.8	34.0	21.9	40.5	30.5
あまり共感しない	0.5	11.5	3.8	1.5	5.1	1.9
共感しない	0.1	2.1	0.4	0.3	0.9	0.4
わからない	1.6	7.8	6.3	4.0	6.8	6.1
合計	100.0(2005)	100.0(1982)	100.0(1978)	100.0(1986)	100.0(1983)	100.0(1978)
値: % (実数)						

【1】素性の確かな消費材を適正な価格で利用する								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
共感する	85.1	85.5	88.0	87.2	86.0	86.7		
やや共感する	10.2	12.9	10.1	11.1	11.2	11.0		
あまり共感しない	1.4	0.5	0.4	0.2	0.9	0.5		
共感しない	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1		
わからない	3.3	1.1	1.6	1.2	1.9	1.6		
合計	100.0(215)	100.0(380)	100.0(567)	100.0(570)	100.0(215)	100.0(1947)		
検定	n.s.							
値は% (実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
共感する	87.2	86.5	100.0	86.5	95.4	86.2	94.4	84.4
やや共感する	10.7	11.2	0.0	11.2	3.7	11.5	5.3	12.8
あまり共感しない	0.8	0.4	0.0	0.5	0.0	0.5	0.2	0.6
共感しない	0.2	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2
わからない	1.2	1.7	0.0	1.6	3.2	1.6	0.0	2.0
合計	100.0(516)	100.0(1444)	100.0(26)	100.0(1936)	100.0(109)	100.0(1853)	100.0(449)	100.0(1513)
検定	n.s.		n.s.		n.s.		$\chi^2=32.242$ df=4 p<.001	
値は% (実数)								
【2】様々な活動を通じて組合員や地域との交流をすすめる								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
共感する	41.4	33.9	37.1	30.7	34.8	34.8		
やや共感する	40.5	45.8	44.4	44.9	38.6	43.8		
あまり共感しない	9.3	11.1	11.2	13.0	13.0	11.7		
共感しない	1.9	1.1	1.8	3.2	0.5	1.9		
わからない	7.0	8.2	5.5	8.2	13.0	7.8		
合計	100.0(215)	100.0(380)	100.0(563)	100.0(561)	100.0(207)	100.0(1926)		
検定	$\chi^2=31.316$ df=16 p<.001							
値は% (実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
共感する	42.2	32.3	80.8	34.3	63.0	33.2	49.7	30.5
やや共感する	41.8	44.5	11.5	44.2	33.3	44.4	41.6	44.4
あまり共感しない	10.0	12.2	7.7	11.7	1.9	12.2	5.8	13.3
共感しない	0.6	2.4	0.0	2.0	0.9	2.0	1.3	2.1
わからない	5.5	8.6	0.0	7.9	0.9	8.2	1.6	9.6
合計	100.0(510)	100.0(1429)	100.0(26)	100.0(1914)	100.0(108)	100.0(1832)	100.0(447)	100.0(1493)
検定	$\chi^2=24.071$ df=4 p<.001		$\chi^2=25.058$ df=4 p<.001		$\chi^2=45.557$ df=4 p<.001		$\chi^2=83.626$ df=4 p<.001	
値は% (実数)								

【3】価格の破壊、使い捨て社会への異議申し立て								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
共感する	51.2	52.9	59.5	55.2	53.7	55.4		
やや共感する	34.4	37.0	33.5	33.9	31.7	34.2		
あまり共感しない	5.1	4.5	2.5	3.0	6.3	3.7		
共感しない	0.5	0.0	0.2	0.9	0.0	0.4		
わからない	8.8	5.6	4.3	6.9	8.3	6.2		
合計	100.0(215)	100.0(378)	100.0(561)	100.0(563)	100.0(205)	100.0(1922)		
検定	$\chi^2=27.621$ df=16 p<.05							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
共感する	60.6	53.6	92.3	54.9	80.7	53.9	68.0	51.7
やや共感する	30.4	35.5	3.8	34.5	17.4	35.1	29.3	35.6
あまり共感しない	4.1	3.6	0.0	3.8	0.0	4.0	6.8	4.6
共感しない	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.2	0.5
わからない	4.5	6.9	3.8	6.3	1.8	6.5	1.3	7.7
合計	100.0(510)	100.0(1426)	100.0(26)	100.0(1911)	100.0(109)	100.0(1828)	100.0(447)	100.0(1490)
検定	$\chi^2=9.768$ df=4 p<.05		$\chi^2=14.883$ df=4 p<.01		$\chi^2=204.850$ df=3 p<.001		$\chi^2=54.202$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【4】生産者と直接提携して、消費材を開発する								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
共感する	79.4	75.5	73.7	71.0	60.8	72.5		
やや共感する	14.0	22.4	21.7	21.7	28.2	21.7		
あまり共感しない	1.4	0.5	1.1	2.0	3.8	1.6		
共感しない	0.5	0.3	0.0	0.5	0.0	0.3		
わからない	4.7	1.3	3.5	4.8	7.2	4.0		
合計	100.0(214)	100.0(379)	100.0(566)	100.0(563)	100.0(209)	100.0(1931)		
検定	$\chi^2=44.727$ df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
共感する	75.9	71.3	100.0	72.1	87.2	71.6	79.5	70.4
やや共感する	18.8	22.7	0.0	22.0	11.0	22.3	18.1	22.8
あまり共感しない	1.8	1.4	0.0	1.6	0.9	1.6	0.9	1.7
共感しない	0.4	0.3	0.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.3
わからない	3.1	4.3	0.0	4.0	0.9	4.1	1.3	4.7
合計	100.0(510)	100.0(1434)	100.0(26)	100.0(1920)	100.0(109)	100.0(1837)	100.0(448)	100.0(1498)
検定	n.s.		$\chi^2=9.992$ df=4 p<.05		$\chi^2=12.830$ df=4 p<.05		$\chi^2=19.176$ df=4 p<.01	
値は%(実数)								
【5】地域のたすけあいのネットワークづくり								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
共感する	48.1	44.3	48.0	46.7	47.3	46.8		
やや共感する	42.1	44.3	41.1	38.3	37.7	40.7		
あまり共感しない	2.3	4.2	5.8	5.3	5.8	5.0		
共感しない	0.9	0.3	0.5	1.8	0.0	0.8		
わからない	6.5	6.9	4.6	7.8	9.2	6.7		
合計	100.0(214)	100.0(379)	100.0(565)	100.0(561)	100.0(207)	100.0(1926)		
検定	n.s.							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
共感する	50.9	45.5	80.8	46.5	69.7	45.6	55.7	44.3
やや共感する	38.2	41.4	15.4	40.9	25.7	41.4	38.5	41.2
あまり共感しない	5.1	5.0	3.8	5.0	3.7	5.1	3.4	5.5
共感しない	0.3	1.0	0.0	0.9	0.0	0.9	0.7	0.9
わからない	5.3	7.1	0.0	6.7	0.9	7.0	1.8	8.1
合計	100.0(511)	100.0(1428)	100.0(26)	100.0(1915)	100.0(109)	100.0(1832)	100.0(447)	100.0(1494)
検定	n.s.		$\chi^2=12.595$ df=4 p<.05		$\chi^2=26.189$ df=4 p<.001		$\chi^2=34.147$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								
【6】環境に配慮した地域循環型社会をめざす								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
共感する	64.0	62.5	61.7	59.1	59.3	61.1		
やや共感する	28.5	31.4	30.6	30.9	29.4	30.5		
あまり共感しない	0.5	1.3	2.3	1.8	3.4	1.9		
共感しない	0.5	0.0	0.2	0.9	0.0	0.4		
わからない	6.5	4.7	5.2	7.3	7.8	6.1		
合計	100.0(214)	100.0(379)	100.0(562)	100.0(563)	100.0(204)	100.0(1922)		
検定	$\chi^2=60.081$ df=12 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
共感する	64.8	59.9	88.5	60.8	81.7	60.0	69.7	58.6
やや共感する	27.0	31.7	7.7	30.8	15.6	31.3	26.5	31.7
あまり共感しない	2.5	1.6	0.0	1.9	0.9	1.9	1.3	2.0
共感しない	0.8	0.3	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.5
わからない	4.9	6.5	3.8	6.1	1.8	6.3	2.5	7.2
合計	100.0(512)	100.0(1423)	100.0(26)	100.0(1911)	100.0(109)	100.0(1828)	100.0(4469)	100.0(1491)
検定	$\chi^2=9.988$ df=4 p<.05		n.s.		$\chi^2=20.754$ df=4 p<.001		$\chi^2=25.693$ df=4 p<.001	
値は%(実数)								

世代別については、統計的に有意な結果になっていても、あまり世代との強い関連は見られないが、「様々な活動を通じて組合員や地域との交流をすすめる」「生産者と直接提携して、消費材を開発する」「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」という項目で、30代以下の世代でやや比率が高い。生活クラブ生協の理念に共鳴した人が組合員になっていると解釈できるかもしれない。

一方、加入形態別で見ると、「様々な活動を通じて組合員や地域との交流をすすめる」という点について、戸別配送の組合員が否定的な反応を示していることが見いだせる。組合員や地域との交流に積極的ではない組合員が、班配送ではなく、戸別配送を選択していると考えられる。

最後に、役職経験の効果については、理事や委員長については、その経験者が生活クラブ生協の理念に対して共感していることがわかる。共感しているから役職を経験するようになるという解釈と、役職経験によって共感度を増していった結果が示されているという解釈が成り立つ。もっとも、「素性の確かな消費材を適正な価格で利用する」という生活クラブ生協のもっとも基本的な理念については、役職経験にかかわらず、大多数の組合員が共感していることがわかる。

4-4 生活クラブ生協の話題についての話し相手

最後に生活クラブ生協の話題についての話し相手について見ていこう。表 4-14 は、回答者全体の動向を示したものである。話し相手については、配偶者、子ども、昔からの友人が多いが、内容によって異なっている。例えば、消費材については家族（配偶者や子ども）が多く、子育てや高齢者福祉については、家族以外にも近所の人や昔ながらの友人、子育てについては子どもを介した知人が多いことがわかる。一方で、代理人運動については、配偶者でも 1 割程度しか会話しておらず、他の内容では家族（配偶者・子ども）には話すのに対して、関心の薄さが見て取れる。

内容 \ 相手	配偶者	子ども	親戚	近所の人	昔からの友人	PTAなどの子どもを介した知人	サークルなど趣味を通じた知人	職場（パートも含む）の知人
1) 消費材	40.1	39.3	11.1	14.7	21.6	5.5	9.3	9.3
2) リユースびん	22.2	22.8	3.7	8.0	7.6	1.3	3.0	3.0
3) 代理人運動	11.7	5.7	1.5	4.9	7.2	1.4	1.9	2.5
4) 子育て	26.4	12.5	8.1	10.9	19.7	11.9	7.9	8.3
5) 高齢者福祉	31.2	11.4	9.3	10.7	18.6	3.0	8.5	8.3
6) 格差問題・貧困	26.4	13.1	3.4	4.3	12.7	2.0	4.9	5.3
N=2075								
値は%								

世代、加入形態、役職経験の有無との関連について概略を述べると以下の通りである（図表は省略）。世代については、消費材のように全世代に共通して話題となりうるテーマについては、回答者の世代を反映した話し相手、つまり、配偶者に対して話す割合が高いのは 30 代以下の回答者（組合員）、子どもは 40-60 代、近所的人是 40-50 代、PTA などの子どもを介した知人は 40 代、サークルなどの趣味を通じた友人は 50-60 代が顕著となる。一方で、子育てについては若い世代の回答者の方が、高齢者福祉については上の世代の回答者が、それぞれの相手に対して顕著に話をしている。回答者の世代を反映した、生活クラブ生協の話題を話していることがわかる。他方、代理人運動は、回答者の世代が経るほど、配偶者に対して話している。これは代理人運動に対する回答者の理解度が回答者の世代

が上であるほど高いことが関連していると思われる。

第5章 組合員（回答者）の意識行動

この章では組合員の一般的な意識や行動について言及する。なお、結果の解釈に際して、いくつかの全国調査（JGSS、NFRJ（全国家族調査））の結果も参照するが、この報告書では、回答者の大多数である女性組合員のみ分析であり、項目によっては男女差があるため、解釈には一定の配慮が必要である。また、本調査項目と同様の全国調査のデータ（SSM データなど）の最新版が公開されていないこともあり、厳密な比較はできていない。これら詳細な比較については、今後の課題としたい。

5-1 社会と個人の関係に関する意見

はじめに社会と個人の関係、個人の生き方に関する意見について見てみよう。表 5-1 は、これらの 4 つの項目に関する単純集計の結果である。前者 2 つの項目は回答者によってばらつきがあり、後者 2 つについては、肯定的な意見に偏りがあることがわかる。

	1) 今は、まず個人としての生活の内容を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない	2) 公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない	3) 地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ	4) 十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ
思う	10.4	7.1	25.6	50.2
やや思う	32.0	35.6	56.2	43.8
あまり思わない	25.1	29.3	10.6	2.7
思わない	28.0	21.0	1.4	0.6
わからない	4.5	7.0	6.2	2.9
合計	100.0(1964)	100.0(1974)	100.0(1983)	100.0(1986)
値：％(実数)				

	1) 今は、まず個人としての生活の内容を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない	2) 公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない	3) 地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ	4) 十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ
30代以下	2.216	2.205	3.098	3.338
40代	2.292	2.167	3.094	3.350
50代	2.162	2.217	3.122	3.437
60代	2.274	2.341	3.109	3.571
70代以上	2.510	2.804	3.299	3.708
全体	2.265	2.308	3.131	3.480
検定	F=4.761 p<.01	F=20.491 p<.001	F=4.098 p<.01	F=21.589 p<.001

では、世代別、加入形態別、役職経験の有無によってどのような違いがあるのだろうか。各項目について「思う」を 4 点、「やや思う」を 3 点、「あまり思わない」を 2 点、「思わない」を 1 点とし、平均点の比較（分散分析、T 検定）を行った¹。表 5-2 は、社会と個人の関係に関する意見について、世代別の得点を比較したものである。

「1）今は、まず個人としての生活の内容

を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない」という点については、70 代以上の回答者がその思うと回答する傾向が高く、逆に 50-60 代が低い。高齢者の生活不安の一端が伺える。だが、その一方で、「2）公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない」という点も、70 代以上の回答者は肯定的な意見を示しているように、一般論としては個人の犠牲を払っても、公共の利益を優先するという傾向が強い。個人の生活と一般論との差を垣間見ることができる。

¹ 分散分析と T 検定はともに平均値の差を比較するための分析手法であるが、前者は複数の項目（変数）との比較の際に用い、後者は 2 つの項目（変数）の比較に用いた。以下の分析でも同様。

一方、「3）地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的ににかかわってい

表5-3 社会と個人の関係、個人の生き方に関する意見×役職経験			
1) 今は、まず個人としての生活の内容を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない			
	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	1.840	1.860	2.111
役職経験なし	2.267	2.286	2.306
検定	F=4.519 p<.05	n.s.	n.s.
2) 公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない			
	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	2.231	2.333	2.372
役職経験なし	2.312	2.309	2.292
検定	n.s.	n.s.	n.s.
3) 地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的ににかかわっていくべきだ			
	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	3.308	3.430	3.238
役職経験なし	3.128	3.112	3.097
検定	n.s.	F=9.4258 p<.01	F=17.192 p<.001
4) 十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ			
	理事・幹事	委員長	委員
役職経験あり	3.692	3.598	3.596
役職経験なし	3.475	3.470	3.442
検定	n.s.	n.s.	F=10.565 p<.01

くべきだ」という点や、「4）十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ」という項目はそれぞれ、世代が上になるにつれて肯定的になっている。「3）地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的ににかかわっていくべきだ」という点については、役職経験の効果も見られる（表 5-3）。生活クラブ生協の役職に就くことによって、地域との関わりや政治との関わりが増えたことが背景にあると思われるが、そもそもこのような考えを持った組合員が生活クラブの役員を引き受け

るという解釈も成り立つ。なお、この点については、5-3 で地域社会の満足と関与の所でも、同様の結果が見いだせる。

さらに、加入形態との関係については、「4）十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ」という項目についてクロス表での関連（班配送の組合員の方が、肯定する人が多い）が見られたが、世代をコントロールすると関連が見られなくなった。上述したようにこの項目は世代が上になると、肯定する傾向があるが（戦後民主主義教育の影響か）、班配送の組合員が戸別配送の組合員に比べて、世代が上であるための効果がそこで見られたといえる。

5-2 経済的な豊かさに関する意見

次に経済的な豊かさに関する理想と現実に関する項目について見ていこう。表 5-4 は、経済的な豊かさに対する個人の意見と、現実についての認識について示したものである。個人の意見はばらつきがあるが、現実についての認識は実績主義（業績主義）が凌駕していることが見いだせる。

表 5-5 は、経済的な豊かさに関する個人の意見と世代との関連であるが、若い世代ほど実績主義（業績主義）であることが見いだせる。また、現実に対する認識については、60 代以上では、努力した人が経済的な豊かさを得ているという回答が相対的に多い（クロス表でも有意な結果：表は省略）が、全体としては実績主義が中心であるという結果になった。なお、加入形態、役職経験との関連については有意な関連は見いだせなかった。

表5-4 経済的な豊かさに対する意見と現実(単純集計)		
	自分の意見	現実
1) 実績をあげた人ほど多く得るのが望ましい	13.2	86.7
2) 努力した人ほど多く得るのが望ましい	47.8	3.8
3) 必要としている人が必要だけ得るのが望ましい	28.6	4.5
4) 誰でもが同じくらいに得るのが望ましい	10.3	5.1
合計	100.0(1882)	100.0(1727)
値: %(実数)		

表5-5 経済的な豊かさに対する意見×世代						
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
1)実績をあげた人ほど多く得るのが望ましい	18.3	17.6	13.4	9.9	7.9	13.2
2)努力した人ほど多く得るのが望ましい	46.9	44.5	47.3	51.1	49.1	48.0
3)必要としている人が必要なだけ得るのが望ましい	27.7	31.6	27.3	27.9	28.0	28.4
4)誰でもが同じくらいに得るのが望ましい	7.0	6.3	11.9	11.0	15.0	10.4
合計	100.0(213)	100.0(364)	100.0(528)	100.0(534)	100.0(214)	100.0(1853)
値: %(実数)	$\chi^2=36.045$ df=12 p<.001					

5-3 地域社会への満足度と関与

次に、回答者が居住する地域社会への満足度と、関与に関して見ていこう。表 5-6 は、地域社会への満足度と世代とのクロス表である。50 代と 60 代の回答者が、地域社会に対して相対的に不満が多

表5-6 地域社会への満足度×世代						
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	全体
満足	19.1	19.4	10.1	14.8	26.5	16.2
やや満足	57.7	56.0	58.6	60.5	54.9	58.1
やや不満	13.2	13.1	19.2	14.8	11.9	15.2
不満	4.1	3.7	5.5	4.2	3.5	4.4
わからない	5.9	7.9	6.6	5.7	3.1	6.1
合計	100.0(220)	100.0(382)	100.0(563)	100.0(575)	100.0(226)	100.0(19663)
値: %(実数)	$\chi^2=50.703$ df=12 p<.001					

い結果となっている。また、地域社会への満足度と地域社会への関

与の積極性については、クロス表(カイ二乗検定)で有意な結果であり、相関分析を行うと.249 (p<.001)であった。なお、JGSS 調査(2010 年)において、「住んでいる地域の満足度」に関するデータを見ると、満足: 30.5%、やや満足 29.1%、中間: 29.1%、やや不満: 7.7%、不満: 2.3%、無回答: 1.2% (N=5003) となっており、生活クラブ生協の組合員は相対的に地域社会への満足度は高いとみてよいであろう。

表5-7 地域社会への関与×世代、加入形態、役職経験の有無								
	30代以下	40代	50代	60代	70代以上	合計		
積極的に関わりたい	5.5	2.4	3.1	3.2	3.2	3.2		
できるだけ関わりたい	53.9	58.2	53.0	57.9	66.7	57.1		
なるべく関わりたくない	16.6	18.3	23.7	26.0	12.6	21.2		
全く関わりたくない	0.9	1.9	0.5	1.1	3.2	1.3		
わからない	23.0	19.3	19.7	11.9	14.4	17.1		
合計	100.0(217)	100.0(378)	100.0(557)	100.0(565)	100.0(222)	100.0(1939)		
検定	χ ² =57.045 df=16 p<.001							
値は%(実数)								
	班配送	戸別配送	理事監事経験あり	理事幹事経験なし	委員長経験あり	委員長経験なし	委員経験あり	委員経験なし
積極的に関わりたい	4.3	2.8	7.7	3.2	11.2	2.8	3.8	3.2
できるだけ関わりたい	69.3	52.6	76.9	56.6	70.1	56.1	67.2	53.8
なるべく関わりたくない	14.6	23.9	11.5	21.6	7.5	22.2	17.1	22.7
全く関わりたくない	1.0	1.4	0.0	1.3	2.8	1.2	1.1	1.3
わからない	10.9	19.3	3.8	17.3	8.4	17.6	10.9	19.0
合計	100.0(515)	100.0(1454)	100.0(26)	100.0(1947)	100.0(107)	100.0(1866)	100.0(451)	100.0(1522)
検定	χ ² =52.852 df=4 p<.001		n.s.		χ ² =42.441 df=4 p<.001		χ ² =30.058 df=4 p<.001	
値は%(実数)								

さて、表 5-7 は、地域社会への関与の積極性と、世代・加入形態、役職経験の有無についてのクロス表である。世代については、70 代の回答者の積極性と、50 代～60 代がなるべく関わりたくないという回答、40 代以下がわからないと回答しているという傾向が見いだせる。もっとも、必ずしも若い世代が非積極的であるというわけではなく、30 代以下の回答者で「積極的に関わりたい」という回答は全世代の中で最も多い。

加入形態との関連は、班配送の組合員の方がやや地域への積極的な関与を希望しているという結果が見いだせる。表は省略するが、世代でコントロールすると、60 代・70 代以上は 1% 有意で、30 代と 50 代は 10% 有意で、班配送の組合員の方が地域への積極的な関与を求めている。戸別配送は、班配送と違って、組合員同士の関わり合いを求めない（求めることができない）組合員であると考えれば、関わりをいとわない班配送の組合員の方が、地域への積極的な関与を求めるという点も理解できるであろう。

最後に、役職経験の有無との関連については、5-1 でも述べたように、役職経験者が地域社会への積極的に関与すべきだと考えていることが見いだせる。

5-4 高齢者介護、障がい者福祉、子育ての担い手について

高齢者介護、障がい者福祉、子育ての担い手について、どの主体が担うべきかを尋ねた。回答を一つだけに限定したこともあり、「答えにくい」という回答が多かったが、これは設問の設定ミスでもある。表 5-8 は、高齢者介護、障がい者福祉、子育てに関する意見をまとめた単純集計結果であるが、国や地方自治体に回答が集中し、生活クラブが担い手になるべきだという回答はごく少数である。

5-8 介護等の担い手に関する意見/JGSS調査結果						
	高齢者介護	障がい者介護	子育て		高齢者の医療や介護(2010年)	保育・育児(2006年)
1: 国	33.6	46.9	13.4	個人や家族の責任	2.0	20.6
2: 地方自治体	40.0	37.8	26.7	・	4.0	21.8
3: 生活クラブ	0.8	0.5	0.8	・	20.5	30.6
4: ワーカーズコレクティブ	3.2	2.6	3.8	・	37.1	15.5
5: 民間業者	5.0	1.8	1.6	国や自治体の責任	35.1	9.5
6: 家族・親族	9.8	2.1	48.4	無回答	1.4	2.0
7: わからない	7.6	8.3	5.3	合計	100.0(5003)	100.0(2130)
合計	100.0(1886)	100.0(1893)	100.0(1883)			

JGSS の調査データを見ると、高齢者の医療や介護は国や自治体の責任、保育や育児は個人や家族の責任という傾向が見られ、生活クラブ生協の組合員の考えとほぼ同様と考えて良いであろう。

5-5 政治・経済・生活・家族・女性・福祉に対する一般的な意見

最後に、政治・経済・生活・家族・女性・福祉に対する一般的な意見の動向について見ていこう。

(1) 政治に関する意識、一般的な意見

表 5-9 は、政治に関する意識について、回答者全体の動向を示したものである。

	1) 批判ばかりしていても世の中は変わらない	2) 政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない	3) 自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない	4) 選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい投票しなくても影響はない	5) この複雑な世の中で何をすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	6) 国会議員は、おおよっぱに言っただけで、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	7) 今の政党の中には、信頼のおけるものはない	8) 保守か革新かと聞かれれば、私の立場は革新だ
思う	67.2	13.9	13.7	1.4	3.3	34.6	33.5	19.2
やや思う	27.0	48.0	33.2	9.1	12.7	45.1	41.9	29.6
あまり思わない	3.1	20.9	26.6	18.4	40.4	12.4	12.5	19.6
思わない	2.0	13.1	24.0	70.1	38.0	3.5	5.6	8.8
わからない	0.7	4.1	2.6	0.9	5.7	4.5	6.5	22.8
合計	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)
値: % (実数)								

	2) 政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない	3) 自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない	4) 選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい投票しなくても影響はない	6) 国会議員は、おおよっぱに言っただけで、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる
思う	19.8	21.0	3.2	42.7
やや思う	43.5	36.3	10.4	38.0
あまり思わない	24.8	29.5	28.5	11.0
思わない	9.6	10.7	55.8	6.1
わからない	2.3	2.5	2.0	2.2
合計	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)	100.0(2507)
値: % (実数)				

これらの項目のうち、項目 2)～項目 3) は、政治的有効性感覚と呼ばれ、自分を含め、有権者一人一人が政治を変えることができるという意識であり、これが低いと政治参加への意欲をなくすことになる。

項目 4) は政治参加に関する関心度、項目 6) は政治不信の程度を示している。JGSS-2010 年調査の結果と比較すると(表 5-10)、生活クラブ生協の組合員全体で見ると、政治的有効性感覚が高く、政治不信も高いことが伺える。また、項目 8) については、保守的か革新的かという政治意識を尋ねたものである。JGSS-2010 年データでは 5 段階で保革の政治意識を聞いており、保守的が 6.1%、やや保守的が 18.9%、中間的が 51.1%、やや革新的が 17.3%、革新的が 3.6%、無回答が 3.0% (N=5030) であることを考えると、生活クラブ生協の組合員の政治意識の革新さが確認できるであろう。

次に回答者の世代別の傾向を見ていこう。表 5-11 は世代別にみた各項目の平均点(思う: 4 点、やや思う: 3 点、あまり思わない 2 点、思わない: 1 点)である。

	1) 批判ばかりしていても世の中は変わらない	2) 政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない	3) 自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない	4) 選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい投票しなくても影響はない	5) この複雑な世の中で何をすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	6) 国会議員は、おおよっぱに言っただけで、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	7) 今の政党の中には、信頼のおけるものはない	8) 保守か革新かと聞かれれば、私の立場は革新だ
30代以下	3.596	2.752	2.567	1.600	1.803	3.074	3.108	2.486
40代	3.672	2.782	2.551	1.598	1.889	3.078	3.101	2.608
50代	3.560	2.593	2.291	1.423	1.714	3.080	3.108	2.749
60代	3.589	2.602	2.287	1.304	1.739	3.256	3.160	2.873
70代以上	3.689	2.662	2.347	1.183	2.000	3.304	2.963	2.968
全体	3.609	2.659	2.378	1.413	1.800	3.158	3.105	2.766
検定	F=2.731 p<.05	F=3.724 p<.01	F=7.004 p<.001	F=19.955 p<.001	F=7.032 p<.001	F=7.111 p<.001	n.s.	F=8.669 p<.001

項目 6) の政治不信は世代に共通しているといえるが、40 代以下の回答者(組合員)の項目 2) 3) の平均値の高さを見ると、これらの世代が生活クラブ生協の中では、相対的に政治的有効性感覚が低く、政治参加についても意識が低いことが伺える。また、政治に対して権威に依存する傾向(項目 5)) も見て取れる。また、保守か革新かという点については、回答者の世代が上の方が、革新である傾向

が見て取れる。

生活クラブ生協の役職経験の有無との関連で見ると、項目 3) で理事・幹事経験者が 1.731/未経験者が 2.3835 と、経験者の方が値が低く、理事・幹事経験者の政治的有効性感覚が高いことがわかる (T 検定、 $F=11.605$ 、 $p<.01$)。

項目 4) については、理事・幹事経験者が 1.154/未経験者が 1.417 (T 検定、 $F=16.569$ 、 $p<.01$)、委員長経験者が 1.159/未経験者が 1.428 (T 検定、 $F=64.005$ 、 $p<.001$)、委員経験者が 1.286/未経験者が 1.452 (T 検定、 $F=57.459$ 、 $p<.001$) と、それぞれ役職経験者の方が政治参加の意識が高いことがわかる。また、項目 8) については、委員長経験者が 3.170/未経験者が 2.741 (T 検定、 $F=5.413$ 、 $p<.05$)、委員経験者が 2.9036/未経験者が 2.722 (T 検定、 $F=3.954$ 、 $p<.05$) と、役職経験者の革新性を見いだすことができる。さらに、項目 7) については、委員長経験者が 2.829/未経験者が 3.122 (T 検定、 $F=11.205$ 、 $p<.01$) と、委員長経験者の方が政党に対する信頼度があることも見いだせる。政治への関心や政治参加の意識が高いことが、政党への信頼を生んでいるのかもしれない。

	生活クラブ	JGSS-2010
1 民主党	26.9	18.6
2 自民党	6.1	16.4
3 公明党	0.7	3.3
4 共産党	4.1	2.2
5 国民新党	0.1	0.1
6 新党改革	0.1	-
7 社民党	2.6	0.9
8 たちあがれ日本	0.4	0.0
9 みんなの党	4.6	1.1
10 その他	0.8	0.5
11 政治には関心があるが、特に支持する政党はない	50.0	49.0
12 政治に関心はなく、特に支持する政党はない	3.5	
N	1923	5003

注: JGSS-2010データの「その他」は、その他+幸福新党+新党日本。データには無回答が0.4%含まれている。また、11の項目は、特に支持する政党はなしというワーディングになっている。

さて、組合員の支持政党を見ていくと、組合員全体としては表 5-12 のようになる。JGSS-2010 年データと比較すると、生活クラブ生協の組合員は、民主党、共産党、社民党といった、自民党と対比するという意味で革新政党の支持者が多いことがわかる。もっとも世代別に見ると (表 5-13)、民主党と社民党は世代が上の組合員が支持している。共産党やみんなの党は、ほぼ世代に共通して一定の支持があることもわかる。一番多い回答は

「支持政党なし」であるが、政治に関心がなく支持政党がないという回答は 40 代以下の組合員が相対的に多いことがわかる。

なお、支持政党と役職経験者の関連を見ると (クロス表)、役職経験者の方が、民主党の支持率が高いという傾向 (カイ二乗検定で有意) が見られた (表は省略)。ただし、空白セルが多いため、統計的検定への信頼には、配慮が必要である。

	民主党	自民党	公明党	共産党	国民新党	新党改革	社民党	たちあがれ日本	みんなの党	その他	政治には関心があるが、特に支持する政党はない	政治に関心はなく、特に支持する政党はない	合計
30代以下	18.1	5.2	1.4	3.8	0.5	0.0	1.0	1.0	3.3	0.5	58.6	6.7	100.0(210)
40代	19.4	5.5	0.5	3.0	0.0	0.0	2.2	0.3	4.6	0.3	57.4	6.8	100.0(366)
50代	25.0	4.6	0.4	4.2	0.0	0.2	2.6	0.2	4.8	1.3	53.6	3.3	100.0(545)
60代	33.9	6.9	0.7	3.8	0.0	0.2	2.7	0.7	5.4	0.9	43.5	1.3	100.0(552)
70代以上	35.1	9.9	1.4	5.9	0.5	0.0	4.5	0.0	3.2	0.9	37.8	0.9	100.0(222)
全体	26.9	6.1	0.7	4.0	0.1	0.1	2.6	0.4	4.6	0.8	50.1	3.5	100.0(1895)

値は%(実数) $\chi^2=118.626$ df=44 $p<.001$

(2) 経済と生活に関する意識

次に経済と生活に関する一般的な意識の動向について見ていこう。表 5-14 は、単純集計の結果で

ある。

表5-14 経済・生活に対する意識(単純集計)									
	9) 経済に対する政府の規制はできるだけ少ない方がいい	10) これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ	11) 政府は豊かな人からの税金を増やしても、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	12) 政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ	13) 現在と比べて、5年後の自分の生活は良くなっている	14) 5年前と比べて、現在の自分の生活は良くなっている	15) 今の生活全般に満足している	16) 物質的な豊かさよりも、心の豊かさやゆとりのある生活を重視すべきだ	17) 一般的にいつても、今の世の中は不公平だ
思う	7.9	23.0	30.0	29.6	3.8	9.6	16.8	43.3	29.4
やや思う	26.4	40.9	41.9	40.5	11.6	21.7	47.6	46.9	44.0
あまり思わない	29.2	19.2	15.6	17.9	42.6	38.4	22.2	5.0	16.9
思わない	7.1	6.2	4.6	4.6	25.8	24.7	11.4	1.0	2.4
わからない	29.5	10.8	8.0	7.5	16.2	5.6	2.0	3.7	7.2
合計	100.0(1957)	100.0(1995)	100.0(2000)	100.0(1996)	100.0(1996)	100.0(1990)	100.0(2003)	100.0(2015)	100.0(2001)
値: % (実数)									

JGSS 調査データなどで比較可能な項目について見ていくと、項目 10) については、JGSS 調査 (2008 年) において「地球環境の保護よりも経済成長を優先すべきだ」という質問に対して、賛成: 5.6%、どちらかと言えば賛成: 24.0%、どちらかと言えば反対: 45.0%、反対: 24.0%、無回答: 1.4% (N=2060) という結果になっている。生活クラブ生協の回答者の分布も近いといえる。なお、項目 16) は脱物質主義的価値観と呼ばれる指標であるが、生活クラブ生協の組合員には、脱物質主義的価値観が広く共有されていることも見いだせる。

項目 11) と 12) については、福祉と負担についての意見である。JGSS データ (2010 年) において、「福祉と負担について、A: 増税をしても、福祉などの公共サービスを充実させるべきである/B: 福祉などの公共サービスが低下しても、税負担を軽減すべきである」という 2 つの意見に対して調査している。その結果は、A に近いという意見: 18.4%、どちらかといえば A に近い: 48.4%、どちらかといえば B に近い: 24.0%、B に近い: 6.2%、無回答 3.0% (N=2507) となっている。また、項目 12) と同じ質問に対して、賛成: 28.0%、どちらかといえば賛成: 30.68%、どちらともいえない: 32.4%、どちらかといえば反対: 6.53%、反対: 2.0%、無回答: 0.4% (N=5003) となっている。これらの JGSS データの結果と比較すると、生活クラブ生協の組合員は、一般と比較して福祉主義的な政策を重視していることがわかるだろう。

項目 13) ~15) は、生活の満足度に関するものである。JGSS データ (2006 年調査) では、生活全般に対して、非常に満足: 10.7%、やや満足: 37.9%、どちらでもない: 37.41%、やや不満: 11.3%、不満: 2.5%、無回答: 0.2% (N=2130) という結果が出ている。回答者 (組合員) は、生活満足度が相対的に高いことが伺える。

では、上記の項目に関して、世代別のデータを見ていこう。表 5-15 は、経済・生活に対する意識の得点の平均値を世代別に集計したものである。

表5-15 経済・生活に対する意識×世代									
	9) 経済に対する政府の規制はできるだけ少ない方がいい	10) これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ	11) 政府は豊かな人からの税金を増やしても、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	12) 政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ	13) 現在と比べて、5年後の自分の生活は良くなっている	14) 5年前と比べて、現在の自分の生活は良くなっている	15) 今の生活全般に満足している	16) 物質的な豊かさよりも、心の豊かさやゆとりのある生活を重視すべきだ	17) 一般的にいつても、今の世の中は不公平だ
30代以下	2.284	2.941	2.914	2.908	2.473	2.709	3.065	3.387	2.868
40代	2.385	2.985	2.961	2.894	2.223	2.333	2.818	3.392	2.950
50代	2.379	2.844	3.027	3.016	1.898	2.170	2.630	3.309	3.138
60代	2.570	2.882	3.130	3.056	1.692	1.987	2.637	3.391	3.123
70代以上	2.918	2.925	3.239	3.322	1.645	1.948	2.648	3.427	3.232
全体	2.494	2.902	3.059	3.029	1.927	2.180	2.719	3.377	3.080
検定	F=18.530 p<.001	n.s.	F=6.454 p<.001	F=10.090 p<.001	F=53.769 p<.001	F=29.096 p<.001	F=12.726 p<.001	n.s.	F=9.467 p<.001

回答者の年代が上であるほど、福祉国家主義的な政策を志向していることが伺える (項目 11~12) 一方で、経済に対する自由主義も回答者の年代が上であるほど志向している (項目 9)。実際の生活に

については、若い世代の方が生活満足度や生活に対する将来への希望も高い傾向にあり（項目 13～15）、それゆえ不公平感も若い世代ほど相対的に感じていない（だが平均値が 2 を超えているので、全般的に不公平感が強いことが見いだせる）。項目 10) の経済成長よりも環境保護を重視した政治という点については、世代間の差がなかったが、委員経験者と未経験者の間に差が若干見られた²。

また、項目 14) において委員経験者が、項目 15) において委員長経験者が、未経験者に比べて値が高く、生活満足度が高いという結果が出たが、弱い傾向に過ぎない³。その他の項目では、役職経験の効果は見られない。

(3) 性別役割分業意識

次に性別役割分業意識について見ていこう。表 5-16 は生活クラブ生協の回答者全体の結果である。

	18) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ	19) 専業主婦は、社会的に大変意義のある存在だ	20) 家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ	21) 女性も自分自身の職業生活を重視した生き方をするべきだ	22) 子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念すべきだ	23) 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	24) 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
思う	2.9	24.4	5.5	19.6	28.1	30.8	4.7
やや思う	10.8	33.1	24.1	43.0	33.1	44.2	22.6
あまり思わない	36.5	24.1	34.6	23.8	21.3	14.0	35.4
思わない	46.6	8.4	31.6	4.0	11.3	4.1	33.2
わからない	3.3	9.9	4.2	9.6	6.1	5.9	4.2
合計	100.0(2015)	100.0(2005)	100.0(2008)	100.0(1993)	100.0(2019)	100.0(2008)	100.0(2011)
値: % (実数)							

項目 16) については、JGSS-2010 年調査でも同様の調査があり、賛成：11.3%、どちらかといえば賛成 37.1%、どちらかといえば反対：32.6%、反対：17.7%、無回答：1.4% (N=5003) となっている。だが、性別役割分業意識は、男性と女性によって大きく異なるため、一概には比較できない。そこで、2008 年に行われた第 3 回全国家族調査の 2008 年データで女性データによる分析結果があるので、それを参照しよう⁴。表 5-17 は、項目 18)、20)、22)、25) と同じ項目で NFRJ で調査された

男は外で働き、女性は家庭を守るべきである(項目18)							子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念すべきだ(項目22)						
女性のみ	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえば思わない	そう思わない	無回答	合計	女性のみ	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえば思わない	そう思わない	無回答	合計
28-32歳(76-80年生)	2.3	35.3	31.6	30.1	0.8	100.0(216)	28-32歳(76-80年生)	14.3	39.8	25.9	19.5	0.4	100.0(216)
33-42歳(66-75年生)	5.4	35.9	31.1	27.0	0.7	100.0(615)	33-42歳(66-75年生)	19.8	39.8	21.0	18.9	0.5	100.0(615)
43-52歳(56-65年生)	5.3	31.2	28.6	34.7	0.3	100.0(626)	43-52歳(56-65年生)	29.2	40.7	16.1	13.4	0.5	100.0(626)
53-62歳(46-55年生)	8.8	38.8	23.3	28.2	0.9	100.0(691)	53-62歳(46-55年生)	40.2	39.9	10.0	9.0	0.9	100.0(691)
63-72歳(36-45年生)	18.2	35.1	25.0	20.1	1.6	100.0(556)	63-72歳(36-45年生)	52.5	29.9	8.5	7.4	1.8	100.0(556)
値は%(実数)							値は%(実数)						
家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ(項目20)							親が寝たきりなどになった時、子どもが介護するのは当たり前のことだ(項目25)						
女性のみ	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえば思わない	そう思わない	無回答	合計	女性のみ	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえば思わない	そう思わない	無回答	合計
28-32歳(76-80年生)	19.5	46.2	19.9	13.9	0.4	100.0(216)	28-32歳(76-80年生)	30.5	40.6	22.9	5.6	0.4	100.0(216)
33-42歳(66-75年生)	22.4	44.4	16.9	15.4	0.8	100.0(615)	33-42歳(66-75年生)	22.0	39.9	20.7	8.8	1.0	100.0(615)
43-52歳(56-65年生)	23.2	43.8	15.7	16.8	0.6	100.0(626)	43-52歳(56-65年生)	18.7	39.4	26.5	14.1	0.8	100.0(626)
53-62歳(46-55年生)	28.5	44.6	13.3	12.3	1.3	100.0(691)	53-62歳(46-55年生)	15.2	36.0	27.8	17.2	0.4	100.0(691)
63-72歳(36-45年生)	32.9	38.3	13.8	12.6	2.3	100.0(556)	63-72歳(36-45年生)	15.3	42.3	27.3	20.0	1.4	100.0(556)
値は%(実数)							値は%(実数)						

データを示したものである（女性サンプルのみ）。コーホート別に分析されているため、組合員全体のデータとの比較は慎重にすべきだが、項目 18) については、生活クラブ生協の組合員は 8 割が否定的

² 項目 10) で委員経験者：2.9570／未経験者：2.8861 (T 検定、F=4.984、p<.05)。

³ 項目 14) で委員経験者：2.1121／未経験者：2.1900 (T 検定、F=6.045、p<.05)、項目 15) で委員長経験者：2.8173／未経験者：2.7063 (T 検定、F=7.903、p<.01)。

⁴ 第 3 回全国家族調査・第一次報告書「家族に関する意識」（島直子）pp. 89-93 を参照した。報告書は、次のサイトからダウンロードできる

(http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/NFRJ08_publishing.htm)。

な回答を示していることから、性別役割分業意識に否定的な意見が多いことが伺える。同様の傾向は項目 20) についても理解できる。NFRJ データでは、3 割前後がこの項目に関して否定的であるのに対し、生活クラブ生協の回答者は、6 割を超えている。その一方で、項目 22) は俗に言う「三歳児神話」であるが、NFRJ とほぼ同様の分布を示していることがわかる。

続いて、生活クラブ生協の回答者に対して、性別役割分業意識と世代との関係を見てみよう（表 5-18）。それぞれの項目の得点の平均値を世代別にみたものである。

表5-18 性別役割分業意識×世代							
	18) 男性は外で働き、女性 は家庭を守るべきだ	19) 専業主婦は、社会的に 大変意義のある存在だ	20) 家族を(経済的に)養うのは 男性の役割だ	21) 女性も自分自身の職業生活 を重視した生き方をすべきだ	22) 子どもが3歳くらいまでは、 母親は仕事を持たずに育児に専 念すべきだ	23) 結婚しても、人生には結婚相手 や家族とは別の自分だけの目標 を持つべきである	24) 結婚したら、家庭のためには 自分の個性や生き方を半分犠牲に するのは当然だ
30代以下	1.730	2.925	2.077	2.789	2.510	2.990	2.214
40代	1.705	2.861	2.006	2.696	2.672	3.094	2.033
50代	1.616	2.769	1.987	2.886	2.769	3.148	1.899
60代	1.666	2.798	2.002	2.907	2.962	3.093	1.917
70代以上	1.843	2.826	2.251	3.048	3.208	3.020	2.097
全体	1.686	2.819	2.035	2.865	2.833	3.089	1.988
検定	F=3.646 p<.01		F=3.146 p<.01	F=7.373 p<.001	F=18.175 p<.001	n.s.	F=6.880 p<.001

女性の性別役割分業意識は、一般的に世代が上の人が肯定的で、若年層になると否定的になると言われている。ただし、近年、若年層の性別役割分業意識の「保守化」が指摘されているが、表 5-18 を見ると、生活クラブ生協の組合員も、70 代と 40 代以下の回答者が、他の世代と比較すると性別役割分業意識に肯定的であることがわかる（項目 18～20、24 を参照）。ただし、三歳児神話（項目 22）については、若い世代であるほど否定的であることも見いだせる。生活クラブ生協のさまざまな活動は、「普通の主婦」であった組合員が「変身」して、活動の担い手になっていく。若年層の性別役割分業意識の肯定感が、どのような影響を及ぼすのかは、今後、考慮していく必要があるかもしれない。なぜならば、生活クラブ生協のさまざまな活動は、「専業主婦」という立場でありながらも、その立場自体を相対化した上で、担われているからである。なお、性別役割分業意識と役職経験の有無の関連は、一部の変数を除き、ほとんど見られない。

(4) 福祉などに対する意見

最後に、福祉などに対する意見の動向について見ていこう。表 5-19 は、回答者全体の単純集計の結果であり、表 5-20 はそれぞれの項目の得点の平均値を世代別にみたものである。

表5-19 福祉などに関する意見(単純集計)					
	25) 親が寝たきりなどになった時、子どもが介護するのは当たり前のことだ	26) 今の政治を変えるためにはもっと女性が政治にかかわるべきだ	27) 年金の負担は、すべての世代が公平に負担すべきだ	28) 高齢者の医療・介護・生活保障は、国や地方自治体の責任ではなく、個人や家族の責任だ	29) 効率性を重視したり、金銭本位的な働き方とは異なった働き方をすべきだ
思う	12.0	34.0	28.3	1.6	15.8
やや思う	37.1	43.8	35.2	10.6	38.7
あまり思わない	31.5	11.7	15.0	32.2	20.0
思わない	12.3	1.1	4.2	18.8	4.9
わからない	7.1	9.4	17.2	60.8	20.5
合計	100.0(2018)	100.0(2011)	100.0(1983)	100.0(2009)	100.0(1983)
値:%(実数)					

項目 25) については、表 5-17 を見ると、生活クラブ生協の回答者の方が、やや否定的な意見に偏りがあることが伺える。

⁵ 項目 22) について、理事・監事経験者：2.3615／未経験者：2.8332（T 検定、F=4.187、p<.05）、委員経験者：2.8188／未経験者：2.8336（T 検定、F=11.141、p<.01）。

表 5-20 は、それぞれの項目の得点の平均値を世代別にみたものである。項目 25) については、30 歳以下と、70 歳以上の回答者が肯定的な意見を示している。70 歳以上は当時者としての意見の現れであるかもしれない。項目 26) は、生活クラブ生協の活動を考えていく上では重要な観点であるが、世代が上になるほど、女性が政治に関わるべきだと考えていくことがわかる。逆に、若年層の組合員の政治への忌避という点も伺えるであろう。項目 29) についても、40 歳以下の組合員は、他の世代と比較し、相対的に否定的であるといえる。ワーカーズ・コレクティブの諸活動の理念に関わる部分

	25) 親が寝たきりなどになった時、子どもが介護するのは当たり前のことだ	26) 今の政治を変えるためにはもっと女性が政治にかかわるべきだ	27) 年金の負担は、すべての世代が公平に負担すべきだ	28) 高齢者の医療・介護・生活保障は、国や地方自治体の責任ではなく、個人や家族の責任だ	29) 効率性を重視したり、金銭本位的な働き方とは異なった働き方をすべきだ
30代以下	2.721	3.095	2.955	1.744	2.706
40代	2.558	3.118	3.036	1.648	2.751
50代	2.410	3.267	3.009	1.517	2.847
60代	2.500	3.236	3.075	1.595	2.841
70代以上	2.673	3.327	3.259	1.837	2.940
全体	2.529	3.219	3.058	1.626	2.823
検定	F=6.539 p<.001	F=5.102 p<.001	F=3.918 p<.01	F=8.515 p<.001	F=2.505 p<.05

でもあるため、やや気になる傾向でもある。

項目 28) は、世代によってばらつきがあるが、30 代以下と 70 代以上の回答者が、高齢者の医療・介護・生活保障について個人や家族の

役割を強調していることは、性別役割分業を肯定的に捉えている両者とシンクロしているともいえる。

なお、役職経験の効果については、項目 28) について、理事・監事経験者：1.2308／未経験者：1.6313 (T 検定、F=16.751、p<.001)、委員長経験者：1.4673／未経験者：1.6353 (T 検定、F=7.293、p<.01) となっているように、役職経験をすると、高齢者の医療・介護・生活保障に対する国や地方自治体の責任を問う傾向がある。これらの構造的な問題を理解している（するようになった）ためであろう。また、項目 29) については、委員経験者：2.8966／未経験者：2.7990 (T 検定、F=6.089、p<.05) となっており、委員経験により、オルタナティブな働き方を理解するようになったとも考えられるかもしれない。

生活クラブ生協・東京 組合員に関するアンケート

【個人情報の扱いと調査データについて】

回答者の方は、生活クラブ生協で無作為に選ばせていただきました。研究者グループは、名簿の抽出の過程にはかかわっておりませんので、個人情報の管理は徹底しております。皆様にご回答いただいた内容は、コンピューターで統計的に処理しますので、誰がどのように答えたかを特定することはありません。

【ご記入にあたっては、以下の点にご留意ください。】

- (1) このアンケートは生活クラブ生協の組合員として関わっている方を対象に、皆様の日頃のお考えや行動について質問させていただいております。なお、組合員の名義が配偶者であった場合でも、實際上、生活クラブ生協に関わっている方が、質問にお答え下さい。
- (2) このアンケートは、○や数字を記入するだけで簡単に回答できるようになっており、すべての記入には 20 分程度の時間で終わるようになっています。質問事項をよくお読みになって、間違いのないようにご記入ください。

【返信の方法】 同封の返信用封筒にアンケート用紙を入れ、センターの配送便で他の申込用紙と一緒に返送ください。

【返信期限】 2010 年 9 月 17 日（金）

【調査に関するお問い合わせ】

法政大学人間環境学部 西城戸誠 E-mail: nishikido@hosei.ac.jp

Tel: 03-3264-9793 Fax: 03-3264-9663

生活クラブ生協政策調整部理事会事務局 渡辺・白幡

Tel: 03-5426-5202 Fax: 03-5426-5203

どうぞよろしくお願いいたします。

問5 あなたのご家族・親族の中に、生活クラブ生協へ加入されていた方はいらっしゃいましたか。次から一つ選んで、○をつけて下さい。

- 1 親が加入していた（る）
- 2 親以外の親族が加入していた（る）
- 3 加入していない

■生活クラブ生協への加入形態についてお聞きます。

問6 あなたは現在、生活クラブ生協にどのような形態として加入されていますか。次から一つ選んで○をつけて下さい。

- 1 班配送 → **【問7にお進み下さい】**
2 戸別配送 → **【問8にお進み下さい】**

問7 班を利用している理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて○をつけて下さい。

- 1 品物を配達してもらえから
2 受け取りができないので、荷受けしてもらえから
3 班の方が4%の値引きがあるから
4 家族が多いから
5 班には助け合える仲間がいるから
6 地域のいろいろな人と話せるから
7 仲の良い友人がいるから
8 班の方が共同購入らしいから
9 その他（具体的に： ）

問8 戸配を利用している理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて○をつけて下さい。

- | | | | |
|----|--------------------------|---|-------------------|
| 1 | 自宅に直接配達してくれるから | 2 | 自分の生活スタイルに合っているから |
| 3 | 班のしくみを知らなかった／わからなかったから | 4 | 班別共同購入のしくみが面倒だから |
| 5 | 留守がちで荷受けの受け取りができないから | 6 | 近くに班がなかったから |
| 7 | 人づきあいが苦手だから | 8 | 人づきあいが面倒だから |
| 9 | 戸配は組合員活動をしなくてもよいと思っていたから | | |
| 10 | 班はなにかとわずらわしいと聞いたことがあるから | | |
| 11 | 班が解散したから | | |
| 12 | その他（具体的に： | | ） |

問9 あなたは今後も生活クラブ生協を利用したいと思っていますか。以下から一つ選んで、○をつけて下さい。

- 1 今のままの利用形態で継続したい
2 戸配に移動したい
3 班に移動したい
4 デポーに移動したい
5 生活クラブを継続したくない → 問 9-1 へお進みください
- 問 10 へお進みください

問 9-1 生活クラブを継続したくないと考えている理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて○をつけて下さい。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1 生活クラブ生協の消費材に魅力を感じない／感じなくなったから | 4 消費材の価格が高く感じられるから |
| 2 生活クラブ生協からの呼びかけが、わずらわしいから | 6 申し込み方法が面倒だから |
| 3 他の生協・業者の方が便利だから | 8 戸別配送8点ルールを守るのが大変だから |
| 5 荷受けができないから | |
| 7 配送曜日・時間があわないから | |
| 9 生活クラブ生協の考え方があわないと思ったから | |
| 10 事務局の対応や配送時の対応に不満があるから | |
| 11 その他（具体的に： _____） | |

■生活クラブ生協の消費材、購入活動全般についてお聞きします。

問 10 一ヶ月のおおよその消費材の購入金額は、どのくらいですか。

約 _____ 万円 （例：1万5千円の場合は1.5万円）

問 11 あなたは次の品物を、主にどこで購入しますか（番号を一つ記入してください）。

また、そこで購入する理由は何ですか。さらに、生活クラブ以外で購入する場合、生活クラブを使わない理由は何ですか。下記の中から2つ選んで、番号でお答えください。

	(記入例) 果物	①米	②卵	③牛乳	④豚肉	⑤牛肉	⑥鶏肉	⑦野菜	⑧味噌	⑨醤油	⑩その他調味料	⑪冷凍加工食品	⑫冷蔵惣菜	⑬菓子	⑭石けん
主な購入先	5														
購入理由	1														
	4														
生活クラブを使わない理由	3														
	4														
主な購入先	1.生活クラブ（配達） 2.生活クラブ（デポー） 3.他の生協（配達） 4.他の生協（店舗） 5.スーパー 6.安売り店（ディスカウントストア） 7.地元の店 8.自然食品の店 9.百貨店 10.コンビニエンスストア 11.直接、生産者からの購入 12.その他 13.いただきもの 14.インターネットショップ・ネットスーパー 15.必要ない														
購入理由	1.近い・便利 2.安全性が高い 3.配達してくれて便利 4.価格が安い 5.品揃えがよい 6.新鮮 7.産地が明確 8.味が良い 9.環境配慮 10.気に入った商品がある 11.自分なりのポリシー 12.店の人や職員の対応がよい 13.その他														
生活クラブを使わない理由	1.量に不満（多すぎる） 2.容器等が使いにくい 3.申込回数が少ない 4.配達回数が少ない 5.価格が高い 6.おいしくない 7.品質に不満 8.家族に不評 9.使い慣れたもの（ブランド）がある 10.なんとなく・特に理由はない 11.その他														

問 12 以下の生活クラブの消費材や生活クラブの対応について、満足していますか。それぞれの項目についてお答えください（○を一つ）。

	満足	やや満足	やや不満	不満	気にしない
1) 扱っている消費材の安全性	1	2	3	4	5
2) 消費材案内の見やすさ	1	2	3	4	5
3) 注文のしやすさ	1	2	3	4	5
4) 消費材の企画の単位や容量	1	2	3	4	5
5) 消費材が配送される便利さ	1	2	3	4	5
6) 決められた配送時間の正確さ	1	2	3	4	5
7) 消費材の品揃え	1	2	3	4	5
8) 消費材の価格	1	2	3	4	5
9) 消費材の美味しさ	1	2	3	4	5
10) 青果物の鮮度	1	2	3	4	5
11) 品切れ・欠品を出さない努力	1	2	3	4	5
12) 届いた物が注文イメージと合うこと	1	2	3	4	5
13) 職員の対応や消費材知識	1	2	3	4	5
14) 生協の取り組み等の情報の得やすさ	1	2	3	4	5

問 13 あなたは、以下に挙げる生活クラブ生協以外の場所で、買い物をしていますか（○は一つ）。

	よくする	たまにする	あまりしない	ほとんどしない・全くしない
1) コープとうきょう	1	2	3	4
2) パルシステム	1	2	3	4
3) 東都生協	1	2	3	4
4) 自然派クラブ	1	2	3	4
5) 東京南部生協	1	2	3	4
6) 大地を守る会	1	2	3	4
7) らでいっしゅぼーや	1	2	3	4
8) 自然食品の店	1	2	3	4
9) ヨシケイ	1	2	3	4
10) タイハイファミリーセット	1	2	3	4

問 14 あなたは家族と一緒に夕食をとるときに、以下のものをどの程度利用していますか。ひとり暮らしの方は、あなたご自身のことについてお答えください。それぞれもっとも近いものに一つ○をつけて下さい。なお、料理の一部に利用する場合も含めます。

	週に1回以上	月に数回	月に1回以下	利用しない
1) 外食	1	2	3	4
2) 市販の弁当	1	2	3	4
3) 市販の総菜	1	2	3	4
4) 調理済みの冷凍食品	1	2	3	4
5) ファーストフード	1	2	3	4

問 15 あなたの日常的な購入態度についてお聞きます。生活クラブ生協に入って、次のようなことを気にかけるようになりましたか。それぞれお答え下さい（○は一つ）。

	加入してから気にかけるようになった	加入する前から気にかけている	加入してもあまり気をつけていない
1) 添加物の表示に気をつけている	1	2	3
2) 合成洗剤など環境への負荷が高い商品は買わないようにしている	1	2	3
3) 地元で作った品物があれば、なるべくそちらを買うようにしている	1	2	3
4) 品物の量に気をつけるようにしている	1	2	3
5) 少し値段が高くても質の良い商品を買う	1	2	3
6) 修理して使えるものは使う	1	2	3
7) 無農薬や有機栽培の野菜を買う	1	2	3
8) フェアトレードを重視して多少高くても購入する	1	2	3
9) 製造をしている会社の社会的貢献に関心を持つ	1	2	3
10) 国産か、海外産の違いに関心を持つ	1	2	3

問 16 パソコンや携帯電話でのネット利用についてお伺いします。(1)あなたは、普段の生活の中で、パソコンや携帯電話で情報を収集していますか。また、(2)商品やサービスを買う（予約を含む）ためにパソコンや携帯電話でインターネットを使っていますか。それぞれに一つ、○をつけて下さい。

	よくする	たまにする	あまりしない	ほとんどしない
1a) パソコンで情報収集	1	2	3	4
1b) 携帯電話で情報収集	1	2	3	4
2a) パソコンで商品購入やサービスの予約をする	1	2	3	4
2b) 携帯電話で商品購入やサービスの予約をする	1	2	3	4

■生活クラブ生協に関わる活動についてお聞きます。

問 17 あなたは、現在あるいは過去に、生活クラブの委員をなさったことがありますか。かかわった役職をすべて選んで番号に○をつけ、その「のべ年数」を記入してください。

1) 理事・監事	年
2) 委員長 (具体的に)	年
3) 委員 (具体的に)	年
4) 班長	年
5) 経験はない	

問 18 (1)あなたは、以下の生活クラブの活動をご存じでしたか。また、(2)これらの活動に参加したことがありますか。(3)これらの活動を主催(運営)したことがありますか。(4)今後こうした活動に参加したいですか。それぞれについて以下の表に○を記入して下さい。

	(1)	(2)	(3)	(4)
	活動を知っていた	参加経験がある	主催(運営)経験がある	今後、活動に参加したい
1) まち大会(支部大会)				
2) 地域大会				
3) 拡大活動(戸別訪問)				
4) ちらしまき				
5) キャラバン				
6) 生産者交流会				
7) 学習会				
8) デポのワーク(デポのあるまちのみ)				
9) まちのサークルやチームの活動				
10) 試食会や料理講習会				
11) 生産者交流会				
12) 産地見学会				

問 19 生活クラブ生協・東京では、以下の活動を行っていますが、その活動の是非についてどのようにお考えですか。それぞれの項目について1～5の番号を一つ選んで○をつけて下さい。

	積極的にすべきである	ある程度活動すべき	あまり活動すべきではない	活動するべきではない	活動自体を知らない
1) 石けん運動	1	2	3	4	5
2) 代理人運動	1	2	3	4	5
3) ワーカーズ・コレクティブの活動	1	2	3	4	5
4) 多重債務者支援	1	2	3	4	5
5) 生き物環境調査	1	2	3	4	5
6) NON-GMO(遺伝子組み換え食品)活動	1	2	3	4	5
7) 草の根市民基金・ぐらん	1	2	3	4	5
8) エッコロたすけあい制度	1	2	3	4	5
9) CO・OP 共済	1	2	3	4	5
10) 料理スクール、クッキングスタジオ	1	2	3	4	5
11) 食品表示の政策提言	1	2	3	4	5
12) ワーカーズコレクティブの法制化	1	2	3	4	5
13) 子育て支援事業	1	2	3	4	5
14) 地域福祉事業	1	2	3	4	5
15) 都市農業の育成	1	2	3	4	5
16) グリーンシステム	1	2	3	4	5

問 20 あなたは以下の社会運動、市民運動・市民活動に関わった経験がありますか。それぞれの項目に 1～4 の番号を一つ選んで○をつけて下さい。

	中心的、継続的な参加経験がある	署名や 1,2 回程度の会合の参加経験がある	参加経験はほとんどない	運動そのものを知らない
1) 反（脱）原発運動・活動	1	2	3	4
2) 食品問題に関わる運動・活動	1	2	3	4
3) ゴミ問題に関わる運動・活動	1	2	3	4
4) 自然保護、自然環境に関わる運動・活動	1	2	3	4
5) 平和運動、活動	1	2	3	4
6) 人権活動	1	2	3	4
7) 災害支援に関わる運動、活動	1	2	3	4
8) イラク戦争反対運動	1	2	3	4
9) 高齢者に関わる運動・活動	1	2	3	4
10) 障がい者に関わる運動・活動	1	2	3	4
11) 子育てに関わる運動・活動	1	2	3	4
12) 反 GMO（遺伝子組み換え食品）運動・活動	1	2	3	4
13) 合成洗剤追放運動（石けん運動）	1	2	3	4

問 21 以下に挙げる、生活クラブ生協の活動に対して、あなたは共感していますか、していませんか。それぞれの項目ごとに 1～5 の番号を一つ選んで○をつけて下さい。

	共感する	やや共感する	あまり共感しない	共感しない	わからない
1) 素性の確かな消費材を適正な価格で利用する	1	2	3	4	5
2) 様々な活動を通じて組合員や地域との交流をすすめる	1	2	3	4	5
3) 価格の破壊、使い捨て社会への異議申し立て	1	2	3	4	5
4) 生産者と直接提携して、消費材を開発する	1	2	3	4	5
5) 地域のたすけあいのネットワークづくり	1	2	3	4	5
6) 環境に配慮した地域循環型社会をめざす	1	2	3	4	5

問 22 以下の生活クラブの活動の内容について、誰とよく話をしますか。内容ごとによく話をする相手の欄に○をつけてください（複数回答可）。誰とも話さない場合は、何も記入しないで結構です。

内容 \ 相手	配偶者	子ども	親戚	近所の人	昔からの友人	PTA などの子どもを介した知人	サークルなど趣味を通じた知人	職場（パートも含む）の知人
1) 消費材								
2) リユースびん								
3) 代理人運動								
4) 子育て								
5) 高齢者福祉								
6) 格差問題・貧困								

■社会に関する一般的な意見や地域生活との関わりについてお聞きます。

問 23 以下のような人々の生き方に関する意見に対して、それぞれどのように思われますか。それぞれの項目ごとに1～5の番号を一つ選んで○をつけて下さい。

	思う	やや思う	あまり思 わない	思わない	わから ない
1) 今は、まず個人としての生活の内容を充実して いくことが第一で、社会全体や国のことまで考えが まわらない	1	2	3	4	5
2) 公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲 になってもしかたがない	1	2	3	4	5
3) 地域や社会を豊かなものにしていくには、地域 の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ	1	2	3	4	5
4) 十分な話し合いをした上で、みんなで決めたこ とは、基本的にそれを尊重すべきだ	1	2	3	4	5

問 24 どのような人が経済的な豊かさを得るのがよいかという点について、(1)～(4)のような意見があります。この中で、あなたの意見に一番近いと思われるのはどの意見ですか。また、日本社会の現実は、どれに一番近いと思われますか。それぞれ番号でお答え下さい。

経済的な豊かさを得ることに対する4つの意見

- 1) 実績をあげた人ほど多く得るのが望ましい
- 2) 努力した人ほど多く得るのが望ましい
- 3) 必要としている人が必要なだけ得るのが望ましい
- 4) 誰でもが同じくらいに得るのが望ましい

あなたのご意見：

番

日本社会の現実：

番

問 25 あなたは現在住んでいる地域社会に満足していますか。また、積極的に関わろうとされていますか。それぞれの項目ごとに1～5の番号を一つ選んで○をつけて下さい。

1) お住まいの地域社会に満足 しているかどうか	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わから ない
2) お住まいの地域社会に積極 的に関わっていききたいかど うか	1 積極的に 関わりたい	2 できるだ け関わりたい	3 なるべく 関わりたくな い	4 全く関わ りたくない	5 わから ない

問 26 高齢者介護、障がい者福祉、子育てについて、それぞれ誰が担ったらうまくいくと思いますか。それぞれの項目ごとに、以下の選択肢から番号を一つ書きください。

高齢者介護 _____ 障がい者福祉 _____ 子育て _____

- 1：国 2：地方自治体 3：生活クラブ 4：ワーカーズコレクティブ 5：民間業者
6：家族・親族 7：わからない

問 27 あなたは以下のような、政治・生活・家族・女性・福祉に関する意見に対して、どのようにお考えですか。
それぞれの項目ごとに 1～5 の番号を一つ選んで○をつけて下さい。

	思う	やや思う	あまり思 わない	思わない	わから ない
1) 批判ばかりしていても世の中は変わらない	1	2	3	4	5
2) 政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理 解できない	1	2	3	4	5
3) 自分のような普通の市民には、政府のすることに対し て、それを左右する力はない	1	2	3	4	5
4) 選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい 投票しなくても影響はない	1	2	3	4	5
5) この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方 法は、指導者や専門家に頼ることである	1	2	3	4	5
6) 国会議員は、おおざっぱに言って、当選したらすぐ国 民のことを考えなくなる	1	2	3	4	5
7) 今の政党の中には、信頼のおけるものはない	1	2	3	4	5
8) 保守か革新かと聞かれれば、私の立場は革新だ	1	2	3	4	5
9) 経済に対する政府の規制はできるだけ少ない方がいい	1	2	3	4	5
10) これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政 治を行うべきだ	1	2	3	4	5
11) 政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、恵まれ ない人への福祉を充実させるべきだ	1	2	3	4	5
12) 政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮め るために、対策をとるべきだ	1	2	3	4	5
13) 現在と比べて、5年後の自分の生活は良くなっている	1	2	3	4	5
14) 5年前と比べて、現在の自分の生活は良くなっている	1	2	3	4	5
15) 今の生活全般に満足している	1	2	3	4	5
16) 物質的な豊かさよりも、心の豊かさやゆとりのある 生活を重視すべきだ	1	2	3	4	5
17) 一般的に言って、今の世の中は不公平だ	1	2	3	4	5
18) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
19) 専業主婦は、社会的に大変意義のある存在だ	1	2	3	4	5
20) 家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ	1	2	3	4	5
21) 女性も自分自身の職業生活を重視した生き方をするべきだ	1	2	3	4	5
22) 子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に 専念すべきだ	1	2	3	4	5
23) 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分 だけの目標を持つべきである	1	2	3	4	5
24) 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を 半分犠牲にするのは当然だ	1	2	3	4	5
25) 親が寝たきりなどになった時、子どもが介護するの は当たり前のことだ	1	2	3	4	5

	思う	やや思う	あまり思 わない	思わない	わから ない
26) 今の政治を変えるためにはもっと女性が政治にかかわるべきだ	1	2	3	4	5
27) 年金の負担は、すべての世代が公平に負担すべきだ	1	2	3	4	5
28) 高齢者の医療・介護・生活保障は、国や地方自治体の責任ではなく、個人や家族の責任だ	1	2	3	4	5
29) 効率性を重視したり、金銭本位的な働き方とは異なった働き方をすべきだ	1	2	3	4	5

問 28 あなたは以下の経験（現時点での経験も含む）がありますか。また、あなたのご両親は、以下の経験をされていきましたか。当てはまるものにすべて○をつけてください。わからない場合は空欄で結構です。

	ご自身の経験（あれば○を記入）	ご両親の経験（あれば○を記入）
1) 学校（小中高）での学級委員・生徒会役員		
2) 子どもの PTA 会長・副会長		
3) 町内会・自治会・子供会などの役員		
4) 自分の趣味・スポーツサークルなどのリーダー		
5) 社会運動・市民運動のリーダー		

■最後に、皆さんご自身についてお聞きします。

以降は、プライバシーに深く関わる質問が多く、ご回答にためらいがあるかもしれませんが、フェースシート項目という、このようなアンケート調査の最も基本的な質問項目です。例えば 40 歳代の女性が 2 割を占めたなど、あくまでも回答者全体の傾向を把握するために必要な項目です。数量的に把握することが目的ですので、個人が特定されることは決してありません。ご理解のほど、お願いいたします。

問 30 現在、あなたと同じ家に暮らしている家族の方は、あなたを含めて全員で何人ですか。

(_____ 人)

問 31 現在、同居されているご家族の世帯構成はどのようになっていますか。以下から一つ選んで○をつけて下さい。

- | | | |
|--------------------------|---|------------------|
| 1 単身世帯 | → | 【問 32 にお進み下さい】 |
| 2 夫婦のみの世帯 | → | 【問 32 にお進み下さい】 |
| 3 夫婦（あるいは親ひとり）と未婚の子のみの世帯 | → | 【問 31-1 にお進み下さい】 |
| 4 三世帯同居世帯（親と夫婦と子） | → | 【問 31-1 にお進み下さい】 |
| 5 その他（具体的に： | ） | → 【問 32 にお進み下さい】 |

問 31-1 一番、年齢が下のお子さんは、何歳ですか。

_____ 歳

問 32 あなたが最後にいらっしゃった学校は次の中のどれですか。学生の方は現在の学業を終了した時点での学歴を選んで、番号に○を一つつけて下さい。

- | |
|-----------------------------------|
| 1 新制中学（旧制高等小学校、新制中学卒業後の専門学校なども含む） |
| 2 新制高校（旧制中学校なども含む） |
| 3 専門学校（新制高校卒業後に入学したもの） |
| 4 短大・高専（旧制高等学校なども含む） |
| 5 大学（旧制大学も含む） |
| 6 大学院 |

問 33 あなたは、現在、どのような形で働いていますか。番号に○を一つつけて下さい。なお、学生の方でアルバイトをしている場合は「学生」を選んでください。

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 自営業主・自由業者・家族従業員 | } →問 33-1 へお進み下さい |
| 2 会社経営者・会社役員 | |
| 3 常勤（フルタイム）の雇用者 | |
| 4 公務員 | |
| 5 団体職員 | |
| 6 パートタイマー・臨時雇用者（派遣・契約社員を含む） | |
| 7 ワーカーズ・コレクティブ | |
| 8 学生 | } →問 34 へお進み下さい |
| 9 有償の仕事はしていない | |

(3) あなたの配偶者は、現在、どのような形で働いていますか。番号に○を一つつけて下さい。なお、学生の方でアルバイトをしている場合は「学生」を選んでください。

- 1 自営業主・自由業者・家族従業員
2 会社経営者・会社役員
3 常勤（フルタイム）の雇用者
4 公務員
5 団体職員
6 パートタイマー・臨時雇用者（派遣・契約社員を含む）
7 ワークーズ・コレクティブ
8 学生
9 有償の仕事はしていない
- （４）へお進み下さい
- 問 35
へお進み下さい。

(4) (3) で 1～7 と答えた方に伺います。あなたの配偶者の仕事はどのような職種ですか。番号に○を一つつけて下さい。

- 1 農林漁業従事者
- 2 事務的職業（一般事務、経理事務、企画、営業事務など）
- 3 販売的職業（小売店主、店員、外交員など）
- 4 サービス的職業（ウェーター・ウェイトレス、理容師、料理人、家政婦、清掃員、運転手など）
- 5 保安的職業（警官、自衛官、警備員など）
- 6 生産工程従業者（工場作業、建設作業（大工、とび職）など）
- 7 専門的職業Ⅰ（研究者、大学教員、医師、弁護士、税理士など）
- 8 専門的職業Ⅱ（保母、小学校・中学校・高校教員、看護師、栄養士など）
- 9 専門的職業Ⅲ（著述業、芸術家、デザイナー、カメラマンなど）
- 10 管理的職業（課長以上の管理職、議員、駅長、局長）
- 11 NPO・NGO のスタッフ
- 12 その他（具体的にお願いします： ）

問 35 あなたはご自身について伺います。次の項目の内容にどの程度当てはまりますか。それぞれお答えください。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	わからない
1) 私は、家にじっとしている方が落ち着く	1	2	3	4	5
2) 私は友人・知人などと集まって過ごすことが好きだ	1	2	3	4	5
3) 私は、他人から頼まれるとつい引き受けてしまう性格だ	1	2	3	4	5
4) 私は、必要な情報は自分で確認しないと気が済まない方だ	1	2	3	4	5

問 36 あなたが参加している団体についてお伺いいたします。あなたは次にあげる会や組織に入っていますか？また、加入している場合、積極的（平均して年 4～5 回以上）に活動している会や組織はどれですか。さらに、以前、活動していたことがある会や組織はどれですか。当てはまるものについて○を記入してください。ただし、生活クラブ生協に関連した活動は除きます。

	加入している	積極的に活動している	以前、活動したことがある
1) 自治会・町内会			
2) 労働組合			
3) 業界団体・同業者団体			
4) 政治関係の団体や会（政党・後援会など）			
5) ボランティアのグループ			
6) 生協などの消費者運動、団体			
7) 自然保護・環境保護団体・サークル			
8) その他の市民運動・団体			
9) 宗教や信仰に関する団体・サークル			
10) 学校・PTA・父母会			
11) スポーツ関係のグループやクラブ			
12) 趣味・教養・学習のための団体・サークル			
13) 同窓会・同郷会			
14) その他（具体的に			

問 37 国政選挙について、現在、あなたはどの政党を支持していますか。当てはまるものの番号に一つ○をつけて下さい。

1 民主党	2 自民党	3 公明党	4 共産党	5 国民新党	6 新党改革
7 社民党	8 たちあがれ日本	9 みんなの党	10 その他（具体的に：_____）		
11 政治には関心があるが、特に支持する政党はない					
12 政治に関心はなく、特に支持する政党はない					

問 38 大変失礼ですが、過去一年間のお宅（生計をとめている家族）の収入は税込みで次の中のどれに近いですか（年金、や預貯金の利息・家賃収入や資産所得などを含む）。当てはまるものの番号に、一つ○をつけて下さい。なお、ほかのご家族の方の収入も含めてお答えください。

1 100 万円未満	2 100 万円～250 万円未満	3 250 万円～500 万円未満
4 500 万円～750 万円未満	5 750 万円～1000 万円未満	6 1000 万円～1250 万円未満
7 1250 万円～1500 万円未満	8 1500 万円以上	

問 38-1 そのうちあなた自身の収入が占める割合はどれくらいですか。

_____ 割くらい

以上で質問は終わりです。最後に記入漏れがないかご確認の上、封筒にお入れ下さい。
長時間、ご協力いただき、ありがとうございました。

付録2：生活クラブ生協に関連した文献一覧

- ・秋山憲治, 2004, 『誰のための労働か』学文社.
- ・朝日新聞名古屋社会部, 1997, 『ドキュメント住民投票 「産廃ノー」 御嵩町民の決断』風媒社.
- ・芦田淳, 1996, 「ローカルパーティの現状 東海地域における地域政党をめぐる事例」『レファレンス』46(3):103-118.
- ・天野正子, 1996, 『「生活者」とはだれか 自律的市民像の系譜』中公新書.
- ・飯尾要, 1997, 『成熟社会のニードロジー ニーズ志向社会宣言』日本評論社.
- ・いいだもも, 1986, 『赤と緑 社会主義とエコロジズム』緑風出版.
- ・五十嵐敬喜／天野礼子, 2003, 『市民事業 ポスト公共事業社会への挑戦』中公新書ラクレ.
- ・池内信, 2004, 「生活クラブ北海道と次期中期計画策定における二つの視点」『社会運動』292:34-41.
- ・池田敦子／中島和子／松谷清, 1997, 「日本の環境政治Ⅱ 実践の場から」, 賀来健輔/丸山仁編『環境政治への視点』信山社, pp.143-175.
- ・池戸重信, 2008, 「食の安全・安心確保のための制度の枠組み 食品安全行政と国際規格を中心に」『生活協同組合研究』395:34-40.
- ・井関正久, 2005, 『シリーズ・ドイツ現代史Ⅱ ドイツを変えた68年運動』白水社.
- ・井手敏彦選集刊行会編, 2006, 『地域を変える市民自治 井手敏彦の実践と思想』緑風出版.
- ・稲上毅／川喜多喬編, 1999, 『講座社会学6 労働』東京大学出版会.
- ・井上雅喜, 2008, 「出会いと共感を求め ー生活クラブ生協・神奈川ー」『生活協同組合研究』388:58-65.
- ・今田高俊編, 2000, 『日本の階層システム5 社会階層のポストモダン』東京大学出版会.
- ・市川虎彦, 1995, 「市民派議員～社会的背景とその活動 東京都多摩地方の市議会議員をれいに」『地域社会学年報』7:207-229.
- ・伊藤光晴他編, 1973, 『現代都市政策Ⅱ 市民参加』岩波書店.
- ・伊藤美登里, 2002, 「消費者運動から生活者運動へ」, 榊渥俊子／松村和則編, 『シリーズ環境社会学5 食・農・からだの社会学』新曜社, pp.80-95.
- ・今井弘道, 1996, 「二つの公共性とローカルパーティ(上)」『情況』7(7):129-147.
- ・岩岡中正／伊藤洋典編, 2004, 『「地域公共圏」の政治学』ナカニシヤ出版.
- ・岩崎信彦／鰐坂学／上田惟一／高木正朗／広原盛明／吉原直樹編, 1989, 『町内会の研究』御茶の水書房.
- ・岩田正美, 『社会的排除 参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣.
- ・岩根邦雄, 1979, 『生活クラブとともに 岩根邦雄半生譜』新時代社.
- ・岩根邦雄, 1993, 『新しい社会運動の四半世紀 生活クラブ・代理人運動』協同図書サービス.
- ・石見尚監修／生活クラブ生協プロジェクトチーム, 1988, 『いま生活市民派からの提言 アクションプラン・協同組合21』御茶の水書房.
- ・ヴァーゲンホーファー／アナス(三田順訳), 2011, 『ありあまるごちそう 世界が飢えていくメカニズムがわかる』武田ランダムハウスジャパン.
- ・上田正, 2008, 「生協の貸付事業と岩手信用生協の取り組み」『生活協同組合研究』388:19-24.
- ・上野千鶴子, 1990, 『家父長制と資本制 マルクス主義フェミニズムの地平』岩波書店.
- ・上野千鶴子／行岡良治, 2003, 『論争 アンペイドワークをめぐる』太田出版.
- ・鶴飼孝造／宮本孝二編, 2007, 「特集Ⅰ 世代論からみた日本社会」『フォーラム現代社会学』6:2-44.
- ・宇沢弘文, 2000, 『社会的共通資本』岩波新書.
- ・牛山久仁彦, 2003, 「市民運動の変容とNPOの射程」, 矢澤修次郎編『講座社会学15 社会運動』東京大学出版会, pp.157-178.

- ・牛山久仁彦, 2006, 「社会運動と公共政策 政策形成における社会運動のインパクトと『協働』政策の課題」『社会学評論』57(2):259-274.
- ・碓井崧編, 1996, 『コープこうべ 生活ネットワークの再発見』ミネルヴァ書房.
- ・碓田のぼる, 1998, 『無党派+共産党の時代』かもがわ出版.
- ・内田正幸/生活クラブ生協連合会『生活と自治』, 2003, 『こんなモノ食えるか!? 「食」の安全に関する101問101答』講談社文庫.
- ・内仲英輔/坂東愛彦, 1979, 『美濃部都政 —その到達点と限界—』朝日新聞社調査研究室社内報告 179.
- ・内橋克人, 1995, 『共生の大地 新しい経済がはじまる』岩波新書.
- ・内橋克人, 2005, 『NHK 人間講座 「共生経済」が始まる』日本放送出版協会.
- ・内橋克人, 2009, 『共生経済が始まる 世界恐慌を生き抜く道』朝日新聞出版.
- ・宇津木朋子, 1991, 『協同組合基礎理論研究シリーズ第21集 女性の生き方とワーカーズ・コープ —生協, ワーカーズ・コープ, 地域社会づくり—』農林中金総合研究所基礎研究部.
- ・海野道郎, 2000, 『日本の階層システム2 公平感と政治意識』東京大学出版会.
- ・NPO バンクフォーラム実行委員会, 2004, 『市民が作る「銀行」 第1回 NPO バンクフォーラム ～ボランティア・ファイナンスの可能性～』.
- ・大窪一志, 1994, 『日本型生協の組織像 改革のトレンドとキーワード』コープ出版.
- ・大沢真理編, 2007, 『生活の協同 排除を超えてともに生きる社会へ』日本評論社.
- ・大津浩, 1990, 「代理人運動と主権論 憲法学からみたネットの民主主義論」『社会運動』122:32-53.
- ・大橋松行, 1997, 『生活者運動の社会学 市民参加への一里塚』北樹出版.
- ・大畑裕嗣/成元哲/道場親信/樋口直人編, 2004, 『社会運動の社会学』有斐閣.
- ・大山七穂/国広陽子, 2010, 『地域社会における女性と政治』東海大学出版会.
- ・岡沢憲美, 1988, 『現代政治学叢書13 政党』東京大学出版会.
- ・岡村信秀, 2007, 『購買生協における新しい協同組合の形成と関連構造 21世紀型購買生協の考察』広島大学大学院生物圏科学研究科博士学位論文.
- ・岡村信秀, 2008, 『生協と地域コミュニティ 協同のネットワーク』日本経済評論社.
- ・奥田道大, 1983, 『都市コミュニティの理論』東京大学出版会.
- ・奥野信宏/栗田卓也, 2010, 『新しい公共を担う人びと』岩波書店.
- ・小野耕二, 1996, 「『新しい政治』の政治学的分析」『名古屋大学法政論集』166:1-40.
- ・賀来健輔, 1996, 「オルタナティヴな政治学への志向 —『ライブラリーポリティクス』論再考」『アルテスリベラレス』58:123-138.
- ・賀来健輔/丸山仁編, 1997, 『環境政治への視点』信山社.
- ・賀来健輔/丸山仁編, 2000, 『ニュー・ポリティクスの政治学』ミネルヴァ書房.
- ・賀来健輔/丸山仁編, 2005, 『政治変容のパースペクティヴ ニューポリティクスの政治学Ⅱ』ミネルヴァ書房.
- ・樫田秀樹, 2006, 「『新しい貯金』で幸せになる方法 あなたの生活を豊かにする「NPO バンク」「匿名組合」のススメ」築地書館.
- ・風の村記録編集委員会, 2001, 『風かおる終の棲家 もし私が暮らすとしたら…、から始まった私たちの特別養護老人ホーム作り』ミネルヴァ書房.
- ・角一典, 2004, 「日常と非日常のはざままで 社会運動組織の変化」, 大畑裕嗣/成元哲/道場親信/樋口直人編, 『社会運動の社会学』有斐閣, pp.175-190.
- ・角一典, 2008, 「現代生協論に関する考察 現代日本の市民社会の課題との関連から」, 船橋晴俊/石坂悦男編, 『公共圏の創成と規範理論の探求 現代的社会問題の実証的研究を通して 2007 年度科学研究費補助金論文

集』, pp.43-57.

- ・角一典, 2009, 「生活クラブ生協北海道の組織構造 役員のキャリアパス分析」『北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編』59(2):31-42.
- ・角一典, 2009, 「生活クラブの現在」, 鳥越皓之／帯谷博明編, 『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房, p105.
- ・角一典／西城戸誠, 2008, 「生活クラブはどのように研究されたか 1980-90 年代早稲田グループ調査の再検討」『社会運動』337:24-37.
- ・加藤好一, 2009, 「生活クラブの飼料用米プロジェクトの到達点」『生活協同組合研究』399:41-48.
- ・加藤富子, 1985, 『都市型自治への転換 政策形成と住民参加の新方向』ぎょうせい.
- ・金井淑子, 1992, 『フェミニズム問題の転換』勁草書房.
- ・神奈川ワーカーズコレクティブ連合会編, 1997, 『肩パットをはずした女たち ウーマンインタビュー集』ゆうエージェンシー.
- ・金丸弘美, 2007, 『食の未来の先駆者たち 食文化再生、食育、そしてスローフード』コープ出版.
- ・金子郁容／松岡正剛／下河辺淳編, 1998, 『ボランタリー経済の誕生 自発する経済とコミュニティ』実業之日本社.
- ・金子勝, 2009, 『新・反グローバリズム 金融資本主義を超えて』岩波現代文庫.
- ・蒲島郁夫, 1988, 『現代政治学叢書 6 政治参加』東京大学出版会.
- ・鎌田とし子／矢澤澄子／木本喜美子編, 1999, 『講座社会学 14 ジェンダー』東京大学出版会.
- ・神谷国弘／中道實編, 1997, 『都市的共同性の社会学 コミュニティ形成の主体要件』ナカニシヤ出版.
- ・川口清史／富沢賢治, 1999, 『福祉社会と非営利・協同セクター ヨーロッパの挑戦と日本の課題』日本経済評論社.
- ・川名英之, 1989, 『ドキュメント日本の公害 3 薬害・食品公害』緑風出版.
- ・菅正広, 2008, 『マイクロファイナンスのすすめ 貧困・格差を変えるビジネスモデル』東洋経済新報社.
- ・北田暁大, 2005, 『嗤う日本の「ナショナリズム」』NHK ブックス.
- ・木下斉, 2008, 「共同購入と個配の先にある、新事業戦略の今 パルシステム千葉によるステーション事業・パルシステムキューブを通じて考える戦略課題」『生活協同組合研究』394:34-42.
- ・国広陽子, 1995, 「地域における『主婦』の政治的主体化 代理人運動参加者のアイデンティティ分析から」『地域社会学会年報』7:121-148.
- ・国広陽子, 2003, 『主婦とジェンダー 現代的主婦像の解明と展望』尚学社.
- ・国広陽子, 2006, 「地域形成主体としての女性—主婦のパラドックス 生活圏政治の変容」, 古木利明監修, 『地域社会学講座 2 グローバリゼーション／ポスト・モダンと地域社会』東信堂, pp.160-177.
- ・久保田滋／樋口直人／矢部拓也／高木竜輔編, 2008, 『再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と民主主義の実験』ミネルヴァ書房.
- ・栗本昭, 1987, 『先進国生協運動のゆくえ』ミネルヴァ書房.
- ・グリーンコープ北ブロック, 1991, 『北ブロック中期計画推進レポート I 生活クラブ生協・北海道 一視察報告一』.
- ・現代生協論編集委員会編, 2005, 『現代生協論の探求<現状分析編>』コープ出版.
- ・現代生協論編集委員会編, 2006, 『現代生協論の探求<理論編>』コープ出版.
- ・河野直践, 1998, 『産消混合型協同組合 消費者と農業の新しい関係』日本経済評論社.
- ・河野直践, 2005, 『食・農・環境の経済学』七つ森書館.
- ・河野雪子, 2007, 「新たな組合員参加をめざして みやぎ生協の組合員活動中期計画から振り返る」『生活協同組合研究』382:26-31.
- ・国民生活センター編, 1997, 『戦後消費者運動史』大蔵省印刷局.

- ・国民生活センター編，1999，『戦後消費者運動史 資料編』大蔵省印刷局。
- ・小塚尚男，1994，『結びつき社会 協同組合 その歴史と理論』第一書林。
- ・小松丈晃，2003，『リスク論のルーマン』勁草書房。
- ・デポー建設十周年記念誌編集委員会編，1993，『がむしゃらデポーの十年史』コミュニティ生活クラブ生協。
- ・斎藤修，2007，『食料産業クラスターと地域ブランド 食農連携と新しいフードビジネス』農文協。
- ・斎藤薫，2007，「世代差の視点からみた生協組合員意識についての一考察 2006 年度と 1997 年度の全国調査結果から」『生活協同組合研究』380:47-53。
- ・齋藤純一編，2003，『親密圏のポリティクス』ナカニシヤ出版。
- ・斉藤拓男，1999，「『新政党』の変容過程に関する一考察 神奈川ネットワーク運動の分析を通して」『学習院大学大学院政治学研究科政治学論集』12:35-124。
- ・斎藤慎，2004，『社会起業家 社会責任ビジネスの新しい潮流』岩波新書。
- ・佐々木毅／金泰昌編，2002，『公共哲学 7 中間集団が開く公共性』東京大学出版会。
- ・佐々木雅幸，1994，『都市と農村の内発的発展』自治体研究社。
- ・札幌市教育委員会編，1999，『さっぽろ文庫 91 ごみとリサイクル』北海道新聞社。
- ・佐藤慶幸，1966=1991，『新版 官僚制の社会学』文眞堂。
- ・佐藤慶幸，1991，『生活世界と対話の理論』文眞堂。
- ・佐藤慶幸，1994，「女性の社会参加 生活クラブ生協からのメッセージを読む」，原ひろ子／大沢真理／丸山真人／山本泰編，『ライブラリ相関社会学 2 ジェンダー』新世社，pp.108-120。
- ・佐藤慶幸，1996，『女性と協同組合の社会学 生活クラブからのメッセージ』文眞堂。
- ・佐藤慶幸，2007，『アソシエーティブ・デモクラシー 自立と連帯の統合へ』有斐閣。
- ・佐藤慶幸，2009，「現代社会とアソシエーション論」『社会運動』349:23-33。
- ・佐藤慶幸，2010，「協同組合の社会調査からみえてきた新しいコミュニティ」『社会と調査』5:113。
- ・佐藤慶幸編，1985，『生活クラブ生協の組合員の活動と意識に関する調査：日本における自発的結社の実証的研究 文部省科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書』。
- ・佐藤慶幸編，1986，『生活クラブ生協の活動的組合員の事例的調査』。
- ・佐藤慶幸編，1988，『女性たちの生活ネットワーク 生活クラブに集う人びと』文眞堂。
- ・佐藤慶幸編，1994，『新しい地域社会づくりのこころみ コミュニティクラブ生協組合員の意識と実態』。
- ・佐藤慶幸編，1996，『福祉社会を担う女性たち 福祉クラブ生協のワーカーズ・コレクティブ』。
- ・佐藤慶幸／天野正子／那須壽編，1995，『女性たちの生活者運動 生活クラブを支える人びと』マルジュ社。
- ・佐藤慶幸／大屋幸恵／今井千恵／伊藤美登里，1995，『新しい働き方 女性たちのワーカーズ・コレクティブ』。
- ・篠原一，1977，『市民参加』岩波書店。
- ・篠原一，1982，『ポスト産業社会の政治』東京大学出版会。
- ・篠原一編，1985，『ライブラリー・ポリティクス』総合労働研究所。
- ・渋谷敦司，1994，「地域社会研究とジェンダー」『地域社会学会年報』6:89-130。
- ・市民セクター政策機構編，2004，『21 世紀の「生活者」たちへ 岩根邦雄論述集』創土社。
- ・市民セクター政策機構編，2007，『国際協同組合研究年次報告書 進化する協同組合が未来をひらく 社会連帯経済と地域再生政策』生活クラブ事業連合生活協同組合連合会。
- ・市民セクター政策機構編，2009，「特集 『個人の時代』の運動・組織論への序章」『社会運動』349:2-33。
- ・下山保，2009，『異端派生協の逆襲 生協は格差社会の共犯者か』同時代社。
- ・社会運動研究会，1990，「調査研究・中間報告 保谷・生活者ネットワークの運動とその意味 地域における＜生活者＞の政治的主体性の確立過程」『社会運動』127:2-43。
- ・社会運動研究会，1992a，「＜新しいまちづくり＞からみた生活者ネットワーク運動」『社会運動』142:2-21。

- ・社会運動研究会, 1992b, 「<新しいまちづくり>からみた生活者ネットワーク運動(下)」『社会運動』143:2-23.
- ・白川真澄, 1997, 『脱国家の政治学 市民的公共性と自治連邦制の構想』社会評論社.
- ・白波瀬佐和子, 2005, 『少子高齢社会のみえない格差 ジェンダー・世代・階層のゆくえ』東京大学出版会.
- ・白鳥令／砂田一郎編, 1996, 『現代政党の理論』東海大学出版会.
- ・末川千穂子, 2001, 『虹のメッセージ』かもがわ出版.
- ・杉原名穂子, 2000, 「日本社会におけるジェンダーの再生産」, 宮島喬編, 『講座社会学 7 文化』東京大学出版会, pp.157-188.
- ・桂秀実, 2006, 『1968年』ちくま新書.
- ・鈴木岳, 2010, 「生協と社会運動のレビュー」『生活協同組合研究』417:34-41.
- ・鷲見一夫, 「『市民新党にいがた』は草の根民主主義の壮大な実験である」『週間金曜日』1995.1.13:24-25.
- ・住沢博紀, 1998, 「民主主義の行方 ローカル・パーティの可能性」『NIRA 政策研究』11(9):10-15.
- ・住沢博紀, 1999, 「日本の新しい組織とグループ 民主主義の行方とローカル・パーティを中心に」『生活経済政策』29:28-37.
- ・住沢博紀, 2002, 『自治体議員の新しいアイデンティティ 持続可能な政治と社会的共通資本としての自治体議会』イマジン出版.
- ・住沢博紀, 2004, 「地域政党と移行期の民主主義」『政策科学』11:21-40.
- ・生活協同組合研究編集部編, 2004, 『生活協同組合研究 特集: 変化する組合員の暮らし 全国生協組合員意識調査を活かすために』2004.2:4-46.
- ・生活クラブ神奈川“自分史”編集委員会, 1981, 『生き方を変える女たち』新泉社.
- ・生活クラブ事業連合生活協同組合連合会福祉事業連絡会, 2007, 『2007年度版 生活クラブ関連団体福祉事業データブック』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2005, 『第37回通常総代会議案書・別冊① 生活クラブ・東京 第4次長期計画(案)』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2005, 『第37回通常総代会議案書・別冊② 生活クラブ・東京 第4次長期計画(案) 第4章 地域福祉事業の展開について』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007, 『第39回通常総代会議案書Ⅰ』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007, 『第39回通常総代会議案書Ⅱ』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007, 『第39回通常総代会議案書別冊』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007, 『第39回 通常総代会議案書<別冊データ版>』.
- ・生活クラブ生活協同組合・東京, 2011, 「脱・無縁社会 『共に生きる地域』を私たちがつくる 生活クラブ生協・東京 組織運営資料」.
- ・生活クラブ生活協同組合北海道, 1983-2009, 『通常総代会議案書(各年度)』.
- ・生活クラブ生活協同組合北海道, 1989, 『一万人達成記念誌 いっしょや生活クラブ』.
- ・生活クラブ生活協同組合北海道, 1992, 『第四次中期3年計画 協同組合地域社会を目指して 1992年～1994年』.
- ・生活クラブ生活協同組合北海道, 1995, 『第五次中期3年計画 協同組合地域社会を目指して 1995年～1997年』.
- ・生活クラブ生活協同組合北海道, 1998, 『第六次中期3年計画 協同組合地域社会を目指して 1998年～2000年』.
- ・生活クラブ生活協同組合北海道, 2001, 『第七次中期3年計画 協同組合地域社会を目指して 2001年～2003年』.
- ・生活クラブ生協協同組合北海道, 2002, 『生活クラブ生活協同組合創立20周年記念誌 20歳 いっだって輝

いていたい』。

- ・生活クラブ生協協働組合北海道，2003，『2003 年度委員研修（2003.4.24） 「生活クラブの現在と未来（講師：河野栄次）」』。
- ・生活クラブ生活協同組合北海道，2004，『第八次中期3年計画 協同組合地域社会を目指して 2004年～2006年』。
- ・生活クラブ生活協同組合北海道，2007，『第九次中期3年計画 共同する地域社会を目指して』。
- ・生活クラブ事業連合生活協同組合連合会，2007a，『2007 年度 第18回生活クラブ連合会通常総会議案書』。
- ・生協総合研究所編，2007，「特集：非営利・協同の事業のこれから ワーカーズコレクティブを中心に」『生活協同組合研究』377:4-32。
- ・生協総合研究所編，2007b，「特集：組合員参加の新たな方向を探る」『生活協同組合研究』382:4-47。
- ・生協総合研究所編，2008a，「特集：金融をめぐる消費者問題と生協の生活再生事業」『生活協同組合研究』388:4-43。
- ・生協総合研究所編，2008b，「特集：非営利・協同組織の基盤整備」『生活協同組合研究』392:4-31。
- ・生協総合研究所編，2009a，「特集：経済危機とくらし」『生活協同組合研究』401:4-44。
- ・生協総合研究所編，2009b，「特集：生協組合員のくらしは今 全国調査から見えること」『生活協同組合研究』407:4-44。
- ・生協総合研究所編，2010，「特集：今日の社会・経済における組合員組織の検討課題」『生活協同組合研究』408:4-46。
- ・生活クラブ生協編，1978，『主婦の生協づくり 十万の主婦・十年の体験』三一書房。
- ・生活クラブ生協理事会事務局編，1992，『生活クラブってどんなクラブ 協同組合の基本的価値をめぐって』。
- ・生活クラブ生協連合会編，1995，『シンポジウム「食糧問題と生活協同組合の態度」の記録 食糧自給！生協は何をすべきか』リム出版新社。
- ・生協労連北海道地方連合会，1985，『生協労働者アンケート集計結果』。
- ・生源寺眞一，2011，『日本農業の真実』ちくま新書。
- ・盛山和夫，2000，『日本の階層システム4 ジェンダー・市場・家族』東京大学出版会。
- ・関口明男，2008，「コミュニティの再生を目指す福祉クラブ生協」『協同組合経営研究誌 にじ』623:79-87。
- ・関口明男，2009，「福祉クラブ生協はなぜ神奈川にしかないのか」福祉クラブ役職員用学習資料。
- ・第2回全国NPOバンクフォーラム実行委員会，2005，『2005年第2回全国NPOバンクフォーラム報告書 お金に意思を持たせよう』。
- ・第6回ワーカーズ・コレクティブ全国会議実行委員会編，2004，『第6回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 北海道 働きづくりまちづくり ワーカーズ・コレクティブが暖かい地域をつくる』。
- ・高杉晋吾，1988，『主婦が変われば社会が変わる ルポ・生活クラブ生協』海鳴社。
- ・高見優，1996，『市民新党にいがたの挑戦』白順社。
- ・竹内洋，2003，『教養主義の没落 変わりゆくエリート学生文化』中公新書。
- ・田中保他，1997，『木曾川を守る 一岐阜県御嵩町からの発信』実践社。
- ・田中秀樹，1998，『消費者の生協からの転換』日本経済評論社。
- ・田中夏子，2005，『イタリア社会的経済の地域展開』日本経済評論社。
- ・田中優編，2008，『おカネが変われば世界が変わる 市民が創るNPOバンク』コモンズ。
- ・田辺繁治／松田素二編，2002，『日常実践のエスノグラフィ 語り・コミュニティ・アイデンティティ』世界思想社。
- ・田畑総／大藪龍介／白川真澄／松田博編，2003，『アソシエーション革命へ 理論・構想・実践』社会評論社。
- ・たまごの会編，1979，『たまご革命』三一書房。
- ・玉野和志編，2006，『都市の構造転換とコミュニティの変容に関する実証的研究 平成15年度～平成17年度 科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書』。

- ・近本聡子, 2007, 「女性の就労と生協組合員の状況」『生活協同組合研究』379:48-53.
- ・筑紫哲也編, 2001, 『＜政治参加＞する 7 つの方法』講談社現代新書.
- ・地方議員政策研究会, 1998, 『地方から政治を変える』コモンズ.
- ・辻山幸宣, 2000, 「市民事業の担い手に関する一考察 ワーカーズ・コレクティブ調査から」『法学新報』107:29-43.
- ・坪内祐三, 2003=2006, 『一九七二 「はじまりのおわり」と「おわりのはじまり」』文春文庫.
- ・坪郷實, 1989, 『新しい社会運動と緑の党 福祉国家のゆらぎの中で』九州大学出版会.
- ・坪郷實, 2003, 「地域政治の可能性」, 坪郷實編, 『新しい公共空間をつくる 市民活動の営みから』日本評論社, pp.207-236.
- ・坪郷實編, 2003, 『新しい公共空間をつくる 市民活動の営みから』日本評論社.
- ・電通マーケティング局／電通総研, 1990, 『戦略的生活者 これからの市場を作る新集団パワー』プレジデント社.
- ・土井隆義, 2008, 『友だち地獄 「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書.
- ・東京生活者ネットワーク／東京の水を考える会, 1990, 『どうなっているの？東京の水 市民の手による水白書』北斗出版.
- ・土橋臣吾, 2006, 「家庭・主婦・ケータイ ―ケータイのジェンダー的利用―」, 松田美佐／岡部大介／伊藤瑞子編, 『ケータイのある風景 テクノロジーの日常化を考える』北大路書房, pp.181-199.
- ・共育協議会社会的経済共育企画実行チーム会議編, 2010, 『「福祉クラブ生協のはたすべき役割」 第 5 次 5 ャ年計画を推進する』福祉クラブ生活協同組合.
- ・共育協議会社会的経済共育企画実行チーム会議編, 2011, 『協同組合の立ち位置、今、地域社会とどのようにかわり、何をすべきか』福祉クラブ生活協同組合.
- ・鳥越皓之編, 2000, 『シリーズ環境社会学 1 環境ボランティア・NPO の社会学』新曜社.
- ・直井優／藤田英典編, 2008, 『講座社会学 13 階層』東京大学出版会.
- ・仲井斌, 1986, 『緑の党 ―その実験と展望―』岩波書店.
- ・永井清彦, 1983, 『緑の党 新しい民主の波』講談社現代新書.
- ・中川雄一郎編, 2000, 『生協は 21 世紀に生き残れるのか コミュニティと福祉社会のために』大月書店.
- ・中谷美穂, 2005, 『日本における新しい市民意識 ニュー・ポリティカル・カルチャーの台頭』慶應義塾大学出版会.
- ・中野剛志, 2011, 『TPP 亡国論』集英社新書.
- ・中村紀一編, 1976=2005, 『住民運動 “私” 論 実践者からみた自治の思想』創土社.
- ・中村剛, 2000, 『生活者が政治を変える可能性 市民ネットワーク北海道の分析を通して』1999 年度北海道大学大学院法学研究科リサーチペーパー.
- ・中村陽一, 1990, 「さくら・市民ネットにとっての清田選挙」『社会運動』122:15-31.
- ・中村陽一／21 世紀コープ研究センター編, 2004, 『21 世紀型生協論 生協インフラの社会的活用とその未来』日本評論社.
- ・那須尋編, 1991, 『生活クラブ生協に関する調査と考察』.
- ・那須尋編, 1993, 『生活者ネットワークに関する調査と考察』.
- ・新潟日報報道部編, 1997, 『原発を拒んだ町 巻町の民意を追う』岩波書店.
- ・西尾孝明, 1989, 「西欧社民の経験踏まえて連合を 求められる『生活者政治』の視点」『エコノミスト』1989.10.23:78-84.
- ・西城戸誠, 2002, 『抗議活動の盛衰に関する実証的研究 構造的・文化的アプローチからの展開』北海道大学大学院文学研究科博士学位論文.
- ・西城戸誠, 2004, 「ボランティアから反戦運動まで 社会運動の目標と組織形態」, 大畑裕嗣／成元哲／道場親

- 信／樋口直人編、『社会運動の社会学』有斐閣，pp.77-93.
- ・西城戸誠，2008a，『抗いの条件 社会運動の文化的アプローチ』人文書院.
 - ・西城戸誠，2008b，「生活クラブ生協北海道における社会運動の成果と連帯のゆくえ 動因構造と運動文化の観点から」『大原社会問題研究所雑誌』592:18-41.
 - ・西城戸誠，2008c，「生活クラブ生協・北海道による運動 社会運動の『停滞』『成果』と連帯のゆくえ」，西城戸誠，『抗いの条件 社会運動の文化的アプローチ』人文書院，pp.167-206.
 - ・西城戸誠／角一典，2005，「生活クラブ生協再考 ―生活クラブ生協の「衰退」をめぐる仮説群の整理―」『京都教育大学紀要』107:73-90.
 - ・西城戸誠／角一典，2006，「転換期における生活クラブ生協運動の現状と課題 生活クラブ生協北海道を事例として」『現代社会学研究』19:21-40.
 - ・西城戸誠／角一典，2007，『2006 年度 生活クラブ生協北海道組合員に関する調査報告書』.
 - ・西城戸誠／角一典，2009，「生活クラブ生協の『共同性』の現状と課題 戸別配送システム導入および組織改革後の生活クラブ生協北海道の事例を中心として」『年報社会学論集』22:150-161.
 - ・西城戸誠／角一典，2011a，「生活クラブ生協における戸別配送組合員によるリーダー創出過程に関する試論 『個』の時代における組織と運動」，生協総合研究所編，『第 7 回生協総研賞・研究奨励助成事業研究論文集』，pp.56-72.
 - ・西城戸誠／角一典，2011b，『「個」の時代におけるコミュニティと生協』『まちと暮らし研究』12:40-45.
 - ・西城戸誠／古屋将太，2008，「市民風車事業・運動の現在と今後の展開」『人間環境論集』8(1):37-60.
 - ・西村一郎，2005，『雇われないで働くワーカーズという働き方』コープ出版.
 - ・西山志保，2005=2007，『〔改訂版〕ボランティア活動の論理 ボランティアリズムとサブシステム』東信堂.
 - ・似田貝香門／大森彌／永井進編，1976，『地域開発と住民運動 社会的コンフリクトの分析と対応の諸問題』フジ・テクノシステム.
 - ・仁平典宏，2005，「ボランティア活動とネオリベリズムの共振問題を再考する」『社会学評論』56(2):485-499.
 - ・日本生活協同組合連合会編，『生協運営資料 特集：組合員活動と専従者の役割』『生協運営資料』115:63-137.
 - ・日本生活協同組合連合会，2001，『現代日本生協運動史・資料集 1～3』日本生活協同組合連合会.
 - ・日本生活協同組合連合会，2002，『現代日本生協運動史（上・下）』日本生活協同組合連合会.
 - ・日本生活協同組合連合会，2003，『2003 年度全国生協組合員意識調査報告書』.
 - ・日本生活協同組合連合会会員支援本部，2005，『生協の経営統計 〈2004 年度〉』コープ出版.
 - ・日本比較政治学会編，2010，『日本比較政治学会年報 12 都市と政治的イノベーション』ミネルヴァ書房.
 - ・ネットワーキング研究会編，1991，『生活クラブを支える人々 専従職員の意識と実態』.
 - ・萩原なつ子，2001，「ジェンダーの視点で捉える環境運動 エコフェミニズムの立場から」，長谷川公一編，『講座環境社会学 4 環境運動と政策のダイナミズム』有斐閣，pp.35-64.
 - ・秦正雄，2007，「事業プロセスへの組合員の参加 ―コープこうべにおける取り組み」『生活協同組合研究』382:20-25.
 - ・畑山敏夫／山田達也，1995，「対談 地域政党、出発！」『世界』606:100-112.
 - ・畑山敏夫／平井一臣編，『実践の政治学』法律文化社.
 - ・畑山敏夫／丸山仁編，2004，『現代政治のパースペクティヴ 欧州の経験に学ぶ』法律文化社.
 - ・林和孝，2003，「福祉ボランティアがつくる新しい関係とは」，坪郷實編，『新しい公共空間をつくる 市民活動の営みから』日本評論社，pp.129-155.
 - ・パル 80 倶楽部，2007，『100 万人の人間力 パルシステム急成長の舞台裏』彩雲出版.
 - ・番場博之／千葉商科大学生協編，2007，『生協の本 国内最大級の流通業についてみんなが知りたいこと』コープ出版.

- ・樋口兼次, 2005, 『労働資本とワーカーズ・コレクティブ』時潮社.
- ・樋口直人, 2004, 「政治地図の変容とプロト・コミュニティ 社会運動の新たな可能性」『季刊ピープルズプラン』28:130-138.
- ・樋口直人／伊藤美登里／田辺俊介／松谷満, 2008, 「アクティヴィズムの遺産はなぜ相続されないのか 日本における新しい社会運動の担い手をめぐって」『アジア太平洋レビュー』5:53-67.
- ・広井良典, 2001, 『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』岩波新書.
- ・広井良典, 2006, 『持続可能な福祉社会 「もうひとつの日本」の構想』ちくま新書.
- ・広井良典, 2009, 『コミュニティを問いなおす つながり・都市・日本社会の未来』ちくま新書.
- ・広井良典, 2010, 「現代社会におけるコミュニティを見る視点」『生活協同組合研究』408:12-18.
- ・廣島清志, 1999, 「結婚と出生の社会人口学」, 目黒依子／渡辺秀樹編, 『講座社会学 2 家族』東京大学出版会, pp.21-57.
- ・フォーラム 90s 研究委員会編, 1998, 『20 世紀の政治思想と社会運動』社会思想社.
- ・福士正博, 2001, 『市民と新しい経済学 環境・コミュニティ』日本経済評論社.
- ・福祉クラブ生活協同組合編, 2005, 『ワーカーズコレクティブ 地域に広がる福祉クラブの助け合い』中央法規.
- ・藤井敦史, 1996, 「ニューポリティクス的な運動政党としての代理人運動」『社会運動』192:2-20.
- ・藤井敦史, 2009, 「国際的な社会的企業の潮流から考える協同組合の進むべき道」『社会運動』349:3-13.
- ・藤井良広, 2007, 『金融 NPO 新しいお金の流れをつくる』岩波新書.
- ・藤野啓二, 2007, 「パルシステムのインターネットを通じた組合員参加」『生活協同組合研究』382:32-38.
- ・二村睦子, 2007, 「『組合員参加に関する提言』の概要と今後の課題」『生活協同組合研究』382:13-19.
- ・古沢広祐, 2003, 「グローバリゼーション時代の食・農・環境と循環型社会 大地と人間をめぐる社会編成の動き」『環境社会学研究』9:5-21.
- ・北海学園大学経済学部／コープさっぽろ寄附講座運営委員会監修, 2008, 『北海道の将来を展望する I』^{デザイン}中西出版.
- ・北海道 NPO バンク編, 2007, 『NPO バンクを活用して起業家になろう! 組織作りから資金調達まで』昭和堂.
- ・北海道 NPO バンク／NPO バンク事業組合, 2004, 『おしえて! NPO バンク』.
- ・北海道 NPO バンク／NPO バンク事業組合, 2006, 『NPO バンク関連掲載記事』.
- ・北海道グリーンファンド監修, 1999, 『グリーン電力 市民発の自然エネルギー政策』コモンズ.
- ・星野智, 1992, 『現代国家と世界システム』同文館.
- ・星野ゆき路／北沢典子／山口浩平, 2009, 「パルシステム東京市民活動助成基金の 10 年 『ともに生きる社会』の糸口として」『生活協同組合研究』403:59-64.
- ・本阿弥早苗, 2007, 「パルシステム発 地域へ ―アクティブシニアと生協の未来―」『生活協同組合研究』378:31-37.
- ・本田由紀編, 2004, 『女性の就業と親子関係 母親たちの階層戦略』勁草書房.
- ・前田陽子, 2000, 「鎌倉市における緑地保全と市民活動」『環境社会学研究』6:217-220.
- ・榊渥俊子／松村和則編, 2002, 『シリーズ環境社会学 5 食・農・からだの社会学』新曜社.
- ・又木京子, 1991, 「自治する市民作りの為のミニ・フォーラム」『社会運動』141:2-15.
- ・松浦恵理子, 2004, 「生活クラブ福祉事業交流会報告 地域の力でつくり出す市民事業と福祉政策」『社会運動』290:67-71.
- ・松下圭一, 1985, 『市民文化は可能か』岩波新書.
- ・松下圭一, 1990, 『政策型思考と政治』東京大学出版会.

- ・松原治郎, 1978, 『コミュニティの社会学』 東京大学出版会.
- ・松宮朝, 2001a, 「『内発的発展』概念をめぐる諸問題 内発的発展論の展開に向けての試論」『愛知県立大学社会福祉研究』 3(1):45-54.
- ・松宮朝, 2001b, 「農村地域における『内発的発展』の実証的アプローチ 北海道道央大規模水田地帯を事例として」『愛知県立大学社会福祉研究』 3(2):33-49.
- ・松谷清, 1995, 「ローカル・パーティが地方を変える」『週間金曜日』 1995.1.13:26-27.
- ・丸山仁, 1988, 「西独政党システムと『緑の党』(一) グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』 122:137-201.
- ・丸山仁, 1989, 「西独政党システムと『緑の党』(二) グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』 124:379-427.
- ・丸山仁, 1991, 「新しい社会運動と『緑』の政党 グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』136:1-44.
- ・丸山仁, 1993, 「オルタナティブ政党としての緑の党 グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』 146:103-150.
- ・丸山仁, 1997, 「『新しい政党』と政党論の新展開」『アルテスリベラレス』 60:167-195.
- ・丸山仁, 2004, 「社会運動から政党へ? ドイツ緑の党の成果とジレンマ」, 大畑裕嗣/成元哲/道場親信/樋口直人編, 『社会運動の社会学』 有斐閣, pp.197-212.
- ・三浦展, 2005, 『下流社会 新たな階層集団の出現』 光文社新書.
- ・水口剛, 2005, 『CSR 入門講座 5 社会的責任投資 (SRI) の基礎知識』 日本規格協会.
- ・道場親信, 2004, 「初期生活クラブ運動における『地域』『社会運動』『政治』『社会運動』 286:6-16.
- ・道場親信, 2006, 「1960-70 年代『市民運動』『住民運動』の歴史的位罫 中断された『公共性』論議と運動史的文脈をつなぎ直すために」『社会学評論』 57(2):240-258.
- ・宮台真司, 1994, 『制服少女たちの選択』 講談社.
- ・宮台真司/石原英樹/大塚明子, 1993, 『サブカルチャー神話解体 少女・音楽・マンガ・性の 30 年とコミュニケーションの現在』 パルコ出版.
- ・牟田和恵, 2006, 「フェミニズムの歴史からみる社会運動の可能性 『男女共同参画』をめぐる状況を通しての一考察」『社会学評論』 57(2):292-310.
- ・村上彰一, 2010, 「人と人との関係性を構築する生協づくり 生活クラブ生協・東京の実践」『生活協同組合研究』 408:26-32.
- ・目黒依子, 1999, 「総論 日本の家族の『近代性』 変化の収斂と多様化の行方」, 目黒依子/渡辺秀樹編, 1999, 『講座社会学 2 家族』 東京大学出版会 pp.1-19.
- ・目黒依子/渡辺秀樹編, 1999, 『講座社会学 2 家族』 東京大学出版会.
- ・本山美彦, 2008, 『金融権力 グローバル経済とリスク・ビジネス』 岩波新書.
- ・森元孝, 1994, 「池子米軍家族住宅建設反対運動に見る今日の<転換点> 一九八七年市長選後の面接調査結果から」『地域社会学年報』 6:133-166.
- ・森元孝, 1995, 『逗子の市民運動』 御茶の水書房.
- ・森元孝, 2000, 「“普通の主婦”と環境ボランティア 逗子の市民運動から」, 鳥越皓之編, 『シリーズ環境社会学 1 環境ボランティア・NPO の社会学』 新曜社, pp.62-80.
- ・柳下信宏, 2009, 「個人の時代の組織づくり試論 生産者交流会の実践から」『社会運動』 349:14-22.
- ・矢澤修次郎編, 2003, 『講座社会学 15 社会運動』 東京大学出版会.
- ・矢澤澄子, 1996, 「現代都市と女性のエンパワーメント 都市・ジェンダー・権力の組織化をめぐる」『経済と社会』 24:1-27.
- ・矢澤澄子, 1999, 「女たちの市民運動とエンパワーメント ローカルからグローバルへ」, 鎌田とし子/矢澤澄

- 子／木本喜美子編、『講座社会学 14 ジェンダー』東京大学出版会，pp.249-289.
- ・矢澤澄子編，1993，『都市と女性の社会学 ―性役割の揺らぎを超えて―』サイエンス社.
 - ・矢澤澄子／国広陽子／伊藤真知子，1992，「都市女性と政治参加のニューウェーブ NET 代理人運動の調査から」『経済と貿易』161:1-33.
 - ・矢澤澄子／国広陽子，1996，「生活圏政治とジェンダー 代理人運動参加者とその夫たちの調査から」『東京女子大学紀要論集』47(1):97-121.
 - ・矢澤澄子／国広陽子／天童睦子，1999，「現代の父親の子育て意識と『父親アイデンティティ』 30 代～40 代の父親のライフスタイル調査から」『経済と社会』27:17-40.
 - ・山岸俊男，2009，「集団内協力と集団間攻撃 最小条件集団実験の意味するもの」『レヴアイアサン』44:22-46.
 - ・山北章，1983，「『生活者政治』の試み 長洲神奈川県政の軌跡」『現代の理論』36(5):32-46.
 - ・山寄哲哉，1996，「女性の政治参画と＜生活者政治＞の可能性 その 1. 女性市区議会議員の現状（前編）」『武蔵大学人文学会雑誌』27(3):105-126.
 - ・山田達也，『『地域政党』の動向』『都市問題』85(7):57-67.
 - ・山田昌弘，2004=2007，『希望格差社会 「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』ちくま文庫.
 - ・山田真茂留，2000，「若者文化の析出と融解 文化志向の終焉と関係嗜好の高揚」，宮島喬編，『講座社会学 7 文化』東京大学出版会，pp.21-56.
 - ・行岡良治，2002，『食べもの運動論』太田出版.
 - ・行岡良治，2004，『しなやかな生協への挑戦 続・食べもの運動論』太田出版.
 - ・横沢善夫，2008，「改正貸金業と東京都における生活再生支援事業」『生活協同組合研究』388:25-31.
 - ・横沢善夫，2011，「貧困への転落を救う生活サポート基金の取組み 日本版マイクロファイナンスの実践と課題」『月刊消費者信用』334:35-42.
 - ・横田克巳，1988，『自治総研ブックレット 7 都市生活者のオルタナティブ 共同購入運動とワーカーズコレクティブ』地方自治総合研究所.
 - ・横田克巳，1989，『オルタナティブ市民社会宣言 もうひとつの「社会」主義』現代の理論社.
 - ・横田克巳，1992，『参加型市民社会論』現代の理論社.
 - ・横田克巳，2002，『愚かな国の、しなやか市民 女性たちが拓いた多様な挑戦』ほんの木.
 - ・横山桂次，1990，『地域政治と自治体革新』公人社.
 - ・吉田寛一／渡辺基／大木れい子／西山泰男編，2006，『食と農を結ぶ協同組合』筑波書房.
 - ・寄本勝美編，2001，『公共を支える民 市民主権の地方自治』コモンズ.
 - ・ワーカーズコレクティブ生活工房まちまち，1995，『組合員基本調査アンケート報告書』.
 - ・若林靖永，2007，「生協事業の変化と組合員参加の課題」『生活協同組合研究』382:5-12.
 - ・若林幹夫，2007，『郊外の社会学 現代を生きる形』ちくま新書.
 - ・渡辺登，1990，「さくら・市民ネットワークの形成と現状」『社会運動』122:2-14.
 - ・渡辺登，1991，「地方政治における『生活者政治』の可能性 ―『代理人』運動の分析を通して―」『都市問題』82(10):71-87.
 - ・渡辺登，1995，「『生活者政治』の現状とその意味 代理人運動の分析から」『都市問題』86(7):69-82.
 - ・Albert, M., 1991, *Capitalisme contre Capitalisme*, Paris: Seuil. (=久水宏之監修／小池はるひ訳，1992，『資本主義対資本主義』竹内書店新社).
 - ・Baker, W., 2000, *Achieving Success through Social Capital*, San Francisco: Jossey-Bass Inc.. (=中島豊訳，2001，『ソーシャル・キャピタル 人と組織の間にある「見えざる資産」を活用する』ダイヤモンド社).
 - ・Barry, J., 1999, *Rethinking Green Politics*, London: SAGE.

- ・ Bauman, Z., 1998=2005, *Work, Consumerism and the New Poor*, 2nd edition, Open University Press. (=伊藤茂訳, 2008, 『新しい貧困 労働、消費主義、ニュープア』 青土社).
- ・ Bauman, Z., 2001, *Community: Seeking Safety in an Insecure World*, Polity Press. (=奥井智之訳, 2008, 『コミュニティ 安全と自由の戦場』 筑摩書房)
- ・ Beck, U., 1986, *Risikogesellschaft Auf dem Weg in eine andere Moderne*, Shurkamp. (=東廉／伊藤美登里訳, 1998, 『危険社会 新しい近代への道』 法政大学出版局).
- ・ Beck, U., 1997, *Weltrisikogesellschaft: Weltoffenheit und Globale Subpolitik*, Wien: Picus Verlag. (=島村賢一訳, 2003, 「世界リスク社会、世界公共性、グローバルなサブ政治」『世界リスク社会論 テロ、戦争、自然破壊』 平凡社, pp.19-63)
- ・ Beck, U., 2002, *Das Schweigen der Worte: Über Terror und Krieg*, Suhrkamp, Frankfurt a. M. (=島村賢一訳, 2003, 『世界リスク社会論 テロ、戦争、自然破壊』 平凡社, pp.65-141)
- ・ Beck, U., Giddens, A., and Lash, S., 1994, *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Cambridge: Polity Press. (=松尾精文／小幡正敏／叶堂隆三訳, 1997, 『再帰的近代化 近現代における政治、伝統、美的原理』 而立書房).
- ・ Berger, S., 1979, Politics and Antipolitics in Western Europa in the Seventies, *DAEDARUS* 108:27-50.
- ・ Bourdieu, P., et Passeron, J. C., 1970, *La Reproduction: Elements pour une Theorie du Systeme D'enseignement*, Paris: Minuit. (=宮島喬訳, 1990, 『再生産』 藤原書店).
- ・ Chandler, W.M., & Siaroff, A., 1986, Postindustrial Politics in Germany and the Origins of the Greens, *Comparative Politics* 19(2):303-325.
- ・ Chaves, M., Stephens L. and Galaskiewicz, J., 2004, Does Government Funding Suppress Nonprofits' Political Activity?, *American Sociological Review* 69(2):292-316.
- ・ Dahrendorf, R., 1992, *Der Moderne Soziale Konflikt: Essay zur Politik der Freiheit*, Stuttgart: Deutsche Verlags-Anstalt. (=加藤秀治郎／檜山雅人訳, 2001, 『現代の社会紛争』 世界思想社).
- ・ Dobson, A., 1990=1995, *Green Political Thought (2nd edition)*, London: Unwin Hyman. (松野弘監訳／来栖聡／池田寛二／丸山正次訳, 2001, 『緑の政治思想 エコロジズムと社会変革の理論』 ミネルヴァ書房).
- ・ Dowling, C., 1981, *The Cinderella Complex: Women's Hidden Fear of Independence*, Summit Books. (=柳瀬尚紀訳, 1990, 『シンデレラコンプレックス 自立にとまどう女の告白』 三笠書房).
- ・ Ebermann, T. and Trampert, R., 1984, *Die Zukunft der Grünen, Konkret Literature*, Hamburg. (田村光彰他訳, 1994, 『ラディカル・エコロジー ドイツ緑の党原理派の主張』 社会評論社).
- ・ Gramsci, A., 1987, *Le Sue Idee nel Nostro Tempo*, Roma: l'Unita S.p.a.. (=坂井信義／大久保昭男訳, 1987, 『君はグラムシを知ってるか?』 リベルタ出版).
- ・ Goldman, L., 1970, *Marxisme et Sciences humaines, Collection Idees*, Paris: Gallimard. (=川俣晃自訳, 1973, 『人間の科学とマルクス主義』 紀伊國屋書店).
- ・ Gorz, A., 1967, *Le Socialisme Difficile*, Paris: Seuil. (上杉聰彦訳, 1969, 『困難な革命』 合同出版).
- ・ Hamilton, E., 1992, *Adult Education for Community Development*, Greenwood. (=田中雅文／笹井宏益／広瀬隆人訳, 2003, 『成人教育は社会を変える』 玉川大学出版部).
- ・ Hay, P.R., and Haward M.G., 1988, Comparative Green Politics: Beyond the European Context?, *Political Studies* 36:433-448.
- ・ Hirschman, A.O., 1982, *Shifting Involvements: Private Interest and Public Action*, New Jersey: Princeton University Press. (=佐々木毅／杉田敦訳, 1988, 『失望と参画の現象学 私的利益と公的行為』 法政大学出版局).
- ・ Illich, I., 1981, *Shadow Work*, London: Marion Boyers. (=玉野井芳郎／栗原彬訳, 1982, 『シャドウ・ワー

ク 生活のあり方を問う』岩波現代選書).

- Kriesi,H.,R.Koopmans,J.W.Duyvendak,M.G.Giugni, 1992, New Social Movements and Political Opportunities in Western Europa, *European Journal of Political Research* 22:219-44.
- Kriesi,H., 1996, The Organizational Structure of New Social Movements in a Political Contexts, McAdam,D. and McCarthy,M.N.Zald(eds.), *Comparative Perspective on Social Movements: Political Opportunities, Mobilising Structures and Cultural Framings*, Cambridge pp.152-184.
- Kunovich, S., & Paxton, P., Pathways to Power :The Role of Political Parties in Women's National Political Representation, *American Journal of Sociology* 111(2):505-552.
- Laclau, E., and Mouffe, C., 1985, *Hegemony and Socialist Strategy: Toward a Radical Democratic Politics*, London: Verso. (=山崎カヲル／石澤武訳, 1992, 『ポスト・マルクス主義と政治 根源的民主主義のために』大村書店).
- Les Verts, 1999, *Le Nouveau Livre du Verts*, Paris: Felin. (=真下俊樹訳, 2001, 『緑の政策事典』緑風出版).
- Les Verts, 2002, *Reconstituer l'espoir ! En Vert et a gauche: L'ecologie, l'egalite, la citoyennete*, Paris: Aube. (=若森章孝／若森文子訳, 2004, 『緑の政策辞典』緑風出版).
- Lipietz, A., 1993, *Vert Esperance: L'avenir de L'ecologie Politique*, Paris: La Decouverte. (=若森章孝／若森文子訳, 1994, 『緑の希望 政治的エコロジーの構想』社会評論社).
- Lipietz, A., 1999, *Qu'est-ce que l'ecologie politique?: La Grande transformation du XXI^e siecle*, Paris: Edition La Decouverte.& Syros. (=若森文子訳, 2000, 『政治的エコロジーとは何か フランス緑の党の政治思想』緑風出版).
- Marwell, N.P., 2004, Privatizing the Welfare State: Nonprofit Community Organizations as Political Actors, *American Sociological Review* 69(2):265-291.
- McAdam,D. and McCarthy, M.N.Zald (eds.), 1996, *Comparative Perspective on Social Movements: Political Opportunities, Mobilising Structures and Cultural Framings*, Cambridge.
- MacPherson, I., *Resuponding, Remembering, Restructuring*, Victoria, Canada: New Rochdale Press. (市民セクター政策機構編【訳】, 2009, 『向き合い、こだわり、創りだそう 世界から見た生活クラブ運動の価値』生活クラブ事業連合生活協同組合連合会).
- Mellor,M.,Hannah,J.,Stirling,J., 1988, *Worker Cooperatives in Theory and Practice*, Milton Keynes: Open University Press. (=佐藤紘毅／白井和宏訳, 1992, 『ワーカーズ・コレクティブ その理論と実践』緑風出版).
- Moreau, J., 1994, *L'Economie Sociale: Face a L'Ultra Liberalism*, Paris: Syros. (=石塚秀雄／中久保邦夫／北島健一訳, 1996, 『社会的経済とはなにか 新自由主義を超えるもの』日本経済評論社).
- Muller-Rommel,F., 1989, *New Politics in Western Europa: The Rise and Success of Green Parties and Alternative Lists*, Boulder: Westview Press.
- Petrini, C., 2005, *Buono, Pulito e Giusto*, Torino: Giulio Einaudi editore S.p.A.. (=石田雅芳訳, 2009, 『スローフードの奇跡 おいしい、きれい、ただしい』三修社).
- Pranger,R.J., 1968, *The Eclipse of Citizenship: Power and Participation in Contemporary Politics*. (=佐藤/橋/肥田/山口訳, 1972, 『現代政治における権力と参加』勁草書房).
- Putnam,R.D.,1993,*Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, New Jersey: Princeton University Press. (=河田潤一訳, 2001, 『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』NTT 出版).
- Sartori, G., 1976, *Parties and Party Systems, vol.1*, London: Cambridge University Press. (=岡沢憲英／川野秀之訳, 1992, 『現代政党学 政党システム論の分析枠組み〔新装版〕』早稲田大学出版部).
- Schloser, E., 2001, *Fast Food Nation*, New York: Houghton Mifflin Company. (=楡井浩一訳, 2001, 『ファ

- ストフードが世界を食いつくす』草思社).
- Schloser, E., 2006, *Chew on This: Everything You Don't Want to Know about Fast Food*, New York: Houghton Mifflin Company. (=宇丹貴代実訳, 2007, 『おいしいハンバーガーのこわい話』草思社).
 - Sen, A., 1987, *On Ethics and Economics*, Blackwell.(=徳永澄憲／松本保美／青山治城, 2002, 『経済学の再生 道徳哲学への回帰』麗澤大学出版会).
 - Sen, A., 1992, *Inequality Reexamined*, Oxford: Oxford University Press. (=池本幸生／野上裕生／佐藤仁訳, 1999, 『不平等の再検討 潜在能力と自由』岩波書店).
 - Sen, A., 1999, *Development as Freedom*, New York: Alfred A. Knopf. (=石塚雅彦訳, 2000, 『自由と経済開発』日本経済新聞出版社).
 - Sen, A., 1999, *Reason before Identity: The Romanes Lecture for 1998*, Oxford University Press (=細見和志訳, 2003, 『アイデンティティに先行する理性』関西学院大学出版会).
 - Skocpol, T., 2003, *Diminished Democracy: From Membership to Management in American Civic Life*, Norman, University of Oklahoma Press. (=河田潤一訳, 2007, 『失われた民主主義 メンバーシップからマネージメントへ』慶應義塾大学出版会).
 - Spretnak, C. and Capra, F., 1984, *Green Politics*, London: Paladin. (=吉福伸逸／田中三彦／鶴田栄作訳, 1992, 『新装版 グリーン・ポリティクス 緑の政治学』青土社).
 - Tarrow, S., 1994=1998, *Power in Movement: Social Movement and Contentious Politics, 2nd edition*, Cambridge University Press. (=大畑裕嗣監訳, 2006, 『社会運動の力 集合行為の比較社会学』彩流社).
 - Touraine, A., 1978, *La voix et le regard: Sociologie permanente 1*, Paris: Seuil. (=梶田孝道訳, 1983, 『声とまなざし 社会運動の社会学』新泉社).
 - Touraine, A., 1980, *L'Après-Socialisme*, Paris: Grasset et Fasquelle. (=平田清明／清水耕一訳, 1982, 『ポスト社会主義』新泉社).
 - Touraine, A., Hegedus Z., Dubet F. and Wieviorka M., 1980, *La Prophétie Anti-Nucléaire*, Paris: Editions du Seuil. (=伊藤るり訳, 1984, 『反原子力運動の社会学 未来を予言する人々』新泉社).
 - Touraine, A., Dubet F., Hegedus Z. and Wieviorka M., 1981, *Le Pays Contre l'Etat: Luttres Occitanes*, Paris: Editions du Seuil. (=宮島喬訳, 1984, 『現代国家と地域闘争 フランスとオクシタニー』新泉社).
 - Yunus, M., 2007, *Creating a World Without Poverty*, PublicAffairs, USA. (=猪熊弘子訳, 2008, 『貧困のない世界を創る ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』早川書房).
 - Wagschal, H., 1997, Direct Democracy and Public Policymaking, *Journal of Public Policy* 17(3):223-245.
 - Weber, K. ed., 2010, *Food, Inc.*, USA, Public Affairs, a member of Perseus Books Inc.. (=中小路佳代子訳, 2010, 『フード・インク ごはんがあぶない』武田ランダムハウスジャパン).

<執筆者>

西城戸 誠（法政大学人間環境学部・准教授）

角 一典（北海道教育大学旭川校・准教授）

<調査協力>

生活クラブ生協・東京

生活クラブ生協・東京組合員に関するアンケート
（2010 年）報告書

2011 年 11 月 30 日発行

編集 西城戸誠・角一典

発行 法政大学人間環境学部

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9793

FAX:03-3464-9663
